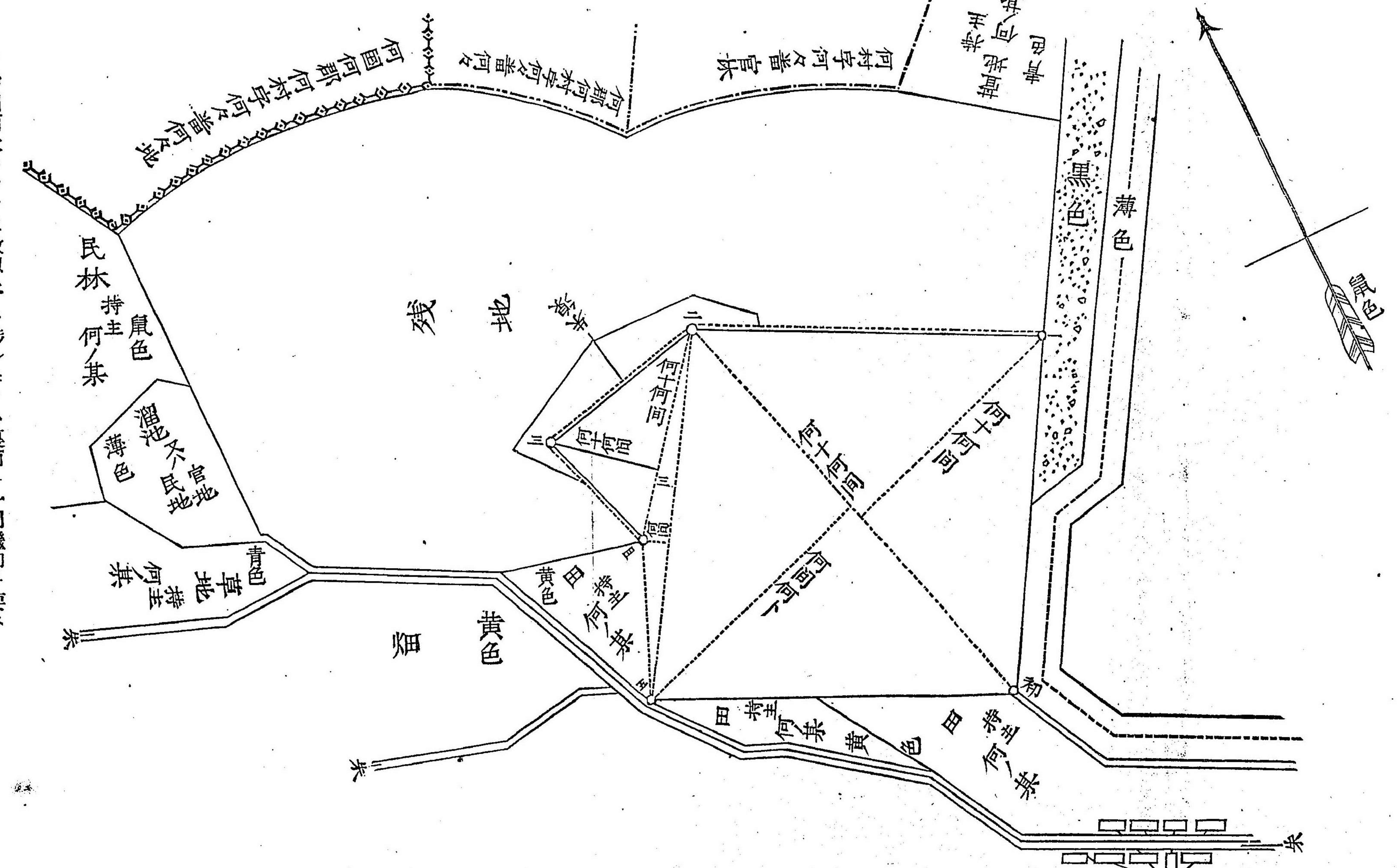


分裂拂下及借地願ノ雛形  
何國何郡何町字何何番何何番何々願地圖

年 月 日

- 一何千何百何拾坪
- 二何百何拾坪
- 三何百何拾坪
- 合計何千何百何拾坪
- 此反別何反何畝何步
- 但一間曲尺何分縮圖



繪圖面大ニシテ二枚以上ニシテルモノハ裏面一同織印ヲ要ス

鼠	薄	鼠	鼠	青	黄										
堤	川溝渠溜池	道	人家	砂地	山	菅地	草地	田	畑	國	郡	村	字	持	殘
塘		路		地	林					界	界	界	界	界	界

願地 三斜線 測點 殘地 持主 字界 村界 郡界 國界 田畑 菅草地 山林 砂地 人家 道路 溜池 堤塘

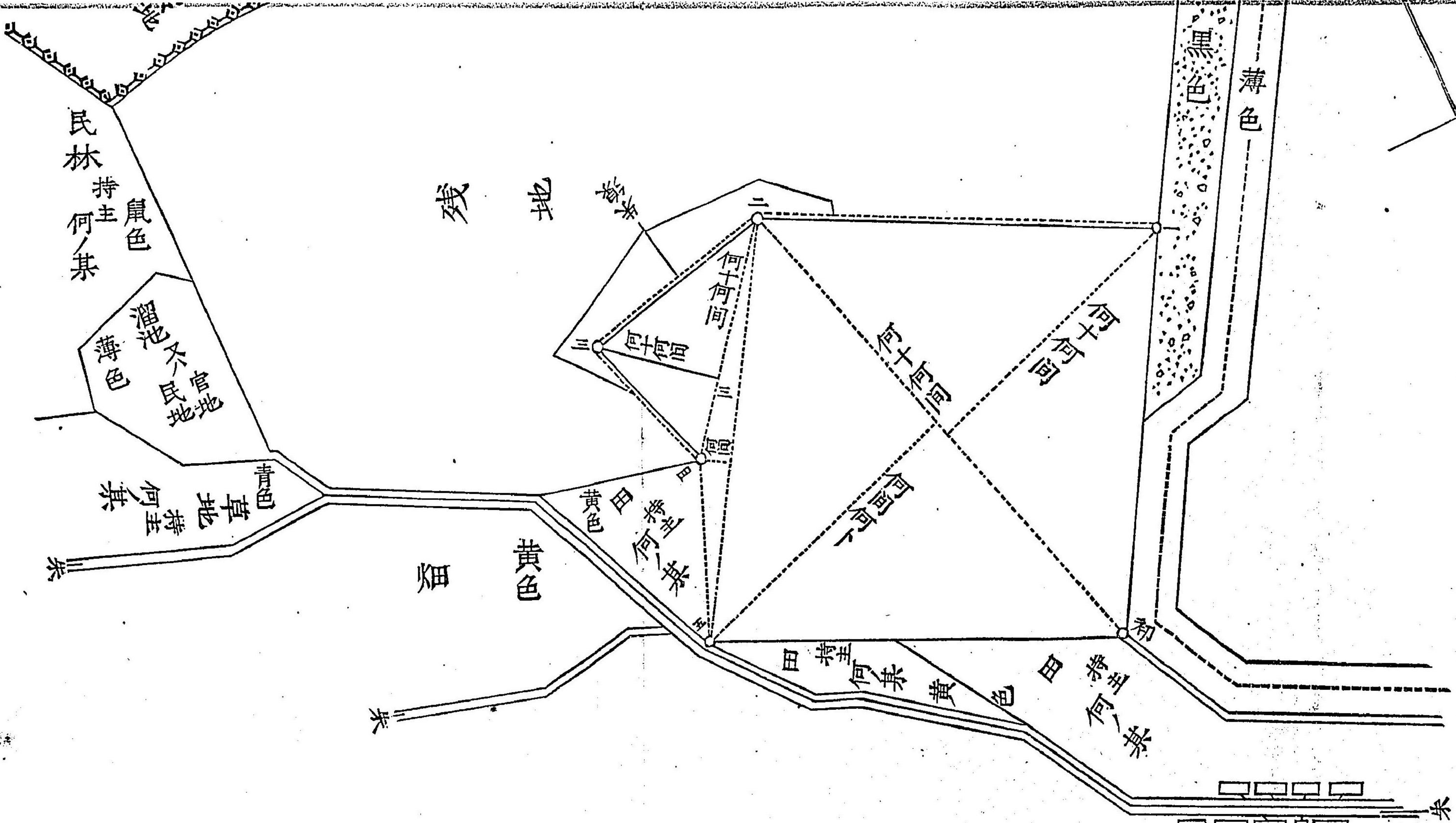
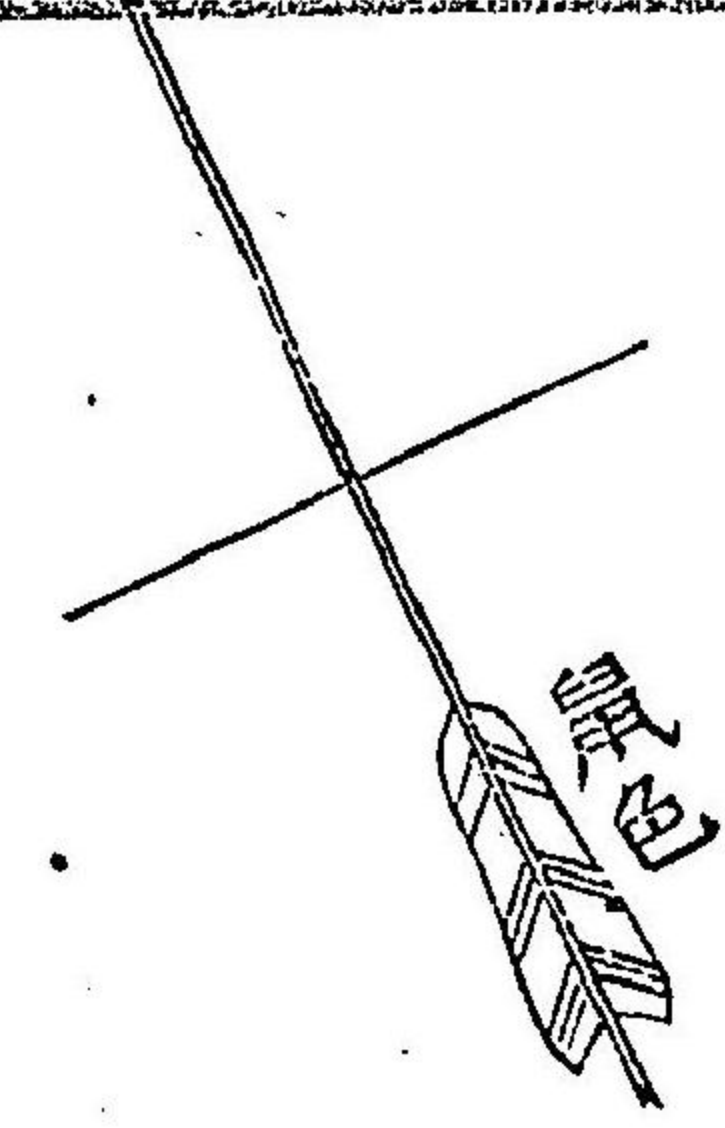
願地村人 隣地村主 何村 何村總代 同村代 何長村 鼠色 何長村 本村ヲ距ル凡ソ何里

隣地ニ關スル該村ノ戸長 地元戸長調 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏 氏

他村ト雖上ハ其持主調 隣地官有地 村界ニ關ス 總代ノ者調 氏 氏 氏 氏

願ノ雛形  
何町字何番何何番何々願地圖

一何千何百何拾坪  
二何百何拾坪  
三何百何拾坪  
合計何千何百何拾坪  
此反別何反何畝何步  
但一間曲尺何分縮圖



ハニシテ二枚以上ニ涉ルモノハ裏面ヘ一同織印ヲ要ス



願地  
三斜線  
測點  
殘地界  
持主界  
字界  
村界  
郡界  
國界  
田畑  
菅草地  
山林  
砂地  
人家  
道路  
川溝渠溜池  
堤塘

願地主人 氏名印  
隣地持主 氏名印  
何村 氏名印  
同村總代 氏名印  
同村 氏名印  
何長村 氏名印  
鼠色 氏名印  
何長村 氏名印  
本村ヲ距ル凡ソ何里何丁

隣地官有地ニシテ他村トノ  
村界ニ關スルモノハ其地村  
總代ノ者調印スヘシ

地元戸長調印スヘシ

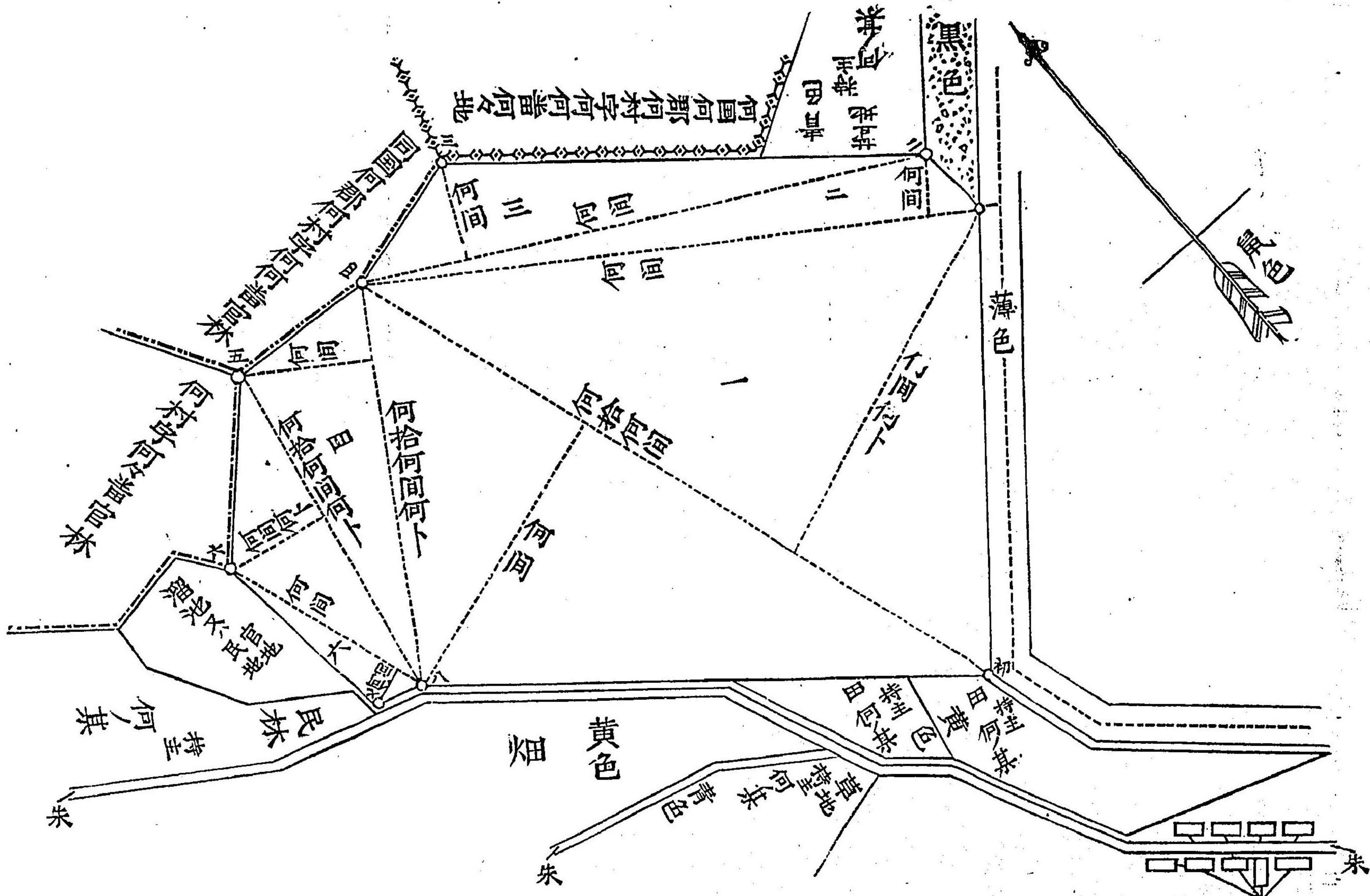
隣地他村ニ接スルモノハ村  
界ニ關スルヲ以テ其地所ノ  
官地ト民地トヲ問ハス總テ  
該村ノ戸長調印スヘシ

全地拂下及借地願ノ雛形

何國何郡何村何字何々番何々願地圖

年 月 一日

- 一何百何拾何坪何合
- 二何百何拾何坪何合
- 三何百何拾何坪何合何勺
- 四何拾何坪何勺
- 五何拾何坪何勺
- 六何拾何坪
- 合計何百何拾何坪
- 此反別何反何畝何步
- 在壹間曲尺何分縮圖



繪圖面大ニシテ二枚以上ニ渉ルモノハ裏面ニ一何繼印ヲ要ス

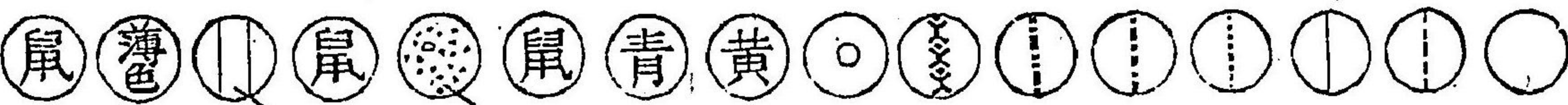
願地人主  
何村持主  
同村  
同村  
一何村總代  
同村  
何村

隣地官有地ニ  
村界ニ關スル  
總代ノ者調印

地元戸長調印  
氏

隣地他村ト接  
界ニ關スルチ  
官地ノ民地ト  
該村ノ戸長調

本村ヲ距ル凡ソ何里何  
氏

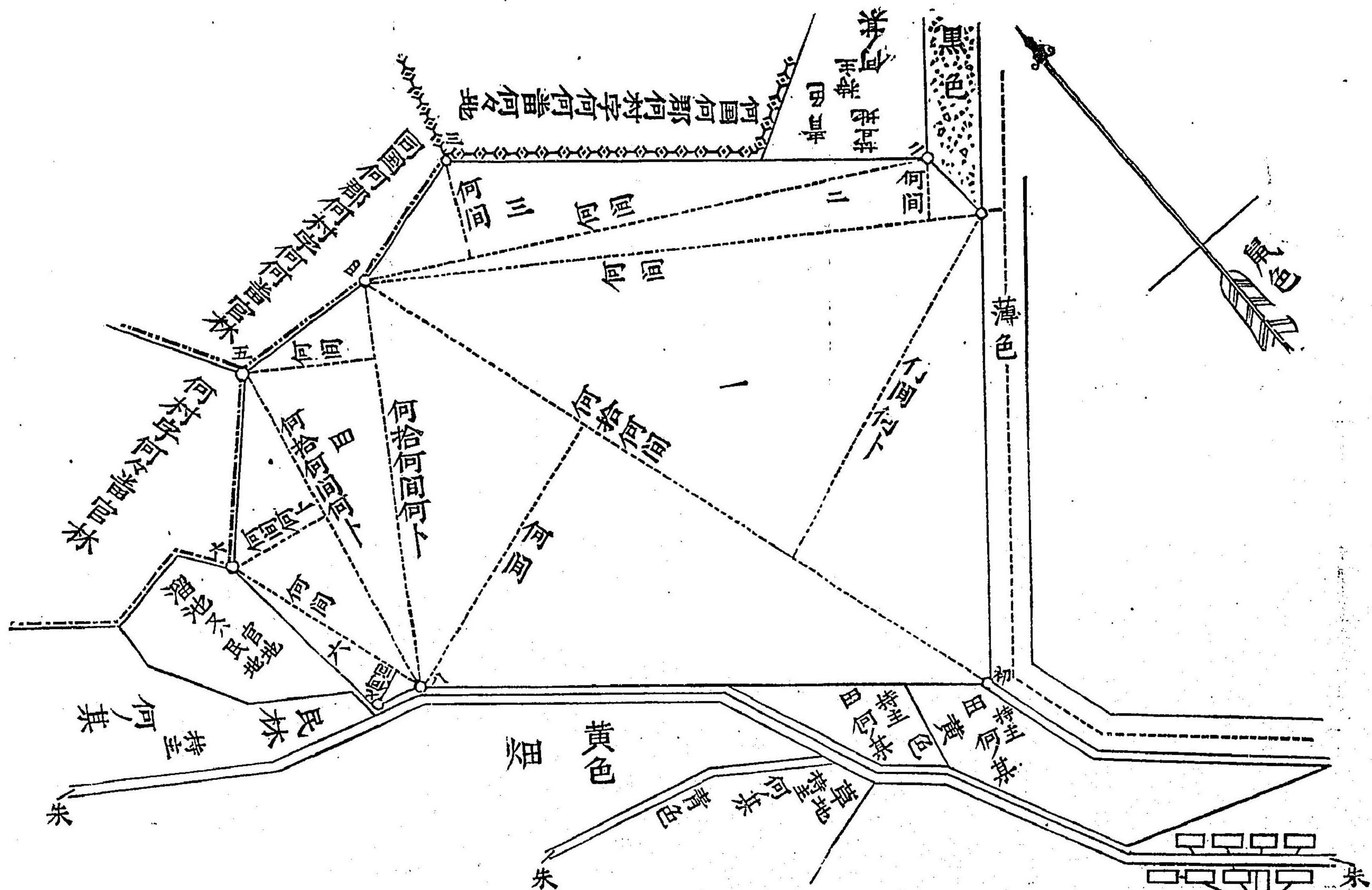


願 三 持 字 村 郡 國 測 田 萱 山 砂 人 道 川 溝 渠 堤

拂下及借地願ノ雛形  
國何那何村字何々番何々願地圖

年 月 日

- 一何百何拾何坪何合
  - 二何百何拾何坪何合
  - 三何百何拾何坪何合何勺
  - 四何拾何坪何勺
  - 五何拾何坪何合
  - 六何拾何坪
  - 合計何百何拾何坪
- 此反別何反何畝何步  
何壹間曲尺何分縮圖



繪圖面大ニシテ二枚以上ニ涉ルモノハ裏面ニ一回繼印ヲ要ス

- 鼠
  - 薄色
  - 鼠
  - 鼠
  - 青
  - 黄
  - 測
  - 國
  - 郡
  - 村
  - 字
  - 持
  - 三
  - 願
- 朱 砂 山 菅 田 測 國 郡 村 字 持 三 願
- 人家地林草畑點界界界界界斜線地
- 川溝渠溜池 道 路 家 地 林 草 地 畑 點 界 界 界 界 界 斜 線 地

願地村人 氏 名 印

隣地持主 氏 名 印

他村ト雖トモ隣地民有ナレハ其持主調印スヘシ

隣地官有地ニシテ他村トノ村界ノ者調印スヘシ

一何村總代 氏 名 印

同同村代 氏 名 印

何鼠色長村 氏 名 印

何鼠色長村 氏 名 印

地元戸長調印スヘシ

隣地他村ト接スルモノハ村界ニ關スルヲ以テ其地所ノ官地ト民地トヲ問ハス總テ該村ノ戸長調印スヘシ

本村ヲ距ル凡ソ何里何丁 氏 名 印

○縣令第十九號 明治二十一年三月二十二日

官有地拂下又ハ借用等出願ノ節實地丈量ニ際シ反別ニ異動ヲ生シタルトキハ左ノ手續ニ據ルヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ地籍訂正出願スルニ及ハス其都度町村備置ノ地籍ヲ訂正スヘシ

一 一筆ノ内幾分ヲ殘シ拂下又ハ借用セントスルニ當リ願地ヲ丈量スルニ元反別(即チ)登記ノ反別ヲ云フ)ヨリ超過スルモノハ該筆ノ全地ヲ丈量スヘシ

一 反別ノ増減ヲ生シタルトキハ左ノ書式ニ據リ願書ヘ記載スヘシ

一 何々反別何町何反何畝何歩

内 反別何反何畝何歩

内

反別何反何畝何歩

一 何々反別何反何畝何歩

外 反別何畝何拾歩

○訓令第二十一號 明治二十二年七月八日

本縣へ進達スル左ノ願届チ受ケタルトキハ實地調査ノ上其意見ヲ具シ差出スヘシ

一 官有地拜借定シタル無料拜借ハ除ク既願

一 水面理立壹町歩以上ハ除ク願

官地處分

明治二十三年八月十五號  
訓令第五

衛生諸取  
締參看

明治二十三年八月十三號  
訓令第五

官地處分

三九三

一 鑛山試掘借區通洞借區外坑通及借區外製煉所建設等ニ係ル届  
一部分木植付ニ係ルモノハ除ク 濟届

○告示第十五號 明治二十三年二月十五日

官林内道路溜池溝渠其他學校(無代)等新設ノ儀ハ縣廳へ出願シ社寺學校又ハ墓地火葬斃  
獸埋没場等設置ノ場合ニ於テハ豫メ設置方ヲ縣廳へ出願許可ノ上其地盤借用又ハ拂下ノ  
件ハ更ニ宮城大林區署へ出願スヘシ  
○訓令第四十一號 明治二十三年六月七日

郡役所

本縣へ進達スル左ノ願ヲ受ケタルトキハ實地檢査ノ上其意見ヲ具シ差出スヘシ  
一 民有地ニ介在スル式反歩以下ノ官有地拂下願  
二 官有地々目變換願

但山林ヲ他ノ地目ニ變換スルモノハ除ク

三 明治二十三年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第三條ニ該當スル官有地無代下付  
願  
但郡へ下付スヘキモノハ除ク

○縣令第三十一號 明治二十三年八月十三日

本年四月勅令第六十九號官有森林原野及產物特別處分規則第一條第二項ニヨリ原野ノ拂下

明治二十三年十月十五號  
縣令第四

ナ請フ者ハ左ノ條項ニ據ルヘシ

第一條 原野ノ拂下ヲ請フモノハ甲號願書式ニ依リ事業方法書收支豫算書及實測圖ヲ添

ヘ地元市役所又ハ町村役場ニ書留ヲ以テ郵送シ市町村長ハ與印ヲ受ケ差出ヘシ  
第二條 原野ノ賣渡ハ總テ豫約ノ方法ニ據リ代價ヲ上納シタル後ニアラサレハ其所有權

ヲ拂受人ニ移轉セズ其代價ハ事業成功ノ後拂受人又ハ其保證人ヨリ上納スヘシ  
但事業成功ノ部分ニ對スル所有權ハ拂受人ノ請求ニ依リ其部分ニ相當スル代價ヲ上  
納シタル上之ヲ拂受人ニ移轉スルコトアルヘシ

第三條 賣渡ノ豫約ヲナスヘキ原野ノ反別ハ四百町歩以内トス

但土地ノ區域又ハ事業ノ方法ニ依リテハ特ニ此制限ノ超過ヲ許可スルコトアルヘシ  
第四條 事業成功ノ期限ハ十五年以内ニ於テ之ヲ定メ若シ天災其他止ムヲ得サル事由ニ  
依リ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ヲ變更セントスルトキハ其事業ノ方法書及收支豫算

書ヲ添ヘ更ニ願出ヘシ

第五條 賣渡ノ豫約ヲ爲シタル土地ノ使用料等ハ總テ之ヲ徵收セズ

第六條 拂受人ハ左ニ記載スル事項ヲ遵守スヘシ

- 一 賣渡豫約ニ係ル土地ハ官廳ノ許可ヲ得ヌシテ之ヲ他人ニ貸渡スコトヲ得サルコト
- 二 賣渡豫約土地ニ對スル負擔及其土地ヨリ生スル損害等ハ總テ拂受人其實ニ任スヘキ
- 三 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ豫定ノ方法ニ從ヒ事業ニ着手スヘキ

官地處分

三九三

四 拂受人ハ前年ニ於ル事業ノ功程ヲ翌年一月中ニ届出ツヘキコト  
 五 拂受人ハ事業ニ着手シ及ヒ事業ノ成功シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘキコト  
 六 賣渡豫約土地内ニ在ル木竹其他指定シタル物件ハ拂受ケ又ハ特別ノ契約ヲ爲スニア  
 ラカレハ拂受人ニ於テ之ヲ採取シ若クハ使用スルヲ得サルコト  
 七 官吏ヲ派遣シ事業ノ進否及方法ヲ検査セシムルトキハ之ヲ拒ムヲ得サルコト  
 八 拂受人ハ賣渡豫約許可ノ日ヨリ十日以内ニ乙號雛形ノ標杭ヲ境界ニ建設スヘキコト  
 九 事業ハ必ス豫定ノ方法書ニ依テ之ヲ爲スヘキコト  
 第七條 拂受人第六條ニ記載スル事項ヲ遵守セズ又ハ成功期限ニ至リ事業成功セザルト  
 キハ豫定成功セル部分ニシテ相當ノ代價ヲ上納シタルモノハ之ヲ除キ其他ノ土地ハ  
 返還スヘシ  
 前項ノ場合ニ於テ返還地ニ係ル勞費ハ官廳ニ於テ之ヲ辨償セス又返還地ニ在ル植物建  
 物等ハ返還ノ違テ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ取拂フヘシ  
 第八條 従前開墾牧畜ヲ爲メ原野賣渡ノ豫約ヲ以テ貸渡シタルモノニシテ既定ノ契約ナ  
 キ事項ハ更ニ此規程ニ依ル  
 第九條 豫約拂下反別五町歩以上ニ係ルモノハ其願書調書及圖面等總テ正本三通差出ス  
 一シ  
 (甲號書式)

官有原野豫約拂下願

國郡市町村大字地籍字地番號

一 地目反別

此素地相當代價

但反金

右ハ田畑開墾又ハ牧畜ノ爲メ豫約御拂下相成度尤御許可ノ上ハ明治二十三年縣令第三  
 十一號原野賣渡條項ヲ遵守スヘキハ勿論若シ代價上納等差支候トキハ保證人ニ於テ上  
 納可致候別紙事業方法書收支豫算書及實測圖相添此段奉願候也

國郡市町村大字番地

年月日

願人 何 某

(保證人ハ二名以  
上連署スヘシ)

保證人 何 某  
保證人 何 某

知事 宛

前書之通願出候ニ付奥印候也

年月日

市町村長 何 某

備考

- 一 水田開墾ニ係ルモノハ水下關係者ノ承諾書ヲ添付スヘシ
- 一 實測圖ハ明治二十一年縣令第十號ノ雛形ニ依リ調製スヘシ

官地處分

- 一 收支豫算書ハ其事業成功ニ至ルマテニ要スル所ノ諸費及其土地ヨリ收入スルモノヲ科目ヲ分ケ記載スヘシ
- 一 事業方法書ニハ左ノ事項ニ準シ詳細ニ記載スヘシ
  - 開墾事業ノ方法
    - 一 田又ハ畑
    - 一 實測反別
      - 一 着手ノ順序 (裂地開墾セントスルトキハ道路若クハ河川ニ沿ヒタルトキハ一方ヨリシ又ハ濫リニ散點シテ着手スルコトヲ得ス)
      - 一家屋等ノ敷地
      - 一 防風林薪炭林ヲ仕立ツヘキ植樹地ノ反別及樹木ノ種類
    - 一 成功ノ期限
    - 一 毎年成功スヘキ豫定反別
  - 牧畜事業ノ方法
    - 一 牧場實測反別
    - 一 着手ノ順序
    - 一 種畜牝牡ノ頭數
    - 一 毎年蓄息スヘキ豫定畜數
  - 一 放牧地及牧草仕付地ノ反別
  - 一家屋畜舎等ノ敷地

(乙號雛形)

明治何年何月許可

縣國郡市町村大字地籍字

反別何程

縣國郡市町村大字

某

開墾期限明治自何年何ヶ年期至何年

備考

- 一 標杭ハ四至ノ境界ニ建立スヘシ
- 一 標杭ハ拂受クヘキ土地ノ廣狹ニ依リ左ノ寸法ニ準シ調製スヘシ
  - 方三寸以上 長地上五尺以上 反別壹町步未滿
  - 方五寸以上 長地上八尺以上 反別壹町步以上
  - 方八寸以上 長地上壹丈以上 反別貳拾町步以上

○訓令第六十二號 明治三十三年八月三十日

市役所 町村役場

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第一條第三項坪數及金額ノ制限外ニ涉ル官有地ノ拂下又ハ貸下ヲ望ムル以テアルキハ會計法第三十四條ニ依リ競争ニ付スヘク候條其



地名番號地目反別等取調圖面添へ其都度之報告スヘシ

但圖面ハ明治二十一年縣令第十號ニ準テ調製スヘシ

○訓令第六十三號 明治二十三年 八月三十日

郡役所

官有地拂下又ハ貸下ヲ望ムモノアルニ方リ競争ニ付スヘキモノニシテ本年本縣訓令第六十二號ニ據リ町村長ヨリ本縣ニ進達スル報告書ヲ受ケタルトキハ實地檢査ヲ遂ケ其意見ヲ具シ差出スヘシ

但賣渡スヘキ地所ニシテ本年本縣訓令第四十一號第一項ノ反別ヲ超過スルモノハ本文實查ノ限ニ非ス

○訓令第七十四號 明治二十三年 十月二十八日

郡役所

本年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地賣渡又ハ貸渡ヲ願出タルトキハ其役所ニ於テ實地檢査ヲ爲スヘキモノハ該吏員ヲシテ近傍民有地ノ比準ヲ取リ其地價若クハ貸渡料ノ評價書ヲ作ラシメ具申書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

但繼續貸渡願ニ係ルモノハ亦本文ノ手續ニ據ル

○訓令第八十七號 明治二十三年 十二月十八日

郡役所

本年十月本縣訓令第七十四號ニ據リ評價スヘキ官有地ノ賣渡代金又ハ貸渡料ハ出張檢査員

ナシテ地元町村吏二名ト共ニ評定シ其調書ニ記名捺印セシムヘシ

但時宜ニ依リ其道ニ精シキ者ヲ撰ミ町村吏ニ換ユルコトヲ得

○訓令第八十八號 明治二十三年 十二月十八日

市役所

町村役場

官有地ノ賣渡代金又ハ貸渡料等ノ評價ヲ出張檢査員ヨリ求メタルトキハ吏員二名ヲシテ該檢査員ト共ニ之ヲ評定セシムヘシ

○告示第三號 明治二十四年 一月二十四日

官有地ノ拂下又ハ無代價下渡等ヲ受ケタル者ハ登記法第二十八條第二項及登記法取扱規則第六條ニ基キ登記印紙ヲ貼用シタル名刺ニ左ノ書式ノ調書ニ通テ添へ速ニ地元町村役場及ヒ郡市役所ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

書式

官有地拂下、公賣落札、無代價下渡、民有地ニ引直、交換、地所調書

何郡市何町村大字何地籍字何々官有地

更正字何々何番(更正字番號ハ土地臺帳ノ字)

一 荒蕪地何反何畝歩

一草生地何反何畝步

合計反別何反何畝步

此拂下代價何圓何拾錢

價格ハ無代價下渡等ニ係ル地所ニ對シ登記法

第二十六條ニ依リ時價相當ノ代金ヲ記スヘシ

但明治何年何月何日拂下許可

直許可

何郡市何町村大字何々何番地

年月日

何郡市何町村大字何々何番地

拂受人又ハ何々受人

山形縣宛  
訓令第九號 明治二十四年一月二十四日

郡市役所  
町村役場

本年本縣告示第三號ニ依リ本縣へ差出スヘキ地所登記請求ニ關スル調書ヲ受ケタルトキハ市役所若クハ町村役場ニ於テハ土地臺帳ノ字名地番號ヲ當否ヲ調査シテ番號ノ下ニ捺印シ又郡役所ニ於テハ拂下代金ノ徵否ヲ調査シ之ニ其徵收セシ年月日ヲ朱記捺印ヲ捺捺

シテ差出スヘシ

告示第十五號 明治二十四年三月十七日

官有地及產物競賣却貸與規程左ノ通相定ム

官有地及產物競賣却貸與規程

第一條 官有地及其產物賣却貸與ノ競爭入札ニ加ハラントスル至ハ甲號書式ニ依リ入札書ヲ作リ入札保證金ト共ニ豫定ノ日時ニ入札所ニ持參シ保證金ヲ納メタル上入札スヘシ

第二條 當該官吏前條ノ保證金ヲ受領シタルトキハ乙號書式ニ據リ預リ證ヲ作り入札人ニ交付スヘシ

第三條 入札金額ニ對シ訂正ヲ要スルコトアルトキハ必ズ開札前ニ之ヲ申立ツヘシ

第四條 入札終リタルトキ當該官吏ハ入札ノ數ト人名トヲ引合セ其面前ニ於テ開札シ人員金員ヲ讀上クヘシ若シ字体不明瞭ニシテ金員又ハ氏名ヲ認知難キ分々之ヲ除キ豫定價格ノ制限ヲ違スル最高額ノ入札ヲ以テ落札人ト定ムヘシ

第五條 落札人入札ヲ取消シタルトキハ更ニ競爭ヲ行フヘシ

第六條 入札保證金ハ開札ツ上落札人ノ外ハ即時預リ證書引換ニ還付シ落札人ニハ契約締結後之ヲ還付ス

第七條 落札人定リタルトキハ賣渡ニ於テハ落札代金十分ノ一貸渡ニ於テハ一年分又

ハ一ヶ月分ノ貸渡料ニ當ル金額ヲ契約保證金トシテ二日以内ニ差出シ丙號書式ニ依リ  
 賣買者ノハ貸借ノ契約書ヲ作り結約者双方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置クヘシ  
 但特ニ契約書按テ示シタルトキハ其按ニ從フヘシ  
 第八條 前條ノ契約保證金ハ銀行ノ預證書又ハ公債證書ヲ以テ差出スヘシ  
 第九條 落札人賣買者ノハ貸借ノ契約ヲ締結セス又ハ開札後ニ於テ入札ノ取消ヲナシタ  
 ルモノハ其保證金ハ之ヲ還付セズ  
 第十條 落札人賣渡代金ヲ完納シタルトキハ其落札物件ヲ管スル役所若クハ役場等ニ其  
 契約證及代金領收證ヲ示シ之レカ引渡ヲ請求スヘシ  
 第十一條 落札物件所管ノ役所若クハ役場等前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ日限内  
 ニ之ヲ引渡スヘシ  
 第十二條 買受人物件ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其領收證書ヲ引渡吏員ニ差出スヘシ  
 第十三條 引渡吏員前條ノ領收證書ヲ受ケタルトキハ其競争執行ノ官衙若クハ役所ニ之  
 ヲ送付スヘシ  
 第十四條 立木竹賣渡ノ場合ニ於テ其根株ハ賣渡外ノモノトス但別段ノ契約アルモノハ  
 此限ニテラス  
 第十五條 入札人又ハ落札人ニシテ代理人ヲ以テ諸般ノ事項ヲ履行セシムルトキハ代理  
 人ハ其委任狀ヲ當該官吏ニ示スヘシ  
 甲號書式

一 買入札書

國郡市町村大字名字名地番號

一 地目反別

此買受代金何程又ハ借地料一ケ年若クハ一ヶ月金何程

一 何々何個

此買受代金何程

(以下此例ニ準シ公告ニ掲載ノ物件ヲ一廉毎ニ列記スヘシ)

合計金何程

右金額ヲ以テ買受又ハ借受申度明治二十二年勅令第六十號會計規則並二十四年山形縣告  
 示第十五號官有地及產物競争賣却貸與規程ヲ承諾シ保證金相添入札書差出候也

年 月 日

官職氏名宛

乙號書式

證

一金何程

納人氏名

但何々入札保證金

右正ニ預置候也

年月日

官職氏名印

丙號書式

買賣(貸借)契約書

前入証書

印紙(印紙ハ賣人ニ受領シ置クモノ、ミ對手人ニ於テ貼用スルモノトス)

今般何國郡市町村地内ニ於テ官有地(木竹)賣渡(貸渡)落札ニ付明治二十二年勅令第六十號會計規則並二十四年山形縣告示第十五號官有地及物産競爭賣却貸與規程ヲ承諾シ賣買(貸借)者双方ノ間ニ左ノ事項ヲ締約シ記名調印ノ上各一通ヲ領收シ置クモノナリ

年月日

國郡市町村大字番號

賣(貸)人官職氏名印

買(借)人氏名印

賣渡ノ例

一 賣渡者ヨリ買受者へ賣渡ノ地所(何々)代金及契約保證金等左ノ如シ

國郡市町村大字名字名地番號

二 地目反別

一 何々代金(何個)何程

二 代金(何個)何程

三 契約保證金(何程)

四 契約保證金

二 賣渡代金ハ告知次第一時ニ相納ムヘシ

若シ之ヲ怠リタルトキハ契約保證金ハ賣渡者ノ所得トシ此契約ヲ取消スヘシ

○三 此契約ヲ締結スルニ雖トモ賣渡物件ノ所有權ハ其代價受渡ノ後ニアラサレハ之ヲ

買受者ニ移付セサルモノトス

四 物件ノ引渡ハ賣渡代金納付後五日以内トス

五 契約保證金ハ賣渡代金完納後之ヲ還付スヘシ

六 貸渡ノ例

一 貸渡者ヨリ借受者へ貸渡ノ地所、借地料、期限及契約保證金等左ノ如シ

○國郡市町村大字名字名地番號

一 地目反別

一 借地料何程但シケ年(一ケ月)ニ付金何程

一 貸借期限明治何年(何月)ヨリ何年(何月)マテ何ケ年期(何ケ月間)

二 契約保證金何程

二 借地料金ハ告知次第相納ムヘシ若シ之ヲ怠リタルトキハ契約保證金ハ貸渡者ノ所得トシ此契約ヲ取消スヘシ

三 地所借受ノ目的ハ何々使用ノ爲メニシテ借受者ニ於テ他ノ使用ヲ爲サ、ルヘシ若

シ之ニ違背シタルトキハ契約保證金ハ貸渡者ノ所得トシ此契約ヲ取消シ且其使用

以爲シ構造セシ家屋植物等ハ借受者ニ於テ速ニ之ヲ取拂ヒ原地形ニ復シ其勞費ハ

自辨タルヘシ

- 四 貸渡期限中若シ荒廢ニ屬シ借受ノ目的ヲ果ス能ハサル場合ニ於テハ借受者ノ請求ニ依リ貸渡者ニ於テ相當ト認ムルトキハ此契約ヲ解クコトアルヘシ
- 五 貸渡期限中ト雖下モ公用ノ爲メ其土地ヲ要スル場合ニ於テ貸渡者ヨリ返地ヲ命ジタルトキハ三十日以内ニ返地スヘシ但至急返地ヲ要スルトキハ直ニ返地スヘシ
- 六 貸渡期限中其地ニ對スル市町村稅等ハ借受人ノ負擔タルヘシ
- 七 貸借滿期ニ至ルトキハ借受人ニ於テ其使用ヲ爲メ構造セシ物件ハ取拂ノ上原地形ニ復シ速ニ返地ヲ届出ヘシ
- 八 契約保證金ハ此契約解除後之ヲ還付スヘシ

○訓令第四十三號 明治二十四年三月十七日

郡市役所

明治二十二年縣令第五十七號委任條件又ハ別段ノ命令ニ依リ郡市役所ニ於テ官有地及其產物ノ賣却貸與ヲ競争ニ付スルトキハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及本年本縣告示第十五號官有地及產物競争賣却貸與規程ニヨリ取扱ヒ其契約ノ締結ハ郡長又ハ市長ニ於テ擔任スヘシ

○訓令第四十九號 明治二十四年三月二十五日

郡市役所

國縣里道ニ沿フタル官有地ニ森林地ノ樹木道路ニ付レタルヲ町村役場ニ於テ發見シタルト

キ郡役所遠隔ノ地ニアリテ取除キヲ爲スマテ多クノ日數ヲ要シ往來頻繁ナル道筋ニシテ交通保安上瞬時モ差措キ難キ場合ニ於テハ便宜町村役場ヲシテ之ヲ取除カシムル等豫メ其方法ヲ設ケ置クヘシ

○縣令第十八號 明治二十四年三月二十六日

官有地拂下出願及引渡順序

官有地拂下出願及引渡順序

- 第一條 官有ノ土地、森林、原野ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ左ノ要領ヲ記載シタル願書ニ實測圖ヲ添ヘ地元市町村長ノ奧印ヲ受ケ願出ヘシ但圖面ハ明治二十一年縣令第十號雜形ニ準シ調製スヘシ
- 一 地名番號地目反別及代價
- 二 拂下ヲ請フ事由
- 第二條 拂下土地内ニアル木竹其他指定メタル物件ハ別段ニ拂下ヲ請フニアラサレハ買受人ニ移付セサルモノトス
- 第二條 拂下許可ヲ受ケ代金ヲ完納シタルトキハ其指令書及代金領收書ヲ地元市町村長ニ示シ其土地ノ引渡ヲ求ムヘシ
- 市町村長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ引渡スヘシ
- 第四條 土地ノ引渡ヲ受ケタルトキハ其領收證書ヲ市町村長ニ差出スヘシ
- 市町村長其領收證書ヲ受ケタルトキハ拂下處分ノ官廳ニ之ヲ送致スヘシ

第五條 此規程ハ官有地無代價下渡及交換願等ハ場合ニモ之ヲ適用ス  
○縣令第十九號 明治二十四年三月二十六日  
官有地貸渡規程左ノ通相定ム

官有地貸渡規程

第一條 官有ノ土地、森林、原野ヲ借用セントスルモノハ書式ニ依リ願書ヲ作り地元市町村長ノ與印ヲ受ケ差出スヘシ  
第二條 借受人ハ貸渡許可ノ日ヨリ十日以内ニ方寸以上長六尺以上ノ標杭ヲ製シ其地名、地目、反別、期限、許可ノ年月及住所氏名ヲ記シ之ヲ四至ノ境界ニ建設スヘシ  
第三條 貸渡期限中其土地ニ對スル市町村稅其他ノ費用ハ總テ借受人ニ於テ負擔スヘシ  
第四條 貸渡土地内ニアル木竹其他指定メタル物件ハ特ニ許可ヲ受クルニアラサレハ借受人ニ於テ之ヲ採取若シハ使用スルコトヲ得ス  
第五條 開墾ノ爲メ無料ニテ土地ヲ借受ケタルモノハ前年ニ於ル事業ノ功程ヲ毎年一月中ニ届出ヘシ  
若シ天災其他止テ得サル事由ニ依リ豫定ノ事業方法又ハ成功期限ヲ變更セントスルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ  
第六條 前條ノ貸渡地ニシテ拂下ノ豫約アルモノハ開墾成功ノ期限ニ至リ豫定ノ通成功セシ部分ノシテ拂下クヘシ  
第七條 借受人ハ貸渡許可ノ日ヨリ滿六ヶ月内ニ目的ノ事業ニ着手スヘシ

又當初借用ノ目的以外ニ使用セントスルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ

第八條 前條ニ違背シタルトキハ返地ヲ命シ其地ニ係ル一切ノ勞費ハ官廳之ヲ支辨セス  
第九條 借受人ハ借受期滿ニ至リタルトキハ其期日内ニ自費ヲ以テ原地形ニ復シ返地ノ届出ヲナスヘシ但官廳ヨリ返地ヲ命シタルトキハ三十日以内ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ  
特ニ命令シタルトキハ此限ニアラス  
第十條 前條ノ場合ニ於テ其期限内ニ原地形ニ復セサルトキハ官廳ニ於テ之ヲ處理シ其費用ハ借地人ヲシテ辨償セシムヘシ  
第十一條 此規程ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス  
第十二條 明治十九年縣令甲第八號官有地貸渡規則ハ此規程施行ノ日ヨリ廢止ス  
第十三條 此規程施行以前ニ貸渡シタルモノハ其滿期マテ舊規則ニ依ルヘシ  
願書式

官有地借用願

國郡市町村大字名  
字名地番號  
一 地目反別何程  
此借地料一ケ年又ハ一ケ月金何程但反金何程

一 地目反別何程

此借地料一ケ年又ハ一ケ月金何程但反金何程

合反別何程

此借地料一ケ年又ハ一ケ月金何程

但明治何年ヨリ何年マテ何ケ年又ハ何月ヨリ何月マテ何ケ月間  
右ハ何々目的使用ヲ爲メ借用仕度尤御許可ノ上ハ官有財産管理規則(官有地取扱規則)及明治  
二十四年縣令第十九號ノ條項等ヲ遵守スヘキハ勿論若シ料金其他上納スヘキ金員ニ差支  
候トキハ署名ノ保證人ニ於テ辨納可致候別紙實測圖相添此段奉願候也

(書式中括弧ニ係ル文字ハ森林  
原野ノ分ニハ記載セズ)

年月日 願人 氏 名 印

國郡市町村大字番地

(保證人ハ本縣下ニ本籍ヲ定現  
住スルモノ二名以上タルベシ) 保證人 氏 名 印

山形縣知事宛

前書願出ノ通相違無之ニ付與印候也

年月日 市町村長 氏 名 印

官有地開墾無料借用願

國郡市町村大字名

字名地番號

一 地目反別何程

但明治何年ヨリ何年マテ何ケ年期

(開墾成功ノ後拂下ヲ請ハントスル  
モノハ素地相當代價ヲ付記スヘシ)

右ハ田地又ハ畑地ニ開墾ノ爲無料ヲ以テ借用仕(開墾成功ノ上ハ素地相當代價ヲ以テ御  
拂下相成)度尤御許可ノ上ハ官有財産管理規則官有地取扱規則及ヒ明治二十四年縣令第  
十九號ノ條項等ヲ遵守スヘキハ勿論若シ代金其他上納スヘキ金員ニ差支候トキハ署名ノ  
保證人ニ於テ辨納可致候別紙事業方法書收支簿算書及實測圖相添此段奉願候也

國郡市町村大字番地

年月日 願人 氏 名 印

保證人 氏 名 印

保證人 氏 名 印

保證人 氏 名 印

宛名與印等前ニ同シ

備考

一 實測圖ハ明治二十一年縣令第十號ノ雜形ニ依リ調製スヘシ

- 一 水田開墾ニ依ルモノハ水下關係者ノ承諾書ヲ添付スヘシ
  - 一 收支豫算書ハ其事業成功ニ至ルマテニ要スル所ノ諸費及其土地ヨリ收入ノ利益ヲ科目ヲ分ケ詳細ニ記載スヘシ
  - 一 事業方法書ハ左ノ事項ニ準シ詳細ニ記載スヘシ
    - 一 田又ハ畑
    - 一 實測反別
      - 一 着手ノ順序
        - 一 家屋等ノ敷地
          - 一 成功ノ期限
          - 一 毎年成功スヘキ豫定反別
- 列地開墾セントスルトキハ道路若シクハ河川ニ沿ヒタル一方ヨリシ又ハ濫ニ散點シテ着手スルコトヲ得ス
- 訓令第五十一號 明治二十四年三月三十日

郡 役 所  
町 村 役 場

官有土地森林原野收入金徵收規程左ノ通相定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス  
但明治十九年九月縣令乙第四號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 官有土地森林原野ヨリ生スル諸收入金ハ此規程ニヨリ徵收ス

第二條 諸貸付料諸賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ據ル

- 第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ニ屬スル料金及代金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテ第一期トシ甲年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付又ハ賣拂契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス
- 第三項 年ヲ以テ設定シタル諸產物賣拂契約ニ屬スル代金ハ其年一月ヨリ十二月マテ第一期トシ其年一月中ニ徵收ス但一月以後新ニ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス
- 第三項 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス
- 第四項 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス
- 第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル
  - 第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及土石賣拂契約ノ四月ニ起リ若クハ三月ニ滿期ニナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算定ス
  - 第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ問ハス總テ全年分ヲ算定ス
  - 第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ問ハス全月分ヲ算定ス
- 第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付及諸賣拂契約ヲ該期限中解除シタルトキ其料金及代金



免除方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及土石賣拂契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ該期ニ物件ヲ採取セシヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレハ其年ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレハ物件ノ年額數量ヨリ採取數量ヲ扣除シタル殘數量ニ應シテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルトキハ其翌年ヨリ免除ス

第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルトキハ其翌月ヨリ免除ス

第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ政府又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルトキハ其日ヨリ免除ス

第五條 此規程ニ依リ徵收シタル收入金ノ年度編入方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 徵收期月ノ一定シタルモノハ該徵收期月ノ屬スル年度ニ編入ス

第二項 徵收期月ノ一定セサルモノハ納人告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス但納人告知書ヲ發セサルモノハ現金ヲ領收シタル日ノ屬スル年度ニ編入ス

○告示第二十六號 明治二十四年五月九日

官有木竹土石其他雜產物ノ拂下ニ係ルモノハ其員數左ノ項目ニ依リ之ヲ計算スヘシ

一 用材ハ尺ニ本數以テ方一尺長二間ヲ以テ尺一尺一本トス

一 薪炭材ハ棚數積ミタルモノヲ以テ一棚トス但長三尺ニシテ高六尺幅六尺ニ

一 籠朶枝條、小柴、下草、秣、萱、笹ノ類ハ束數以テ三尺繩ニ束トス但三尺繩ニ束トス

一 竹ハ本數若シハ束數以テ三尺繩ニ束トス

一 土砂ノ類ハ坪數以テ一坪トス

一 築石ノ類ハ切類一尺立方ヲ以テ一石トス轉石ハ箇數

一 木炭、漆、五倍子、蘇、山芋、檜、楮、筍、籐、桑葉、葡萄、茵蕈、魚鱈、水草ノ類ハ貫目

一 樹實ノ類ハ石數

○訓令第七十一號 明治二十四年五月九日

郡市役所

官有木竹土石其他雜產物ノ拂下ニシテ競争ニ付スルトキハ明治二十二年勅令第六十號會計規則第七十五條ニ依リ其價格ヲ豫定スヘキハ勿論隨意契約ノ場合ニ於テモ其價格ヲ豫定シ其額ニ下ラサル代價ヲ以テ拂下ヘキ義ト心得ヘシ

○訓令第七十二號 明治二十四年五月九日

郡役所

官有山林原野ノ拂下又ハ貸渡願ヲ受ケ其役所ニ於テ實地檢査ヲ爲スヘキモノハ明治二十三年本縣訓令第七十四號及同第八十七號ニ據リ其拂下代金若クハ貸付料ノ評價ヲ爲サシムヘシ

○訓令第八十五號 明治二十四年七月一日

郡市役所  
町村役場

地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ノ負擔市町村ニ屬スルモノハ縣廳ノ認可ヲ經テ其市町村ニ於テ處分シ其堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木及並木、枯木倒木其他雜產物ノ賣却ハ市町村制第八十七條ニ依リ處分スヘシ  
前項ノ使用料及竹木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ  
費用ノ主擔定マラサルカ又年々負擔ヲ異ニスル堤塘道路並木敷用惡水路土居敷等ニ關スル事ハ縣廳ニ於テ處分シ其收益ハ費用ヲ負擔スル市町村ニ配付スヘシ

第二章 塚 界

○丙第六十號 明治十一年十一月九日

各郡郡長

本年丙第六十號ヲ以相違候郡界標、儀左ノ雛形ノ通用郡長協議ノ上取建可申「尤入費、儀ハ別途可下渡候條一時繰換置追テ請取方庶務課エ可申出」此旨相違候事



但八寸角地上ニ丈木材ノ儀ハ松杉ノ内適宜ノ事

○訓令第二十三號 明治二十二年七月十三日

郡市役所  
町村役場

郡市町村ノ境界ハ郡市役所及町村役場ニ於テ境界標ヲ建設シ其費用ハ郡市界ニ係ルモノハ郡市役所經費町村界ニ係ルモノハ町村費トシ關係郡市役所町村役場協議支辨ス可シ

第三章 地 籍

○丙第八十四號 明治十一年六月二十三日

各區五六七大區ヲ除ク  
戶長

村町地籍取扱方別紙概則ノ通ニ候條區内無誤可相違此旨相違候事

但未タ地籍不下渡向ハ追テ乙地籍調製上納ノ順次ヲ逐ヒ可下渡候條本文同様可相心得候事

村町地籍取扱方心得概則

第一條 取扱要領

第一項 村町地籍編製ノ爲ニ土地ヲ調整スルハ官民有地ヲ問ハス一般ニシノ地元ニ於テ調査スルノ成規ナルカ故ニ將來地籍ノ改正ヲ加フルモ亦其地元村町ニ在リトス

第二項 村町地籍取扱方法ハ該簿巻首ニ付シタル凡例ヲ憑據トシ地種名稱ハ明治七年第百二十號及八年第百十四號第百五十四號公布ニ據ルヘシ

第三項 凡ソ土地ニ關スル願伺届類ハ勿論其他ト雖トモ總テ該地籍ヲ根據トシ取調フヘシ

第二條 地所變換

第一項 田畑宅地等天災ニ罹リ荒地ニ變シ又ハ荒地新開地等ノ田畑宅地ニ變スルモノ其他官有貸借ノ契約且拂下買上潰地等ニ依テ地種名稱ヲ變換スルモノハ其簡目及ヒ年季ヲ明記スヘシ

第二項 官民有地共一筆地所ノ内分裂變換スルモノハ左ノ例ニ倣ヒ掛紙ヲ以テ訂正スルモノトス (様式畧ス)

第三項 官有民地トモ脱漏重復ノ地所アリテ更訂ヲ要スルモノハ左ノ例ニ倣フテ訂正スルモノトス (様式畧ス)

ヲ加フヘシ

但重復地取消ノ分ハツノ事由ノミナ記シ脱漏地編入ノ分番號ハ前項同様タルヘシ (様式畧ス)

第四項 前項ニ因テ地籍變換簿ヲ製シ置土地變換アル毎ニ左ノ例ニ倣フテ遺漏ナク之ヲ登錄シ每一ケ年又ハ每五ケ年調査ノ需用ニ供スヘシ

但變換簿ハ一ケ年分宛テ區別シ置以テ調査ノ便ニ備フヘシ (様式略ス)

第五項 地所ノ順席ヲ更訂スルハ追テ定ムルモノトス

第三條 改正年度

第一項 地籍改正年度ハ分テ每一ケ年毎五ケ年ノ兩種トス

第二項 每一ケ年ノ改正ハ前年(甲年)七月一日ヨリ翌年(乙年)六月三十日迄ノ土地變換ヲ毎年七月一日ヨリ八月十五日迄ノ間ニ第二條第四項ニ掲ル地籍變換簿ト地籍表

面ト全ク差違ナキヲ認メ尙誤脱重復等ノ弊ナキヲ保證シ該變換簿ヲ差出スヘシ

第三項 毎五ケ年ノ改正ハ前改正年ノ七月一日ヨリ當改正年ノ六月三十日迄ノ土地變換ヲ改正年ヨリ後六ケ年目ノ七月一日ヨリ十月三十日迄ノ間ニ前地籍表ヲ根據トシ

精細調査ノ上尙實地ニ就テ之ヲ檢覈スルモノトス

但每五ケ年改正ノ方法ハ其時ニ當テ尙布達スヘキモノアルヘシ

第四章 公 園

○縣令第四十九號 明治二十三年 十一月二十二日

管下各公園維持保管ノ義自今所在地市町村ノ管理ト相定ム

○告示第五百五十九號 明治二十三年十一月二十二日

公園地内借地ニ關スル願届ハ自今管理市長村長ニ宛テ差出スヘシ

○訓令第七十九號 明治二十三年十一月二十二日

公園所在地

郡市役所

町村役場

今般縣令第四十九號ノ通相定メ候ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

公園取扱心得

第一條 公園維持保管ノ經費ハ主トシテ借地料其他ノ收入ヲ以テ支辨シ其收支ノ方法等ハ市會又ハ町村會ノ議定ヲ經テ施行スヘシ

第二條 公園内ハ常ニ清潔ヲ旨トシ衆庶遊觀ノ便ヲ目的トシ永續方法ヲ立テ常ニ取締上注意スヘシ

第三條 左ニ掲クル事項ハ市ニ於テハ縣廳町村ニ於テハ郡役所ノ許可ヲ受クヘシ

一 公園内ノ倒木危險木枯損竹木ヲ伐採スル事

二 公園内ノ摸樣換ニ關スル事

三 三ヶ月以上ニ渉ル貸地契約ノ事

四 公園地内貸渡規程ヲ設ケ又ハ増減變更スル事

第四條 從來公園地貸渡規則ヲ定メ借地人等ニ差示シ置キタル事項ハ更ニ市町村ニ於テ

編制シ前第四條ノ手續ヲ經テ借地人等ニ差示シ置クヘシ

第五條 公園經費豫算共議定ノ後十日以内ニ營造物現在調表ヲ添ヘ市ニ於テハ縣廳ヘ町村ニ於テハ郡役所ニ報告スヘシ

○訓令第七十九號 明治二十四年六月六日

公園所在地

郡市役所

町村役場

市町村ニ於テ維持保存スル公園地内使用及其使用料徴收等ハ舊來ノ慣行ニ依リ特ニ使用スルモノ、外ハ自今凡テ市町村營造物規則并使用料細則ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

但明治廿三年十一月訓令第七十九號公園取扱心得中本令ニ牴觸ノ廉ハ消滅ト心得ヘシ

第五章 山野火入取締

○縣令第二十八號 明治二十一年六月七日

山野火入取締規則左ノ通相定ム

但明治十九年(六月)甲第十五號布達ハ廢止ス

山野火入取締規則

第一條 山野ニ火入ヲ爲サントスルモノハ其期日十日前ニ別紙書式ニ據リ左ノ各項ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ニ願出認可ヲ受クヘシ

明治二十二年十月二十九日  
縣令第九十號

- 一 火入期日
  - 一 箇所限リ地目反別及字番號
  - 一 四至ノ境界ヲ見ルヘキ實地略圖
  - 一 火防線ノ種類及番入ノ員數
- 第 條 季節及場所ヲ定メ毎年火入ヲ爲サントスル者前條ニ據リ認可ヲ受ケタルトキハ  
 次年ヨリ出願ヲ要セス火入ヲ爲サントスル期日五日前ニ別紙書式ニ據リ所轄警察署又  
 ハ分署(警察署分署遠隔ノ地)ニ届出ヘシ但番人減少其他防火線變更等アルトキハ前條  
 ニ據リ出願スヘシ
- 第 條 官有地ニ於テ柴草刈採ノ許可ヲ得タル者ト雖モ其地ニ火入ヲ爲サントスルトキ  
 ハ第一條ノ手續ニ準シ願出認可ヲ受クヘシ
- 第 條 第一條第二條第三條ノ認可ヲ受ケタルモノニシテ森林原野又ハ家屋接續シタル  
 山野ニ火入ヲ爲サントスルトキハ四至ノ境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野又ハ家屋ノ  
 所有者(官林ナルトキハ小林區署又ハ大)ニ火入期日五日前ニ其旨報告スヘシ
- 第 條 防火線ハ幅三間以上トス都テ柴草刈取落葉並ニ塵芥ヲ除去リ或ハ土堤又ハ掘溝  
 等ノ設テナスヘシ
- 但道路踏谷等ニシテ本條ノ防火線ヲ設ケサルモ延燒ノ虞ナキ地ハ此限ニアラス
- 第 條 日出前日没後及風勢穩ナラサルトキハ火入ニ着手スヘカラス
- 第 條 火入中ハ現場ニ番人ヲ出シ火氣全ク消滅スルニ至ルマテ其場ヲ退カシムヘカラ

同上

- 一 但風勢ノ變勢ニ依リ他ニ延燒ノ虞アルトキハ直ニ消止ムヘシ
- 第 條 郡長警察官大林區署員大林區派出所員戶長巡視巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト  
 認ムルトキ又ハ風勢ノ變動等ニ依リ他ニ延燒ノ虞アルトキハ直ニ火入ヲ中止セシムル  
 コトアルヘシ
- 第 條 第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢  
 以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第 條 第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又  
 ハ拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 山野火入(願)届書式
- 山野火入(願)届書式
- 郡町村字番地
- 一(地目)何(段別)何町何反何畝歩
- (何年何月柴草刈取願濟)
- 一 防火線幅何間柴草ヲ刈採リ落葉並ニ塵芥ヲ除去シ又ハ何々
- 一 番人幾名
- 右ノ地所何々ノ爲メ何年何月日ヨリ同何日迄何日間(二ヶ所以上ニシテ火入期日ヲ異ニ  
 スルモノハ其ヶ所毎ニ月日及ヒ日  
 數ヲ記入)會テ御認可相成タル場所へ火入仕度尤モ火入中ハ他へ延燒致サ、ル様精々  
 スヘシ

注意可仕候條(御認可被成下度別紙圖面相添此段奉願)(別紙圖面相添此段御届申上)候也

(願)届(人住所身分)(一町村共有

地ナルトキハ總代人)

年月日

氏名印

(何警察署)(何分署)長宛

第六章 林務

○訓令第四十五號 明治二十二年九月二十七日

郡市役所

町村役場

這般閣令第二十四號ヲ以テ本縣官林並ニ左ニ屬スル事務宮城大林區署ノ管轄ニ屬シ候處官林内火災風損蟲害盜伐其他官林ノ利害ニ關シテハ平素郡市長町村長等ニ於テ注意スヘキハ勿論ノ儀ニ付右等發見セシトキハ速ニ大小林區署又ハ派出所ノ内へ便宜申報シ且難差置場合ニ於テハ直ニ之カ防禦取締方ニ從事スヘシ

○訓令第五十三號 明治二十二年十月三十一日

市役所町村役場宮城大林區署員小林區署員大林區派出所員ニ於テ官林境界不明瞭又ハ其他ノ儀ニ付吏員ノ立會ヲ請求スル場合ニ於テハ其需ニ應スヘシ

○告示第三百三十一號 明治二十二年十二月五日

今般宮城大林區署ニ於テ同所派出所位置及管轄區域左ノ通相定メ本月九日ヨリ開廳ニ付自今同署へ可差出願伺書等成規アルモノ、外該派出所ヲ經由差出スヘキ旨通牒アリ

山形派出所 位置羽前國山形市大字七日町五百九十番地

管轄區域 羽前國山形市一圓東村山郡一圓西村山郡一圓北村山郡ノ内 山口村、田崎村、大富村、東郷村、

東根村、長靜村、小田島村、

新庄派出所 位置羽前國最上郡新庄町大字小田島百五十番地

管轄區域 羽前國最上郡一圓北村山郡ノ内 楯岡村、西郷村、大倉村、袖崎村、富大石田村、龜井田村、福原村、尾花澤村、

本村、戶澤村、大久保村、大高根村、

鶴岡派出所 位置羽前國西田川郡鶴岡町大字馬場町甲二番地

管轄區域 羽前國東田川郡一圓西田川郡一圓羽後國飽海郡一圓

米澤派出所 位置羽前國米澤市大字東町七百三十四番地

管轄區域 羽前國南置賜郡一圓東置賜郡一圓西置賜郡一圓米澤市一圓

○訓令第三十二號 明治二十三年四月五日

市役所

町村役場

宮城大林區署へ差出ス願伺等ノ指令並ニ納入告知書同署ヨリ送達來リ候處自今所轄派出所ヨリ送達候條從前ノ通本人へ下渡方取計フヘシ

○訓令第四十八號 明治二十四年三月二十五日

市役所  
町村役場

國縣里道ニ沿フタル官林ノ樹木風雪等ノ爲メニ道路ニ仆レタルヲ發見シタル場合ニ於テハ大林區派出所ニ取除キ方請求スルハ勿論ナレトモ若シ該派出所遠隔ノ地ニアリテ其手續ヲ爲スタメ多クノ日數ヲ要シ往來頻繁ナル道筋ニシテ交通保安上瞬時モ差措キ難キ場合ニ於テハ一面ハ該派出所ニ報告シ一面ハ交通上差間ナキマテニ取除キ之レカ爲メ費用ヲ要シタルトキハ同所ニ請求スルコトヲ得ヘシ

但本文取除キ又ハ伐截ニ係ル數等ハ詳細取調ノ上其時々所轄派出所ニ通牒スヘシ

第四編

農商工

第一章

農商務

○丙第五十號 明治十七年 二月二十八日

郡役所  
戶長役場

勸業委員及勸業會別紙準則ニ據リ設置候様可致此旨相達候事

勸業委員設置準則

第一條 勸業委員ハ昨年太政官第十三號布達ニヨリ設置シ勸業上諸般ノ事ヲ擔任スルモノトス

第二條 勸業委員ハ一郡ニ二人ヲ選定スヘシ

第三條 勸業委員ハ處務順序ニ依リ請持部内ノ農商工事ノ進歩ヲ圖リ及ヒ縣廳郡役所ノ指揮スル處ノ事務並ニ戶長ヨリ協議ノ事項ヲ處辦シ郡長又ハ戶長ノ諮問ニ答フヘシ

第四條 郡長又ハ戶長諮問ノ事項ハ概テ左ノ各項ニ據ルヘシ

- 一 海陸運漕ノ利害開鑿修築ニ關スル事
- 二 溝渠用惡水疏通ニ關スル事
- 三 農商工水産山林鑛山ノ利害及改良保護ニ關スル事
- 四 農商工水産山林鑛山ニ關スル統計ノ事

第五條 勸業委員ノ選舉法及ヒ處務ノ順序方法ハ郡長ニ於テ 方案ヲ設ケ一郡聯合町村會

十九年三月  
十號參看

十九年二月  
丙第四

十六號參

農商務

ノ評決ヲ取ル縣令ノ認可ヲ受クヘシ  
第六條 勸業委員ハ其要スヘキ人員ノ二倍ヲ選舉セシメ以テ縣令ノ選抜ニ供スルモノトス

第七條 勸業委員ノ選舉ハ郡長之ヲ管理スルモノトス

第八條 郡長ハ其當選人ノ住所姓名年齢籍籍職業等ヲ明記シ縣令へ上申スルモノトス

第九條 勸業委員ハ農商工事ノ篤志者ニシテ其郡内ニ本籍ヲ定メ兼テ名望ヲ有スルモノヲ選舉スヘシ

第十條 勸業委員ノ任期ハ滿五カ年トス

但再任スルコトヲ得又任期中下雖トモ縣令ノ意見ニヨリ改選セシムルコトアルヘシ  
第十一條 勸業委員ハ町村若クハ聯合町村ニ於テ開設スル所ノ勸業各會ノ會員タルコトヲ得

第十二條 勸業委員ニ月手當金及旅費日當ヲ支給セントスルトキハ豫メ一郡聯合町村會  
ノ評決ヲ取ルヘシ

但月手當金ハ一郡ノ總額ヲ金貳拾圓以内トシ適宜支給スヘシ  
第十三條 前條ノ費用ハ一郡聯合町村費ヲ以テ支辨スヘシ

勸業會設置準則

第一條 一町村若クハ聯合町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工業ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルコトヲ得

二十年二月十一日  
勸令第二十一號  
參看  
十九年四月十六號  
同  
上

明治十九年四月十六號  
勸令第四十六號  
參看  
同  
上

第二條 前條ノ各會ハ農商工事ヲ講究シ改良進歩ヲ圖ルヘシ

第三條 前條ノ各會ヲ開設スルトキハ其町村若クハ聯合町村内農商工事ニ名望アルモノヲ公選シテ會員トナスヘシ又勸業委員ヲシテ會員ニ加フルコトヲ得

第四條 各會ハ其會則ヲ定メ縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

第五條 各會ハ農商務大臣及ヒ官廳ヨリ各地方勸業上ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ審議スヘシ

第六條 各會ハ勸業上ノ公益ノ件ニ付農商務大臣及官廳ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

第七條 各會諸費ハ町村又ハ聯合町村費ヲ以テ支辨シ若クハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此限ニアラス

○縣令第二十五號 明治二十一年五月十二日

重要物産ノ改良蕃殖ニ關スル農工商同業組合ヲ設ケ規約ヲ定メ縣令ノ認可ヲ請フモノハ左ノ準則ニ據ルヘシ

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ従事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスルモノ組合ヲ設ケントスルトキハ適宜地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り縣令ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

農商務



- 第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ
  - 第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
  - 第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置
  - 第三項 目的及方法
  - 第四項 役員ノ選舉法及權限
  - 第五項 會議ニ關スル規程
  - 第六項 加入者及退去者ニ關スル規程
  - 第七項 費用ノ徵收及賦課法
  - 第八項 違約者處分ノ方法
- 右ノ外組合ニ於テ必用トナス事項
- 第四條 組合ノ設アル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ  
但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルトキハ縣廳ニ申出其認定ヲ請フヘシ
- 第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
- 第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年三月縣廳ニ報告スヘシ
- 第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フヘシ
- 第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ

但其聯合他管轄ニ涉ルトキハ開會地管轄ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

第十條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ミ謂レナシ其組合ニ加盟セサル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

○訓令乙第十三號 明治二十一年五月十二日

郡 役 所  
戶 長 役 場

勤勉貯蓄報告ノ儀ニ付左ノ通農商務大臣ヨリ訓令相成候條本年ニ於テハ昨二十年末ノ現況本月三十一日迄ニ爾後ハ前年末ノ結果ヲ翌年二月迄ニ縣廳ニ報告スヘシ

農商務省令第二十號 明治二十一年四月二十七日

府 縣

明治十八年當省第二十號邁勤勉貯蓄ノ儀ハ單ニ當時凶荒ノ兆アリシカ爲ノミニ止ラサルノ必要アレハ先以テ客年末ノ現況ヲ報告シ爾後ハ前年末ノ結果ヲ翌年三月迄ニ報告スヘシ

○訓令第二十八號 明治二十二年七月二十日

郡 市 役 所

明治十九年五月丙第百二號邁農商務通信規則及農商務通信事項統計樣式別冊ノ通改正ス但別冊ハ本縣農商務課ヨリ送付ス

○縣令第二十九號 明治二十四年四月七日

(表式ハ報告例ニ詳ナリ)

勸業諮問會規則左ノ通相定ム

勸業諮問會規則

第一條 勸業諮問會ハ左ノ事項ヲ諮問ス

- 一 水陸運輸ニ關スル事
- 一 溝渠用悪水ニ關スル事
- 一 農商工水産山林及礦業ニ關スル事
- 一 氣象測候ニ關スル事

第二條 諮問會ハ民業上公益ノ件ニ付會員ノ一致ヲ以テ知事ニ其意見ヲ具申スルコトヲ得

第三條 諮問會員ハ農商工事ニ名望アル者及該業ニ篤志ナル者ノ中ヨリ左ノ割合ヲ以テ知事之ヲ選定ス其人員ハ三十五名トス

- 山形市 二名
- 南村山郡 二名
- 東村山郡 三名
- 西村山郡 三名
- 北村山郡 三名
- 最上郡 三名
- 飽海郡 三名

東田川郡 三名

西田川郡 三名

西置賜郡 三名

東置賜郡 三名

南置賜郡 二名

米澤市 二名

第四條 諮問會員ノ任期ハ定限ナシ但臨時其一部又ハ全部ヲ改選スルコトアルヘシ  
第五條 農商務省官吏又ハ知事ノ特ニ許可シタル者ハ會場ニ列シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第六條 諮問會ノ會頭ハ知事又ハ知事ノ委任ヲ受ケタルモノ之ニ任ス

第七條 説明委員及ヒ書記ハ知事其屬官中ヨリ之ヲ命ス

第八條 諮問會ハ總テ談話ノ体ヲ用ヒ諸説ノ採擇ハ會頭ノ意見ニ依ル但會員ノ意見ヲ識別スル爲メ可否ヲ表セシムルコトアルヘシ

第九條 諮問會ハ毎年一度之ヲ開キ其開閉ハ知事ヨリ之ヲ命シ會期ハ十五日以内トス但臨時諮問ヲ要スル事件アルトキハ知事ハ臨時諮問會ヲ開クコトアルヘシ其會期ハ七日以内トス

第十條 第二條ニ依リ意見ヲ具申セントスルトキハ知事ノ許可ヲ得テ會期內ニ於テ會議ヲ開クコトヲ得

### 第二章 農業

○丙第百五十四號 明治十四年 十月二十四日

郡役所

從來無之虫害ヲ發見シ報告スルトキハ左記ノ如ク何部類似ノ方言何ト稱スル云々記載候様可致尤勸業世話掛通信委員ヘモ無漏可相達此旨相達候事

#### 虫類區別

- 無翅部 蛋、虱、蠅、等之ニ屬ス
- 甲翅部 金龜子、天牛、叩頭蟲、及螞蟻、等之ニ屬ス
- 膜翅部 蜂、蟻、鋸花娘子、等之ニ屬ス
- 直翅部 螞蟻、螞蟻、等之ニ屬ス
- 鱗翅部 蝶、蛾、及其蠶、蠶、尺蠖、等之ニ屬ス
- 半翅部 蚜虫、椿象、蟬、浮塵子、等之ニ屬ス
- 雙翅部 蠅、蚊、等之ニ屬ス
- 右ノ外 蛇、蛙、蟹、蚯蚓、蜈蚣、蛞蝓、蝸牛、蜘蛛、等ハ各其名ヲ稱スヘシ

○丙第七號 明治十七年 一月十二日

管下所産ノ種苗購求方ノ儀自今各府縣郡區役所ヨリ直チニ其郡役所ヘ依頼候儀モ可有之

郡役所

候條爲心得此旨相達候事

○丙第二百七十六號 明治十八年 十二月二十四日

郡役所 戶長 役場

管下薄荷ノ儀ハ東置賜郡ニ濫觴シ漸次本縣下ハ勿論各府縣ニモ普及スルハ近來外國ニ於テ藥品其他ノ需用稍々増加セシヨリ只目前ノ小利ニ眩惑シ其製造ノ良否ヲ監別セス或ハ濫造ヲ爲スカ如キニ至テハ爲メニ市價ヲ低落シ隨テ損失ヲ招キ一己ノ利益ヲ失フノミナラス遂ニ輸出ノ途ヲ塞クノ弊害ヲ來スハ必然ノ儀ニ有之候條左ノ組合準則ニ基キ速ニ規約可爲相立次ニ薄荷栽植者ニ至テモ間ニハ在來ノ桑樹ヲ切斷シ薄荷圃ニ變更シ或ハ目下該苗購求者ノ陸續不絶ノ機ニ乘シ其品位ヲ欺キ販賣スル等奸曲ノ所業ヲ爲スモノモ不悞哉ニ相聞是等ノ如キモ將來ヲ慮ラサルノ爲ス所ニシテ若此儘放任スルニ於テハ後日何等ノ影響ヲ及スヤモ難計候條郡役所ニ於テハ時々主任員ヲ派遣シ戶長ヘ篤ト協議ノ上懇篤其事理ヲ説諭シ猶實地ノ狀況ヲ監査シ其弊ヲ防キ奸曲ヲ矯正スルノ途ニ十分盡力可致此旨諭達候事

但此際先以テ速ニ主任員ヲ派遣シ猶今後トモ其都度復命書寫ヲ以テ景况可届出候事

#### 薄荷業組合準則

第一條 薄荷業ニ從事スルモノハ製造者ト販賣者トヲ問ハス郡又ハ町村ノ區畫ヲ定メ組合ヲ設置スヘシ

但自用ノミニ供スルモノハ此限リニアラス

第二條 組合ノ名稱ハ山形縣下何(郡町村)薄荷業組合ト稱スヘシ

第三條 組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項 薄荷製造人ハ不正濫造ヲナシ賣買セサルコト

第二項 賣買營業人ハ前項ノ不正濫造品ヲ取引セサルコト

第三項 不良薄荷ノ種類ヲ栽培セサルコト

第四項 製造品ノ検査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及ヒ製造上ノ弊害ヲ矯正スルコト

第五項 製造品ハ其組合ノ名稱及製造人ノ姓名其他製造原葉ノ種類ヲ明記シタル標章

ヲ附シ賣買スルコト

第四條 右ノ外本年(二月)丙第四十九號逋同業組合準則第三條以下ニ準據スヘシ

○甲第九號 明治十九年 六月五日

田圃害虫豫防規則別紙ノ通相定ム

右布達ス

田圃害虫豫防規則

第一條 豫防スヘキ害虫ハ蝗虫浮塵子螟虫苞虫螟蛉泥虫穗家蝓蠨天牛尺蠖ノ十種トス

第二條 驅虫區域ハ一郡ヲ以テ大區トシ一戶長所轄ヲ以テ一小區トナスヘシ

第三條 害虫田圃ニ發生セシトキハ其作人ハ直ニ驅除ニ着手シ尙ホ蔓延ノ徵候アルトキ

ハ戶長ニ届出ヘシ

第四條 害虫驅除ノ場合ニ於テハ其區域内田圃耕作者ハ戶長ノ指揮ニ依リ驅除ニ從事ス

ヘシ

第五條 害虫蔓延ノ勢熾ニシテ區域内ノ力ニ及ハサルトキハ隣區交互救援スヘシ

第六條 害虫蔓延ノ區域二小區以上ニ跨ルトキハ郡長ニ於テ驅除方法ヲ實施スヘシ

第七條 害虫蔓延ノ區域他ノ大區ニ跨ルトキハ各大區毎ニ驅除方法ヲ實施スヘシ

第八條 驅除方法ヲ實施セシトキハ戶長ハ郡長ニ郡長ハ縣廳ニ届出ヘシ

但驅除ノ景況ハ時々縣廳ニ報告スヘシ

第九條 第三條ヲ除キ驅虫ニ係ル一切ノ費用ハ町村費ヲ以テ支辨スヘシ

第十條 本則第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

○乙第二十二號 明治十八年 三月二十五日

種牡牛馬取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

種牡牛馬取締規則

第一條 牡牛馬ヲ種用ニ供度者ハ其都度別紙第一式ニ據リ願出鑑札ヲ受クヘシ

第二條 種牡牛馬ハ其血統正確ニシテ左ノ項目ニ合格スルモノヲ用ユヘシ

第一 牛ハ滿二歳以上滿十歳以下ノモノ

但洋種ハ十歳以上ニ至ルモ妨ナシ

第二 馬ハ滿三歳以上滿十六歳以下ノモノ

但洋種ハ十六歳以上ニ至ルモ妨ナシ

- 第三條 遺傳病ナキモノ
- 第四條 惡癖ナキモノ
- 第五條 強壯ニシテ骨格善良ナルモノ
- 第六條 牛ハ四尺以上ノモノ
- 第七條 馬ハ四尺五寸以上ノモノ
- 第三條 種牡牛馬ヲ臨時検査スルコトアルヘシ  
但検査ノ節不都合ノ廉アルトキハ直ニ鑑札ヲ引揚クヘシ
- 第四條 交尾ノ節ハ必ズ鑑札ヲ携帯スヘシ
- 第五條 鑑札ヲ所持セサルモノハ交尾ヲ許サス
- 第六條 種牡牛馬買受或ハ讓受ノ節ハ其都度別紙第二式ニ據リ鑑札受取方願出ツヘシ
- 第七條 種牡牛馬賣渡或ハ讓渡ノ節ハ其都度別紙第三式ニ據リ鑑札ヲ添ヘ届出ツヘシ
- 第八條 種牡牛馬廢止ノ節ハ別紙第四式死亡ハ第五式ニ據リ其都度鑑札ヲ添ヘ届出ツヘシ

第一式

種牡牛鑑札下渡願

書式中〇印ハ朱

何國何郡何町村何番地  
族籍  
所有主何之誰

種類	名稱	毛色	寸尺	月 出產年 日	産地	畜養地	血統	事由
○内國種又ハ洋種牛ハ短角ハ乗用農用等	何々	何々	何寸	何年何月何日	何國何郡何町村又ハ何牧場	何國何郡何町村又ハ何牧場	父何種何號 母何種何號	過去疾病等ノ景况
○	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、	、、、

右ノ種牡牛馬取締規則第二條ニ適應スル者ニ付種用ニ供度候間鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年月日 何之誰印

縣令宛

前書之通願出候ニ付奥印候也

何町村或外何ヶ町村

戸長何之誰印

第二式

種牡牛(買受)(讓受)ニ付鑑札御下渡願

何國何郡何町村何番地

種	類	名稱	毛色	寸尺	出產年月日	產地	畜養地	血統	讓渡人	代價	事由
○	內國種又ハ	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何
○	洋種牛ハ短角	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何
○	ハ乗用農用等	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何

右之通ニ相違無御座候間鑑札御下渡被下度此段奉願候也

年月日 縣令宛

前書之通願出候ニ付與印候也

第三式 年月日 種牡牛(賣渡)(讓渡)御届

何町村或外何ヶ町村 戸長 何之 誰印

(買受)(讓受)人何之誰

種	類	名稱	毛色	寸尺	出產年月日	產地	畜養地	血統	讓渡人	代價	事由
○	內國種又ハ	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何
○	洋種牛ハ短角	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何
○	ハ乗用農用等	何々	何々	何寸	何何何	何何何	何何何	母父何何	何何何	何	何

右ノ通ニ相違無御座候間鑑札相添此段及御届候也

年月日 縣令宛

前書ノ通届出候ニ付與印候也

何町村或外何ヶ町村 戸長 何之 誰印

(賣渡)(讓渡)人何之誰

第四式

種牡牛種用廢止御届

何國何郡何町村何番地

族籍

所有主何之誰

種	類	名稱	毛色	寸尺	出產年月日	血統	事由
○ 內國種又ハ洋種 牛ハ短角デボン種 等馬ハ乘用農用等		何々	何々	何尺何寸	何年何月何日	父何種何號 母何種何號	○ 斃死屠殺或 廢止セシ事由

右之通ニ相違無御座候間鑑札相添此段及御届候也

右

年月日

縣令宛

何之誰印

前書ノ通届出候ニ付奥印候也

何町村或外何ヶ町村

戸長何之誰印

第五式

種牡馬死亡御届

何國何郡何町村何番地

族籍

所有主何之誰

種	類	名稱	毛色	寸尺	出產年月日	血統	事由
○ 內國種又ハ洋種 牛ハ短角 デボン種等馬 ハ乘用農用等		何々	何々	何尺何寸	何年何月何日	父何種何號 母何種何號	○ 斃死屠殺或 ノ事由

右ノ通ニ相違無御座候間鑑札相添此段及御届候也

右

年月日

縣令宛

何之誰印

前書之通届出候ニ付奥印候也

第六式

年月日

何町村或外何ヶ町村

戸長 何 之 誰 印

四寸

第何種號	種牡牛(馬)鑑札
持主	何郡何町村何番地
族籍	何之誰
年號月日	山形縣
	山形縣印

種牡牛(馬)	名稱何々
何種	毛色何々
何種	出産年月何々
父	何々
母	何々

○縣令丙第十七號 明治十九年十月二十七日  
 他府縣下所産ノ種苗ヲ購求セントスルトキハ代價遞送費等豫算金ヲ添付シ該府縣郡區役所へ照會スヘシ

○縣令第四十四號 明治二十年四月二十七日  
 明治十九年(八月)農商務省令第九號ニ基キ蠶種検査手續左ノ通相定ム

第一條 蠶種製造又ハ販賣ノ鑑札ヲ受ケントスル者ハ毎年五月三十一日迄ニ甲號書式ニ

明治二十一年五月廿六號令參看

據リ縣廳ニ願出ツヘシ

第二條 蠶種製造者ハ其掃立枚數及製造額ヲ乙號書式ニ據リ期日內ニ届出ツヘシ

第三條 蠶種ノ検査ハ左ノ方法ニ據ル

但顯微鏡ハ五百倍以上ノモノトス

一 蠶種ノ全面ヲ撫摩シテ卵子百粒許リヲ取り其中ヨリ惡シキモノ五十粒ヲ撰テ之ヲ十分シ其一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ盛リ苛性加里ノ稀薄液一滴ヲ加ヘテ能ク之ヲ磨碎シ其液ヲ顯微鏡ニ照シテ四隅及中央ヲ丁寧ニ觀察シ(之ヲ一回ノ觀察トス)毎鏡而微粒子ノ有無ヲ檢シ左表ニ據リ病毒歩合ヲ定ムヘシ

視察中微粒子ヲ目撃セル回数	百分中ノ歩合	原種	製絲用種
一回	二	使用ニ適スルモノ	使用ニ適スルモノ
二回	四	以下廢棄スヘキモノ	
三回	六		
四回	八		
五回	一〇		
六回	一二		



七回	八回	九回	十回
一四、	一六、	一八、	二〇、
以下廢棄スヘキモノ			

病毒ノ歩合ヲ定ムルニハ視察中微粒子ヲ目撃セル數ニ二ヲ乘シ以テ百分ノ歩合トナス

第四條 製糸用蠶種ハ同種類中ニ於テ病毒多シト認ムルモノヨリ順次検査ヲナシ病毒百分ノ十五以内ノモノヲ檢出セルニ至リテ止ム

第五條 初季製造ノ夏蠶種ハ毎年六月二十日ヨリ秋蠶種ハ毎年八月十日ヨリ検査ス但ニ季製造夏蠶種ノ検査期日ハ春蠶種ノ検査期日ニ同シ

第六條 蠶種検査所ノ位置ハ其時々告示スヘシ

第七條 蠶種ノ産額多カラスシテ製造者各地ニ散在ナル地方ハ巡回検査ヲナスコトアル

第八條 検査スヘキ蠶種ハ本人ノ望ニ依リ一時検査所ニ預クルコトヲ得

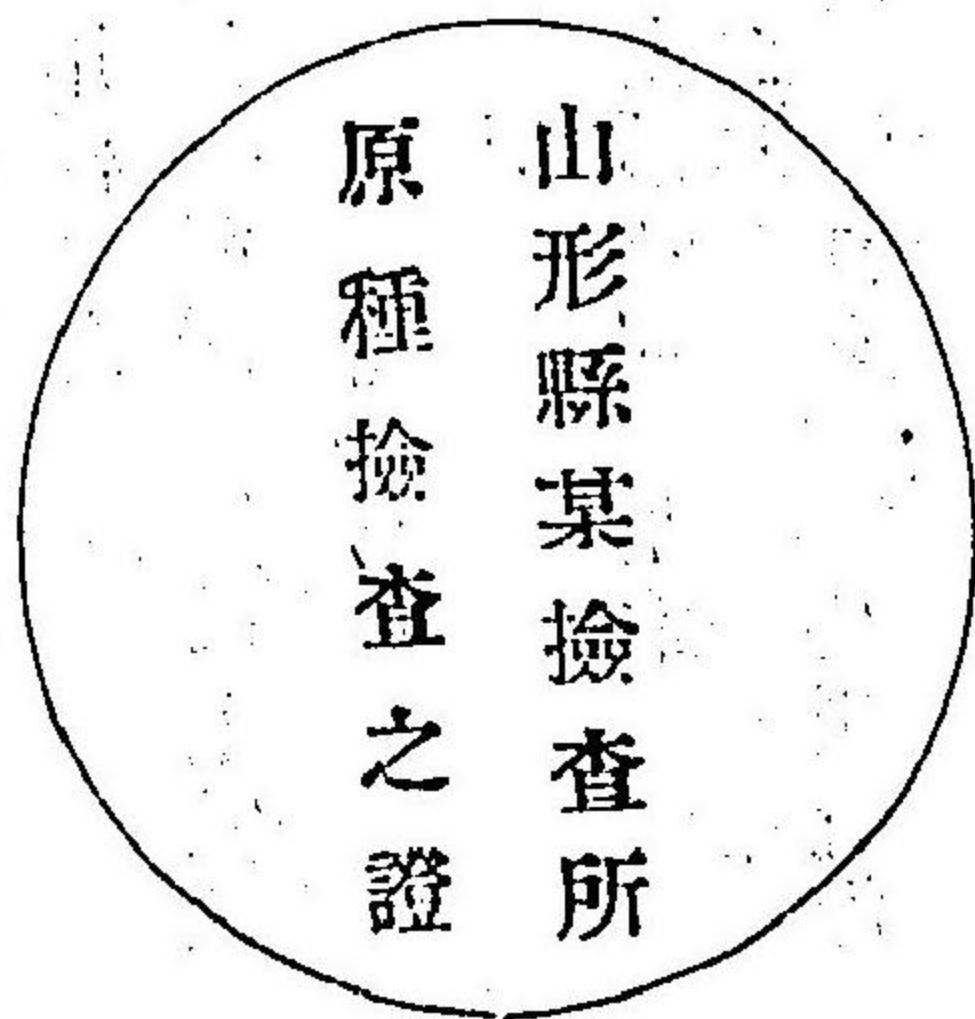
但検査所ハ相當ノ保管ヲナスト雖トモ不慮ノ災害ニ罹リタルトキハ辨償ノ責ニ任セ

第九條 検査證印及廢棄證印ヲ定ムルコト左ノ如シ

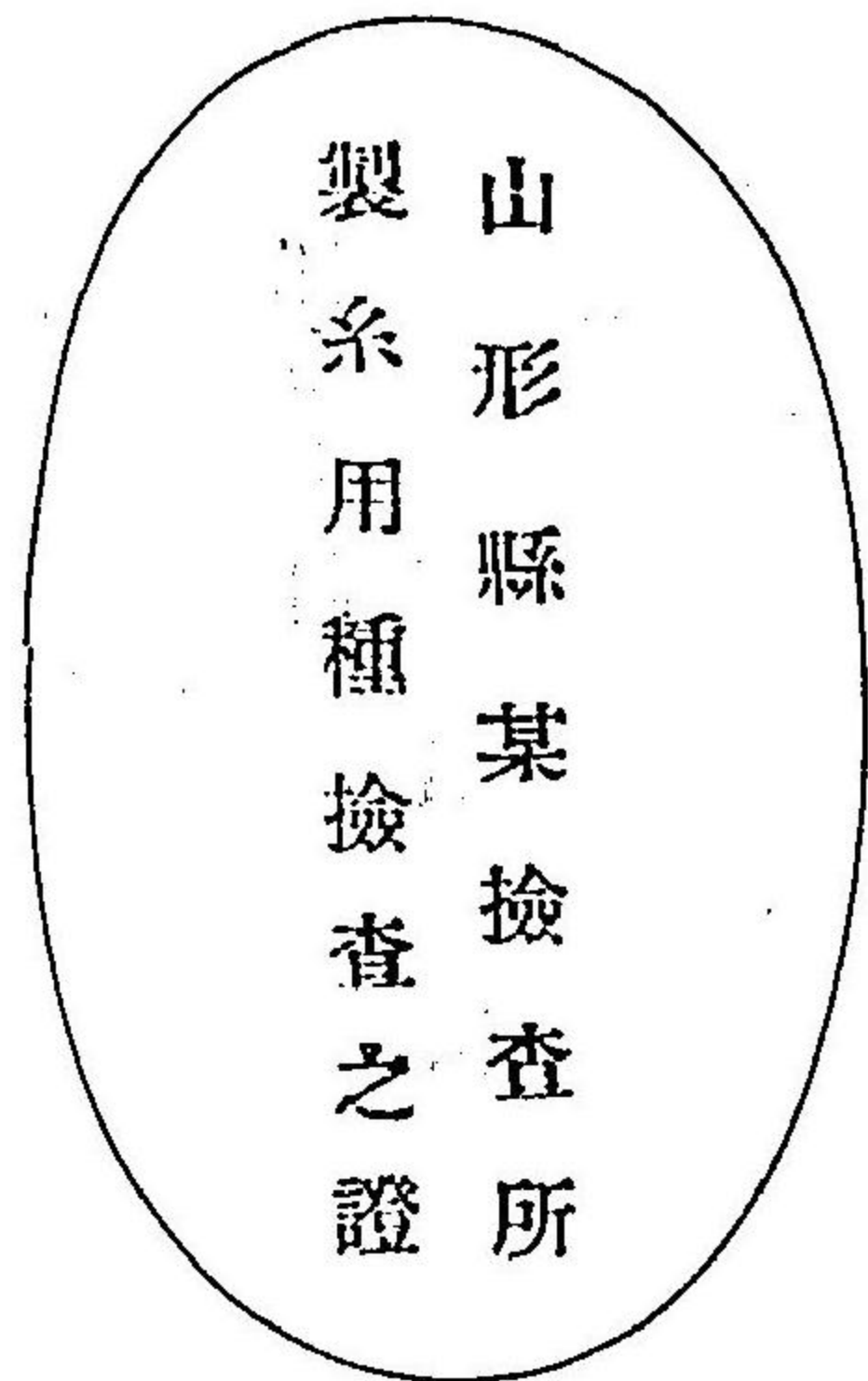
原種検査證印

製糸用種検査證印

圓形 徑一寸五分

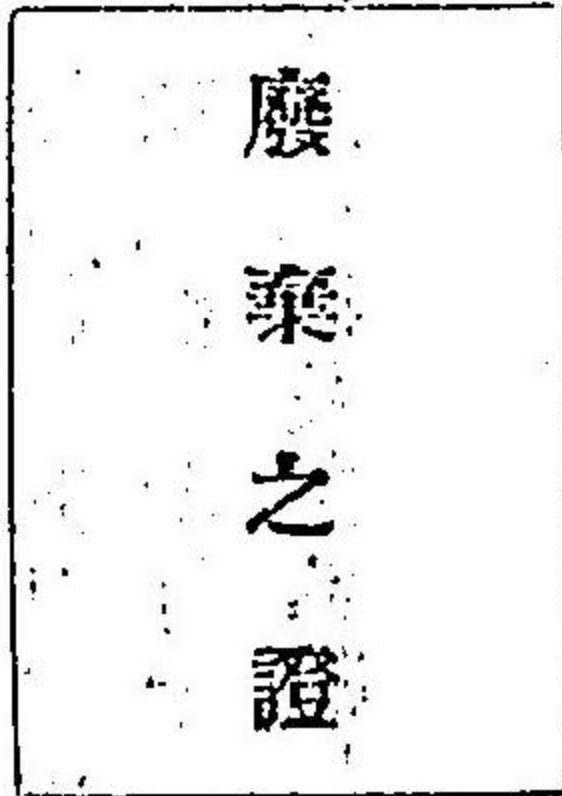


楕圓形 縱一寸 橫八分



廢棄證印

長方形 縱一寸 橫五分



第十條 自宅外ニ於テ蠶種ヲ販賣スルトキハ鑑札ヲ携帯スヘシ

甲號書式 蠶種鑑札下付願

私儀

蠶種製造若クハ販賣又仕度候間鑑札御下付被成下度此段奉願候也

明治二十二年四月十三號  
縣令第三十三號

乙號書式

年月日

山形縣知事某殿

何郡市町村

氏名

印

春蠶種 七月三十一日  
夏蠶種 五月二十一日  
秋蠶種 七月十一日

春蠶種掃立枚數及製造額届

一春蠶種掃立

何枚

一春蠶原種用種製造

普通製何枚 拵製何枚

一春蠶製系用種製造

何枚

右蠶種掃立及製造額御届申上候也

年月日

何(郡市)町村

氏名

印

山形縣知事某殿

夏蠶種 掃立枚數及製造額御届  
秋蠶種

一夏蠶種掃立

何枚

夏蠶種 原種用種製造  
秋蠶種 製系用種製造  
右蠶種掃立及製造額御届申上候也

普通製何枚 拵製何枚

何枚

年月日

何(郡市)町村

氏名

印

山形縣知事某殿

○訓令第八十六號 明治二十三年十二月十七日

郡市役所

米麥作物報告ノ義ニ付左記之通農商務大臣ヨリ訓令相成候條自今右訓令ニ依リ報告スヘシ

農商務省訓令第六十二號

北海道廳 府縣

米麥作物當省へ報告ノ節ハ前期十箇年間收穫高ノ平均數ヲ以テ後期十箇年間ノ平年作ト定メ其増減歩合ハ百分率ヲ用ユヘシ  
但明治二十三年ヨリ向フ十箇年間ハ明治十三年ヨリ明治二十二年ニ至ル十箇年間收穫高ノ平均數ヲ取リ自後每期遞次比例ニ據ルヘシ

○訓令第五號 明治二十四年一月十九日

郡役所

客年十二月訓令第八十六號米麥作柄報告ニ用ユヘキ各都市平年作別表之通相定メ候ニ付  
 自今(明治三十二年迄)作柄報道ノ節ハ該表中其都市ノ平均産額ニ比較シ増減歩合ヲ取調  
 報告スヘシ

明治十三年ヨリ同二十二年ニ至ル十ヶ年間各都市平均一反歩收穫高表

郡市名	種類	一反歩收穫高	郡市名	種類	一反歩收穫高
北村山郡	糯粳米	一〇九八	飽海郡	糯粳米	一三三九
西村山郡	糯粳米	一〇九八	南置賜郡	糯粳米	一三五二
東村山郡	糯粳米	一〇九八	東置賜郡	糯粳米	一〇九〇
南村山郡	糯粳米	一〇九八	西置賜郡	糯粳米	一〇九〇
	小麥	一〇九八		小麥	一〇九〇
	大麥	一〇九八		大麥	一〇九〇
	糯米	一〇九八		糯米	一〇九〇
	粳米	一〇九八		粳米	一〇九〇

郡市名	種類	一反歩收穫高	郡市名	種類	一反歩收穫高
最上郡	糯粳米	一〇九八	山形市	糯粳米	一〇九八
東田川郡	糯粳米	一〇九八	米澤市	糯粳米	一〇九八
西田川郡	糯粳米	一〇九八	全管平均	糯粳米	一〇九八
	小麥	一〇九八		小麥	一〇九八
	大麥	一〇九八		大麥	一〇九八
	糯米	一〇九八		糯米	一〇九八
	粳米	一〇九八		粳米	一〇九八

備考 本表ハ明治十三年以來各都市ヨリ差出シタル普通物産表農事調査書等ノ統計ニ據  
 リ調製ス

○訓令第四十五號 明治二十四年 三月二十三日

米麥養蠶概況報告手續別紙之通相定ム

但明治二十二年七月訓令第二十八號農商務通信事項中米穀作付反別及收穫石高概算表  
 麥作付反別及收穫石高概算表繭産額概算表ハ自今差出スニ及ハス

(表式ハ報告例ニ詳ナリ)

○縣令第四十七號 明治二十四年 五月二十六日

明治十九年(一月)乙第三號布達蠶糸業組合規則左ノ通改正ス

蠶糸業組合規則

- 第一條 蠶糸業ニ從事スルモノハ製品ヲ改良シ販路ヲ擴張シ業務上ノ弊害ヲ矯正スル目的ヲ以テ組合ヲ設置スヘシ
- 第二條 組合ノ區畫ハ郡市又ハ町村ニ依リ區内同業者ハ其組合ニ加入スヘシ  
但自家用ニ供スルモノハ此限ニアラス
- 第三條 組合ハ部内便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理シ縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ設ケ各組合ノ氣脈ヲ連通シ規約ノ實施ヲ監査スヘシ
- 第四條 組合ハ此規則ニ依リ組合及取締所ノ規約ヲ定メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 組合ニハ組長ヲ置キ組合ニ關スル事務ヲ擔任セシメ取締所ニハ頭取ヲ置キ取締ニ關スル事務ヲ管理セシムヘシ
- 第六條 組合規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ  
第一 組合ノ名稱地區及事務所ノ位置  
第二 組合ニ於テ施行スヘキ事件  
第三 役員ノ選舉及責任ノ事  
第四 組合會議ノ事  
第五 費用賦課徵收支出ノ事  
第六 違約者處分ノ事
- 第七條 取締所規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 第一 取締所ノ位置
- 第二 組合員證票ノ事
- 第三 各組合ニ通シテ施行スヘキ事件
- 第四 役員ノ選舉及責任ノ事
- 第五 取締所會議ノ事
- 第六 費用賦課徵收支出ノ事
- 第八條 組合員證票ハ當廳ノ檢印ヲ受ケ組合員營業ノ爲メ外出スルトキハ之ヲ携帯スヘシ
- 第九條 組合地區内ニ於テ製種用原繭製糸用蠶種及生糸ヲ製造賣買スル者ハ組合員タルト否トニ拘ラス組合事務所ノ檢査ヲ受ク可シ
- 第十條 此規則第一條第二條第八條及第九條ニ違背シタル者ハ一日ノ拘留又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第二章

商業

- 乙第十九號 明治十四年一月三十一日  
諸會社ノ儀爾來營業ト否トヲ問ハス創立ノ向ハ其方法書相添縣廳へ可届出此旨布達候事但シ成規ニ因リ許可ヲ受クヘキ部分ハ渾テ從前ノ通り
- 丙第五十三號 明治十六年三月三十日

郡役所

戶長役場

私立銀行並ニ銀行類似會社ノ儀是迄創立届出履行致シ來リ候處自今創立ノ際ハ其定款規定相副出願允許ノ上可致施行儀ト可相心得此旨相違候事  
但定款規定等改正ノ節モ本文ニ準シ更ニ稟議可致候事

○縣令第九十四號 明治二十年 十二月二十二日

私立銀行諸會社組合(役印ヲ押用スル條例)等ノ役員ニ於テ諸證書ニ押用スル印章ノ儀ハ  
規則アルモノヲ除ク)等ノ役員ニ於テ諸證書ニ押用スル印章ノ儀ハ

明治十年七月第五十號同九月第六十四號布告ノ通寶印ヲ押用スヘシ

○縣令第九號 明治二十一年 二月九日

諸會社ノ組織若クハ規則等ヲ加除變更シ又ハ解社セシトキハ明治十四年一月本縣乙第十九號布達ニ準據シ縣廳ニ届出ツヘシ

○訓令甲第三十六號 明治二十一年 六月二十一日

郡役所

私立銀行ノ本支店若クハ分店出張所等各自所在地ニ於テ每半季決算ノ際左ノ項目ニ據リ調製シタル營業報告書ヲ徵シ毎年(一七)月十五日迄ニ縣廳ニ差出スヘシ  
但從前考課狀ノ類ヲ調製シ株主ニ配賦シ來リ候向ハ別段新調ニ不及該考課狀一部ツ、ヲ徵シ差出スヘシ

私立銀行營業報告書ニ記載スヘキ項目

- 一 現拂込ノ資本金及積立金高(前季迄ニ積タル高)
  - 一 支店若クハ分店(若シ之)ノ箇所及位置
  - 一 半季間ノ入金額及出金高
  - 一 定季預金當座預金振出手形諸預金
  - 一 右ハ官用ト人民トヲ區別シテ半季間ノ預高及半季末日ノ殘高
  - 一 貯藏預金ハ半年間ノ預高及半季末日殘高同口數
  - 一 國庫預金ハ半季間預高及末日殘高
  - 一 貸付金(滯貸ヲ區別スヘシ)當座預金貸越ハ半季間ノ貸出高及末日殘高
  - 一 割引手形ハ半季間ノ割引高及末日殘高
  - 一 爲換 荷爲換、代金取立手形ハ半季間取扱タル總高
  - 一 右爲換ハ官用ト人民トヲ區別スヘシ
  - 一 公債證書ハ各種類(整理公債、金)ヲ區別シテ其額面地金ハ金銀ヲ區別シテ其實價
  - 一 所有通貨ハ貨幣ノ種類ヲ區別シ右各半季末日ノ現在高ヲ記スヘシ
  - 一 純益金積立金割賦金及ヒ株金ニ對スル割賦金ノ割合
- 縣令第六十三號 明治二十一年 一月二十二日
- 明治二十年(十二月)縣令第九十四號中私立銀行並ニ銀行類似會社ニ限リ諸證書ニ押用スル印章ハ爾今役印ヲ押用スルモ苦シカラス

### 第四章 漁業

○乙第四十八號 明治十五年四月十一日

露國樺太島へ漁業出稼志願ノ者有之候節向後都テ在哥爾薩港領事館ヲ經由露國地方官へ照會ノ上處分相成候筈候條本縣廳ノ添書ヲ請直ニ該領事館へ出願可致此旨布達候事

但本文請願書ハ願人ヨリ直ニ在港領事館へ携往スルカ或ハ郵送スヘキ等ニ候處原來該港へハ未タ郵便通信定期航海ノ船路等無之ニ付願書ハ本縣廳ノ添書ト共ニ糊封ノ上願人貫籍姓名ヲ詳記シ在哥爾薩港領事館宛ニテ願件ヲ旁書シ願人ヨリ外務省へ差出候ヘハ公信便ヲ以該館へ遞送相成候筈尤都合ニヨリ自身持越候カ或ハ好便ニ托シテ出願候ハ勿論其便宜ニ任セ候儀ニ候事

○乙第九十一號 明治十七年九月二十二日

河川漁業及ヒ種川取締規則別紙ノ通相定來十月一日ヨリ施行候條此旨布達候事但此規則ニ抵觸スル從前ノ布達及ヒ指令等ハ總テ取消ス

#### 河川漁業及種川取締規則

##### 第一章 漁業取締

第一條 河川ニ於テ漁業ヲ營ムモノハ總テ此規則ニ據リ出願許可ヲ受クヘシ

但自家食料ノ爲メ竿釣又ハ投網手網等ヲ以テ一時雜魚ヲ捕フルモノハ許可ヲ受ルノ限ニアラス

第二條 漁場區域及ヒ漁業上ノ申合セ等ハ總テ從來ノ慣行ニ據ルモノトス

但別段ノ布達アルモノハ此限りニアラス

第三條 從來甲乙入會營業ノ場所ハ別紙第一號雛形ニ倣ヒ一同連署ノ上身元及ヒ地元戶長ノ調印ヲ受ケ郡役所ヲ經テ出願スヘシ

第四條 從來一己營業ノ場所ハ第二號雛形ニ倣ヒ前條ニ準シ出願スヘシ

第五條 從來營業者有之場所へ入會營業ヲ爲スモノハ該營業者ノ承諾書ヲ添第一號雛形ニ倣ヒ第三條ニ準シ出願スヘシ

第六條 從來營業者無之場所ニ於テ新タニ營業ヲ爲スモノハ第二號雛形ニ倣ヒ第三條ニ準シ出願スヘシ

第七條 漁業免許ノ者ハ其郡役所へ願出鑑札ヲ受クヘシ

但鑿場大網場等ハ一ヶ所ニ一枚居線網流網等ハ一組ニ一枚宛下附スルモノトス

第八條 免許鑑札ハ營業ノ際必之レヲ携帯スヘシ若シ檢閲ヲ請フモノアルトキハ直チニ之レヲ示スヘシ

第九條 免許鑑札ヲ紛失シ又ハ毀損シ若クハ水火盜難ニ罹リ或ハ改氏名轉居ノ節ハ其事由ヲ詳記シ鑑札書換又ハ更ニ下渡ヲ出願スヘシ

但水火盜難又ハ紛失等ノ節ハ二人以上ノ保證人連署スヘシ

第十條 鑑札書換又ハ更ニ下渡出願中營業ヲ爲ストキハ戶長ノ證狀ヲ受ケ之レヲ携帯スヘシ

第十一條 漁業ノ爲メ河川ヲ橫斷シ又ハ木石ノ構造ヲ爲スヘカラス

明治十七年三月  
乙卯年十一月  
治二十一年  
令第九號  
年九月  
六號  
明治十八年  
參看  
年八月  
號八月  
明治十八年  
一號  
縣令  
十六號  
同看  
上

但特許アルモノハ此限リニアラス  
第十二條 築場ノ構造ハ川幅三分ノ二ヲ過クヘカラス  
但支流ニ架設スルモノハ此限ニアラス  
第十三條 漁具ハ一漁業ニ付一人又ハ一組合一個(八ツ目筒)ノ外使用スヘカラス  
第十四條 鮭大網ハ長百八拾尋以内瀨引網ハ長三拾尋以内トス  
第十五條 鮭鱒鮎ノ卵及ヒ魚兒ヲ捕ルヘカラス  
第十六條 毎年九月二十日ヨリ十一月十五日迄毎日曜日午前第六時ヨリ翌月曜日午前第六時迄一晝夜ノ間都テ鮭魚ノ漁業ヲ爲スヘカラス  
第十七條 毎年十月二十日迄釣鮎(鏡釣ヲ以テ捕)ノ漁業ヲ爲スヘカラス  
第十八條 捕魚ノ爲メ毒流シ(アメ流シ等)乾シ川ヲナシ又ハ爆發藥等ヲ用ユヘカラス  
第十九條 卷持網建網搔倉及ヒ鵜繩ノ漁業ヲ爲スヘカラス  
第二十條 最上川々口ヨリ上流百五十間ノ間ニ於テ毎年十月一日ヨリ十二月三十日迄居線網流シ網亂レ流シ網差網地引網瀨引網ノ漁業ヲ爲スヘカラス  
第二十一條 最上川々口ヨリ左右沿海百間宛海面五百間ノ間ニ於テ前條日限中地引網ノ漁業ヲ爲スヘカラス  
第二十二條 左ニ掲クル諸川々口ヨリ上流三百間及ヒ下流最上川筋接續ノ沿岸長六百間川幅三分ノ一以内ニ於テ毎年四月十七日ヨリ六月二十五日迄同十月一日ヨリ十一月三十日迄鮭鱒魚ノ漁業ヲ爲スヘカラス

西村山郡

寒河江川

北村山郡

丹生川

最上郡

鮭川

同郡

小國川

飽海郡

相澤川

田川郡

赤川

第二十三條

漁業許可ノ場所ト雖トモ官用ノ節ハ之レヲ差止メ其構造アルモノハ取拂ハシムルコトアルヘシ

第二十四條

鮭鱒魚ノ種川ヲ定ムル左ノ如シ

鱒種川

西村山郡朝日川筋最上川へ落合迄

鮭種川

東村山郡高木村鮭川筋倉津川へ合シ最上川へ落合迄

北村山郡今町村押切川(東村山郡大清)水村境ヨリ下流亂川ニ合シ最上川へ落合迄

同郡荷口村荷口川筋最上川へ落合迄

第二十五條 朝日川ハ左ニ掲クル季節中一切ノ漁業ヲ爲スヘカラス

春土用ヨリ日數七十日間

秋彼岸前日數十日彼岸後日數二十日都合三十日間

第二十六條 左ニ掲クル場所ニ於テ一切ノ漁業ヲ爲スヘカラス

但鮭魚ノ種川ニ於テ從來ノ慣例アルモノニ限り特ニ許可スルコトアルヘシ

西村山郡立木村

朝日川字ユツナ留淵

同 上字ハラ石淵

同 上字善兵衛淵

同 上字中河原淵

同 上字ヤビツ淵

同 上字猿渡リ淵

同 上字ニノシメ淵

同 上字白瀧淵

同 上字玉ガ淵

同郡太郎村

同 上字大曲リ淵

第二十四條ニ掲クル鮭種川筋

第二十七條 左ニ掲クル場所ニ於テ鱒魚ノ漁業スヘカラス

朝日川落合ヨリ下流最上川筋西岸長六百間川幅三分ノ一以内

第二十八條 左ニ掲クル場所ニ於テ鮭魚ノ漁業ヲ爲スヘカラス

高木村鮭川筋種川落合ヨリ下流最上川筋東岸北村山郡亂川落合迄川幅三分ノ一以内

今町村押切川筋種川落合ヨリ下流最上川筋東岸北村山郡荷口川落合迄川幅三分ノ一

以内

荷口村荷口川筋種川落合ヨリ下流最上川筋東岸長六百間川幅三分ノ一以内

第三章 罰則

第二十九條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

○第一號雛形

入會漁業ノ儀ニ付願

何郡何町村地内何川筋字何

漁場長何間幅何間。(又ハ全川半川)

何漁業

何之某



此漁具幾個  
內壹個宛

外何名

組合  
何郡何町何番地  
何之某

組合

何之某  
外何名

何漁業  
此漁具幾個  
內壹個宛

明治十九年二月乙  
第十六號  
參看

右場所ニ於テ本年四月ヨリ來ル何年三月マテ一季間引續○(又ハ新規)入會漁業仕度尤稅  
金上納方ヲ始メ御規則堅遵守可仕候條御許可被成下度別紙漁場區畫圖漁具方法書○(又ハ  
及ヒ從來營業者承諾書)トモ相添此段奉願候也

年月日

右

何之某印

○數町村ニ涉ルトキハ每町  
村漁業限リ總代人相立出  
願スルモ苦シカラヌ

身元何所戶長

何之某印

地元何所戶長

何之某印

縣令宛

○第二號雛形

漁業之儀ニ付願

漁業

○印ハ朱書

何郡

何漁業。(又ハ鏡場)

漁具壹個。(又ハ一ヶ所)

右場所ニ於テ本年四月ヨリ來ル何年三月迄一季間引續。(又ハ新規)漁業仕度

漁業方法書トモ相添此段奉願候也

何郡何村何番地

年月日

何之某印

身元何所戸長

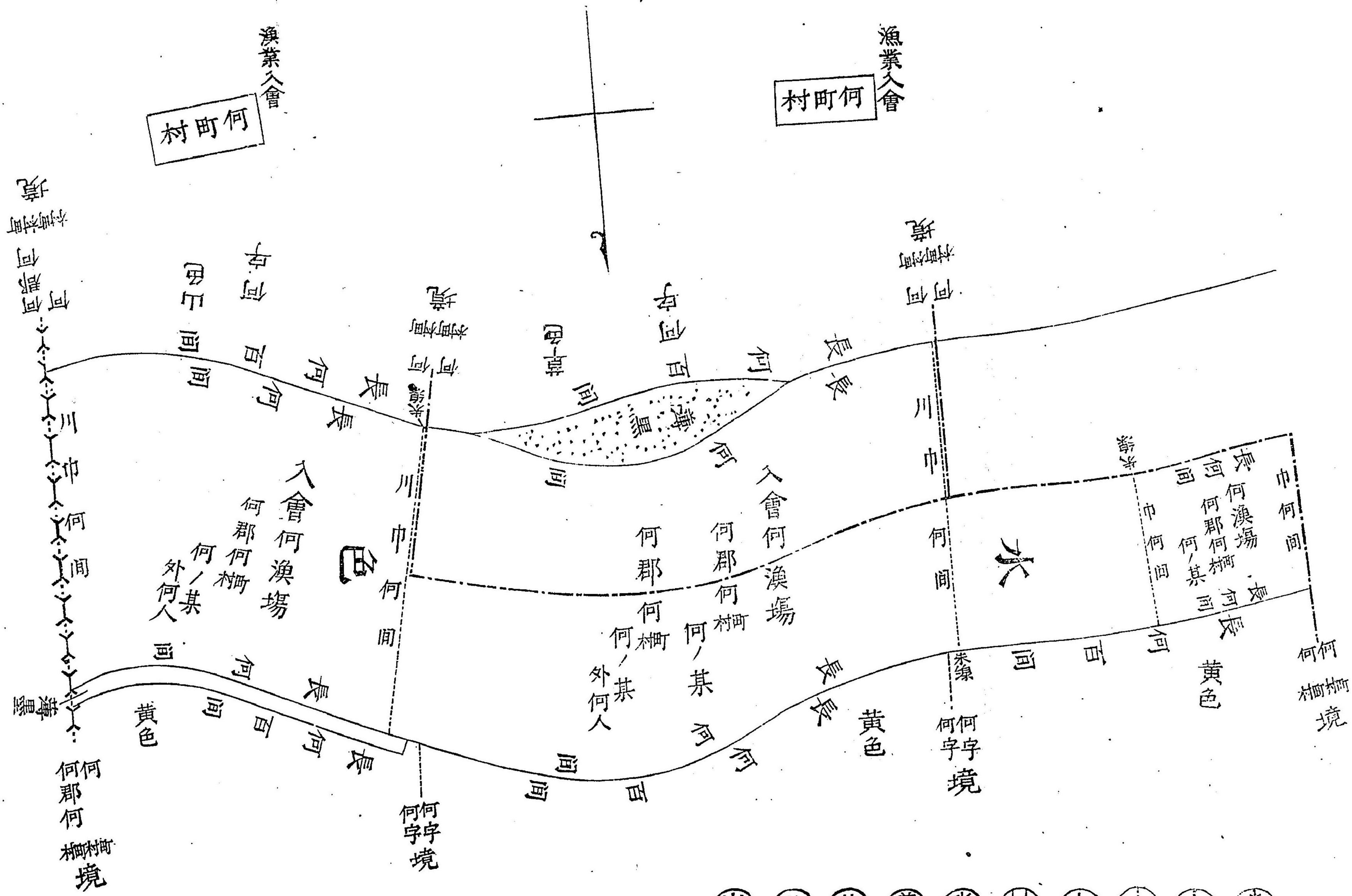
何之某印

地元何所戸長

何之某印

縣令宛

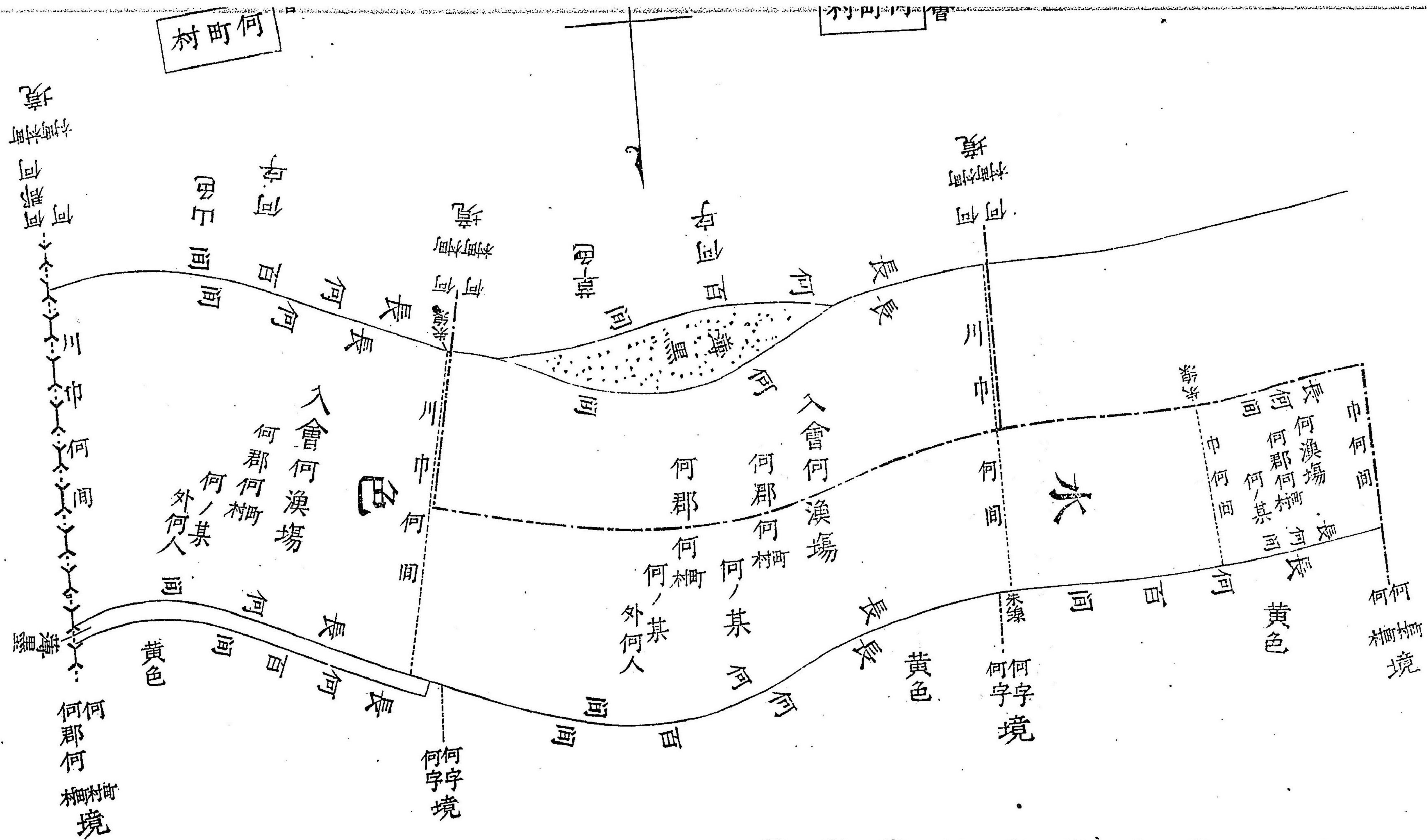
製圖雛形  
何郡何町地内何川  
漁業場區域繪圖



- 山
- 草
- 黄
- 薄
- 水色
- 薄
- 朱
- 心
- 町
- 郡

何郡何町村  
願人數名  
シテ兩三  
地元何所戸長 何  
身元何所戸長 何

雜形  
町地内何川  
區域繪圖



- 山
- 草  
萱草生地
- 黄  
耕地
- 薄黒  
砂地
- 水色  
水
- 薄堤  
防
- 朱  
漁場區域
- 字  
界
- 町  
村境
- 郡  
界

地元  
何町村

何郡何町村  
願人數名ナルハ總代ト  
シテ兩三名連署スヘシ  
地元何所戸長 何  
身元何所戸長 何  
某印

○乙第三十一號 明治十八年五月二日

露國樺太島へ漁業出稼志願之者有之節ハ都テ在哥爾薩港領事館へ出願シ其許可ヲ得ルニ非サレハ該業ニ從事スル能ハサルニ付縣廳ノ添書ヲ請直ニ該領事館へ出願可致旨明治十五年四月十一日乙第四十八號ヲ以及布達置候通りニ付右手續ヲ經テ直ニ漁場ニ渡航候トキハ露國地方之成規ニ據リ漁業證ヲ所持セス漁場ニ碇泊スル船舶ハ惣テ密獵船ト見做シ拘留スルコトニ有之候條右様之不都合無之様必ス該事業ニ從事セント欲スル者ハ縣廳ニ添書ヲ請該領事館へ出願可致此旨布達候事

○縣令第五十五號 明治二十年六月十五日

漁業ヲ營ムモノハ左ノ準則ニ據リ規約ヲ作り縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

漁業組合準則

第一條 漁業水産動物採ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設置スヘシ  
漁業者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ組合ヲ設ケサルコトヲ得

第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目途トスヘシ

第三條 組合ハ左ノ二類トス

第一類 捕漁採藻 遠海漁業若クハ大地引臺網 各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ  
第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ズ一組合トナスヘシ

第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
  - 二 組合ノ目的
  - 三 役員選舉及權限
  - 四 會議ニ關スル規程
  - 五 加入者及退去者ニ關スル規程
  - 六 違約者處分ノ方法
  - 七 費用ノ徵收及賦課法
  - 八 捕漁採藻ノ季節ヲ定ムル事
  - 九 漁具漁方及採藻ノ制限ヲ立ル事
  - 十 漁場區域ニ關スル事
  - 十一 前各項ノ外組合ニ於テ必用トナス事項
- 第六條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第七條 組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作り若クハ之ヲ更正セントスルトキハ縣廳ノ認可ヲ請フヘシ
- 第八條 他管轄ニ涉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ
- 但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條 他管轄ニ涉ル場合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每管轄地ニ事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必用ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサル得

○縣令第四十七號 明治二十一年九月十五日  
 毎年九月十日ヨリ十二月十五日マテ毎日曜日午前第六時ヨリ翌月曜日午前第六時マテ一晝夜ノ間海面ニ於テ建網漁業ヲナスコトヲ許サス犯ス者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

### 第五章 鑛業

○乙第七十八號 明治十六年十二月三日  
 坑業明細表差出候節自今試掘借區ハ證券ノ番號又ハ採取爐稼ハ許可ノ節願書ヘ記載ノ番號ヲ記入致シ可差出旨工部省ヨリ送相成候間此旨布達候事

但試掘延期讓渡廢業其他坑業人ニ關係ノ書類差出候節モ總テ本文同様可相心得候事

○丙第百十八號 明治十七年五月六日

諸坑山借區並試掘人廢業届出ノ節ハ是迄係官派出堅口實查爲致候處自今郡吏直ニ出張坑法第廿七條ニ依リ廢坑跡檢査爲致手當行届見込ノ分ニ限リ證券相添ヘ可届出此旨相達候事

但借區税金不納或ハ未着手等ニテ坑業禁止ノ者證券引揚ノ節モ本文同様郡吏派出坑口跡手當堅固爲取計其旨可届出事

明治十八年三月十八日  
第六十二號

○丙第四十三號

明治十八年  
二月十六日

郡 役 所

借區坑業明細表中坑區稅記載方ハ三月毎ニ分割シ兩期合計トモ記載致來候處去ル明治十五年已後ハ前納相成候ニ付自今前期表中合計之野内ヘノミ一月三十一日限リ實際上納全額ヲ記載シ後期中ヘハ記載ニ不及借區初年ノ分ハ其月ヨリ右同様同野内ヘ記載致シ可爲差出此旨相達候事

○丙第七十六號

明治十八年  
三月二十五日

郡 役 所

戶 長 役 場

諸鑛山試掘並借區證券紛失ノ分ハ其都度工部省ヨリ告示可相成旨達有之候ニ付所在發見届出候者有之節ハ證券ニ理由書相添ヘ直チニ當廳ヘ選納可致此旨相達候事

○丙第百五十八號

明治十八年  
六月十九日

郡 役 所

諸鑛山借區連帶稼人ノ中除名出願候者有之節ハ殘坑業人身元ノ儀十七年(六月)本縣丙第百五十五號達ニ照シ取調意見ヲ附シ進達可致此旨相達候事

○告示第一號

明治二十一年  
一月四日

日本坑法第二章第六款ニ據リ開報スヘキ行業日數工數及產鑛量ハ左ノ表式ニ準シ取調一月十日及七月十日限リ差出スヘシ

鑛山試掘坑業明細表

工 業 日 數	行 業 日 數	製 出 來 高	製 越 高	坑 殘 高	坑 製 煉 高	坑 掘 出 高	坑 越 高	號 年	名 坑	山 形 縣	試 掘 券 番 號	試 掘 許 可 年 月	明 治 年 月	試 掘 入	號	郡	村	字	(用紙美濃紙正副二通)

入費

右ノ通相違無之候也

明治年月日

國郡村  
試掘人

(製煉ノ業ヲ兼テサルモノハ製煉高出來高ノ二項ヲ除クヘシ)  
○達農第五十六號 明治二十二年十一月十四日

郡役所  
町村役場

試掘並借區出願ノ際地主ノ連印ヲ要シ候例規ニ有之候處往々地主ニ於テ承諾ヲ拒ミ連印不致向モ有之哉ニ相聞ヘ候條右等ノ場合ニ於テハ地主ノ連印セサル理由書ヲ添ヘ直ニ進達可致且試掘拜借區出願處分ノ遲速ハ出願人ノ利害ニ關スルコト不勘候ニ付遲滯不致様取扱フヘシ

郡役所

○訓令第四十二號 明治二十三年六月十二日  
其部内試掘人ニ於テ其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失(廢業讓受渡期限經過借區願換等)シタルトキハ發ニ下附シタル指令書ヲ返納セシムヘシ  
○訓令第五十七號 明治二十三年八月十六日

郡市役所

本縣へ進達スル試掘又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量認可願ヲ受ケタルトキハ本年七月農商務省令第七號第六條末段ノ趣旨ニ有之候條支障ノ有無速ニ調査ヲ遂ケ其意見ヲ具シ差出スヘシ  
○訓令第六十一號 明治二十三年八月二十三日

郡市役所  
町村役場

鑛業ニ關スル諸願書差出手續ノ義ニ付左ノ通農商務大臣ヨリ訓令有之候條此旨心得ヘシ  
○農商務省訓令第四十號 明治二十三年七月三十一日

府縣

地方廳郡役所町村役場(若クハ戶長役場)ニ於テ法律第五十五號實施前ニ接受シタル鑛業ニ關スル諸願書ハ從前ノ手續ニ依リ當省ニ進達スヘシ  
○告示第四百四十二號 明治二十三年十月十六日

明治二十三年七月農商務省令第七號第六條ニ據リ試掘又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量認可狀下付候際ハ該土地大林區署所轄ニ係ルモノハ認可ヲ得タル者ヨリ入林ノ儀其所轄大林區署へ届出ツヘシ  
○訓令第五十五號 明治二十四年四月一日

郡市役所



明治二十二年七月十一號  
訓令第二十一號  
看(地理)

獸醫

四七三

町村役場

明治二十年七月農商務省令第七號第四條ニヨリ、鉛山試掘並借區等ニ關スル出願届書受理シタルトキハ、町村役場ハ二日以内ニ郡役所ニ差出シ、郡市役所ハ十五日以内ニ調査ヲ遂ケ具申スヘシ  
但本文期日内ニ差出シ難キ場合ニ於テハ、町村役場ハ郡役所へ郡市役所ハ縣廳へ其事由ヲ豫メ申出ツヘシ

第六章

獸醫 獸類傳染病

○縣令第六十五號 明治二十年九月一日  
明治十九年九月農商務省令第十一號獸類傳染病豫防規則第三條第六條第八條第十三條ノ

届書ハ左ノ書式ニ據リ差出スヘシ  
第一號書式 (條ニ依リ届出ツヘキ分)  
獸類傳染病届

府何郡何町何番地  
縣區何村何番地  
所有主 氏 名

- (內國種) (外國種) (牝) (牡) 牛、馬、羊、豚、何毛、何歲
- (雜種) 年月日發病
- 一病名何々 年月日診斷
- 一發病ノ原因 (觸接又ハ間接性又ハ特發性ノ如シ)
- 一症候ノ原因 (十九年農商務省告示第十八號第三十四項ヲ參照記載スヘシ)

一發病ノ地名(何郡何町何番地)  
右傳染病ト鑑定致候間此段及御届候也

年月日

山形縣何郡何町何番地  
獸醫 氏 名 印  
山形縣何郡何町何番地  
所有者又ハ管理者 氏 名 印

何警察署(分署)

御中

何町 戶長役場

御中

第二號書式 (獸類傳染病豫防規則第六條ニ依リ届出ツヘキ分)  
獸類傳染病蔓延届

何郡何町ニ於テ何傳染病(劇烈)(緩慢)蔓延ノ兆候有之候ニ付此段及御届候也

年月日

山形縣何郡何町何番地  
獸醫 氏 名 印

何警察署(分署)  
御中

獸醫

四七三

何町村戸長役場

御中

第三號書式

(獸類傳染病豫防規則第八條ニ依リ届出ツヘキ分)

傳染病畜(斃死)届(撲殺)

何府何郡何町何番地  
所有者 氏 名

(内國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛、何歳  
(外國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛、何歳  
(雜種) 日全治(斃死)(撲殺)

右別紙診斷書相添此段及御届候也

山形縣何郡何町何番地  
所有者又 氏 名 印

何警察署(分署)

御中

何町村戸長役場

御中

(別紙)

傳染病畜診斷書

何府何郡何町何番地  
所有者 氏 名

(内國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛、何歳  
(外國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛、何歳  
(雜種) 年月日發病  
一病名何々 年月日發病  
一原因(觸接、間接性、特發性某傳染病流行地方ヨリ牽來リ) 年月日全治(斃死)(撲殺)  
一症候(十九年農商務省告示第十八號) 年月日全治(斃死)(撲殺)  
一療法ノ大意(何々) 年月日全治(斃死)(撲殺)  
一病勢(劇烈又ハ緩慢)  
右遂診斷候也

山形縣何郡何町何番地  
獸醫 氏 名 印

第四號書式 (獸類傳染病豫防規則第十條ニ依リ届出ツヘキ分)

獸類傳染病届

病 獸	(内國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛何歳 (外國種) (牝) 牛、馬、羊、豚、何毛何歳 (雜種)
病 名	何々 年月日發病 何々 年月日診斷
發病ノ來由	何々

症候	何々
發病地名	何郡何村
病者獸	何郡何村何番地氏名
管理者	何郡何村何番地氏名(又ハナシ)
診斷	何郡何村獸醫氏名
戶長役場へ 届出年月日	年月日
右及御届候也	
年月日	何郡何村戶長氏名 名 印
山形縣知事氏名殿	
第五號書式 (獸類傳染病豫防規則第十三) 條ニ依リ届出ツヘキ分	
獸類傳染病蔓延届	
何郡 何村	
右町村ニ於テ何傳染病(劇烈)(緩慢)ノ兆候有之候旨何郡何村獸醫氏名ヨリ年月日付テ以	

テ届出候間此段及御届候也

年月日

戶長 氏 名 印

山形縣知事氏名殿

第六號書式

(獸類傳染病豫防規則第十) 三條ニ依リ届出ツヘキ分

傳染病畜(全治)(斃死)(撲殺)届

病 獸 (内國種)(牝)(牡)牛、馬、羊、豚、何毛、何歳 (外國種)(雜種)

病 名 何々 年月日發病 年月月(全治)(斃死)(撲殺)

原 因 何々

症 候 何々

療 法 何々

病 勢 何々

所 有 者 獸 何郡何村何番地氏名

管 理 者 何郡何村何番地氏名(又ハナシ)

診斷 何郡何町 獸醫氏名

戶長役場へ 届出年月日 年月日

右及御届候也

年月日

何郡何町 戶長 氏 名 印

山形縣知事氏名殿

○縣令第四十六號 明治二十三年十一月八日

明治二十三年(八月)法律第七十六號 獸醫免許規則第十四條ニヨリ 獸醫假免狀出願細則左ノ通相定ム

獸醫假免狀出願細則

第一條 獸醫假免狀ヲ得ント欲スル者ハ書式ニ據リ願書ニ履歷書ヲ添へ縣廳へ差出ス

但獸醫ニ乏シキ地ニアラスト認ムルトキハ願書ヲ却下スルコトアルヘシ

第二條 假免狀ヲ得タル獸醫ハ免許區域外ニ於テ其業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 獸醫假免狀ハ滿ニシテ有効期限トス

第四條 獸醫假免狀有効期限ヲ經過シタルトキハ縣廳ヲ經由シテ其免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第五條 獸醫假免許區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許

年限中ト雖トモ假免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

書式

獸醫假免狀下付願

住所

族籍

氏名

生年月

私儀何府何郡何町大字何、何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假免狀御下附相成度履歷書相添此段相願候也

右

氏名印

明治年月日

農商務大臣宛

○縣令第四十七號 明治二十三年十一月八日

明治二十三年(四月)法律第三十一號 蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀出願細則左ノ通相定ム

蹄鐵工假免狀出願細則

第一條 蹄鐵工假免狀ヲ得ント欲スル者ハ書式ニ據リ願書ニ履歷書ヲ添へ縣廳ニ差出ス

但蹄鐵工ニ乏シキ地ニアラスト認ムルトキハ願書ヲ却下スルコトアルヘシ  
 第二條 假免狀ヲ得タル蹄鐵工ハ免許區域外ニ於テ其業ヲ爲スコトヲ得ス  
 第三條 蹄鐵工假免狀ハ滿ニ少年ヲ以テ有効期限トス  
 第四條 蹄鐵工假免狀有効期限ヲ經過シタルトキハ縣廳ヲ經由シテ其免狀ヲ農商務省ニ  
 返納スヘシ  
 第五條 蹄鐵工假免許區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル蹄鐵工ノ新ニ開業スル者アルトキハ  
 免許年限中ト雖モ假免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ  
 書式

蹄鐵工假免狀下附願

住所 族籍

氏名

生年月

私儀何府何郡何町何大字何、何番地ニ於テ蹄鐵工開業仕度候間蹄鐵工假免狀御下付相成  
 度履歷書相添此段相願候也

明治年月日

農商務大臣宛

右 氏名印

第六編 衛生

第一章 醫業 救療

○丙第三十六號 明治十五年三月九日

郡役所

地方病名ヲ查定シ其因由ヲ究メ以テ豫防法ヲ施行スルハ衛生上緊要之儀ニ有之候條其郡  
 内開業醫師へ以來地方病ト指稱スヘキ疾病ヲ視認候節ハ其病名地名人名及地質ノ乾濕飲  
 食ノ良否等詳細記載シ考按テ添へ縣廳へ可届出旨諭達可致此旨相達候事

○丁第二十一號 明治十七年四月二十三日

戶長 役場

自今醫術開業免許ヲ得サル者ヲシテ代診セシムルノ場合ニ於テハ方箋ヲ出シ又ハ投劑ス  
 ル儀不相成儀ト可心得此旨開業醫へ可相達候事

○丁第三十五號 明治十七年八月五日

戶長 役場

今般内務省ニ於テ醫籍編製相成更ニ醫術開業免狀下付相成候ニ就テハ自今廢業死亡或ハ  
 他管へ轉籍並ニ寄留其他總テ異動有之候節ハ其段速ニ可届出此旨相達候事  
 但廢業死亡ノ節ハ該免狀還納爲致候儀ト可相心得事

○乙第八十八號 明治十八年

八月十四日

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則左之通相定來ル九月十日ヨリ施行ス

但從來營業ノ者ハ本月三十日限リ願出シ

右布達候事

第一條 入齒々抜口中療治接骨營業取締規則  
入齒々抜口中療治接骨營業取締規則  
所持スルモノニアラサレハ營業スル  
ヲ許サズ

第二條 從來營業者ニシテ猶其業ヲ營マントスルモノハ履歷書相添鑑札下付テ願出ヘシ

第三條 醫師治療中ノ患者ハ其醫ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ施術スヘカラス

第四條 入齒々抜口中療治接骨營業者ハ左ニ掲クル所業ヲ爲スヲ禁ス

- 一 毒藥劇藥ヲ配伍セシ藥劑ヲ用ユルコト
- 一 切除及切斷術ヲ施スコト
- 一 猥リニ藥劑及處方ヲ與ヘ若クハ施術ヲ勸ムルコト
- 一 路頭ニ於テ施術スルコト

第五條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ氏名族籍ヲ變換セシトキハ其事由ヲ具シ鑑札再渡  
又ハ書換テ願出ヘシ

第六條 廢業死亡又ハ他管下ニ於テ營業セントスルキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ  
但管内轉居ノ節ハ速ニ届出ヘシ

明治二十年九月三號  
令第七十三號參看

同上

第七條 刪除

第八條 此規則第一條第三條第四條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

第九條 此規則ニ違背シ情狀重キモノハ營業ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

○乙第八十九號 明治十八年

八月十四日

鍼灸術營業取締規則左ノ通相定來ル九月十日ヨリ施行ス

但從來營業ノ者ハ本月三十日限リ願出ヘシ

右布達候事

鍼灸術營業取締規則

第一條 鍼灸術ハ免許鑑札ヲ所持スルモノニアラレハ營業スルヲ許サズ

第二條 新ニ開業セントスルモノハ修業履歷書及ヒ其師ノ證明書相添願出ヘシ

但師死亡等ニ係ルトキハ郡醫ノ證明書ヲ添フヘシ

第三條 從來營業者ニシテ猶其業ヲ營マントスルモノハ履歷書ヲ添鑑札下付テ願出ヘシ

第四條 鍼灸術營業者ハ左ニ掲クル所業ヲ爲スヲ禁ス

- 一 猥リニ藥劑及處方ヲ與ヘ若クハ施術ヲ勸ムル事
  - 一 妊婦若クハ病者ニ對シ施治醫ノ承諾ヲ經スシテ施術スル事
- 第五條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ氏名族籍ヲ變換セシトキハ其事由ヲ具シ鑑札再渡  
又ハ書換テ願出ヘシ

第六條 廢業死亡又ハ他管下ニ於テ營業セントスルキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

明治二十年九月三號  
令第七十三號參看

業

四八三

同上

但管内轉居ノ節ハ速ニ届出ヘシ

第七條 刪除

第八條 此規則第一條第四條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

第九條 此規則ニ違背シ情狀重キモノハ營業ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

○乙第二十九號 明治十九年三月十八日

貧民救療規則左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但明治十八年(三月)乙第二十號布達ハ施行當日ヨリ廢止ス

貧民救療規則

第一條 此規則ハ貧民ノ病患ニ罹リ藥價ヲ辨シ難キ者ヲ救療スル爲メ設クルモノトス

第二條 救療スヘキ貧民ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 課寡孤獨ノ頼ルナキ者

一 恤救規則ニ據リ給與ヲ仰ク者

一 地方稅戶數割及町村費ノ賦課ヲ免除シタル者

一 火災水害等ニ罹リ一時困難ヲ極ムル者

一 前數項ニ該當セサルモ一家數口ニシテ平素生活ニ苦ム者

第三條 救療ヲ請ケント欲スル者ハ隣保連署戶長役場ヲ經テ郡役所ヘ願出ツヘシ

右布達候事

○乙第三十二號

明治十九年三月十八日

明治十四年(四月)乙第五十一號布達左之通改定ス

醫業組合規則

第一條 醫業組合ハ醫業ニ關スル法令規則ヲ通暢シテ反違ナカラシメ且ツ其學說ト治術

トニ就テ得失ヲ講究セシメンガ爲メ設クルモノトス

第二條 醫業組合ハ每郡市ヲ一區域トス其區域ニ於テ醫師及產婆入齒々抜口中療治接骨

術鍼灸術ヲ營業スル者ハ皆之ニ入ラサルヲ得ス

但便宜ニ依リ郡市ヲ合シテ一區域トスルモ妨ケナシ

第三條 每組合ニ幹事副幹事各一名ヲ置ク

第四條 幹事副幹事ハ郡市醫副郡市醫ニ於テ之ヲ兼攝ス

第五條 各組合開業醫ハ毎月一回以上集會シテ治術及學說上ノ事トナシ講究スヘシ

第六條 傳染病流行ノ兆アルトキハ臨時集會シテ治療及豫防等ノコトヲ協議スヘシ

第七條 幹事ハ便宜產婆及入齒々抜口中療治接骨術鍼灸術營業者ヲ集會シテ各其施術上

ノコトヲ講究セシムヘシ

第八條 衛生上ノ利害ニ付意見アルトキハ幹事ノ名ヲ以テ縣令又ハ郡市長ニ建議スルコ

トヲ得

第九條 衛生上ニ付縣令又ハ郡市長ヨリ諮問スルコトアルトキハ集會ニ於テ之ヲ議シ幹

事ノ名ヲ以テ答議書ヲ出スヘシ

第十條 組合申合規則及講究會ニ關スル諸規則ハ集會ニ於テ之ヲ議定シ縣令ノ認可ヲ請

明治廿二年九月縣令第七十二號參看

同上

同上

同上

クヘシ

右布達候事

○訓令甲第十一號 明治二十一年三月六日

郡役所

妊娠出産ノ事タル衛生上忽セニス可ラサル事柄ニ候處往々産婆ヲ招カスシテ分娩スルモノ有之趣危険ノ至ニ候條妊娠及出産ノ際必ス産婆又ハ醫師ヲ招キ且ツ出産届ハ産婆又ハ醫師連署ノ上差出候様部内へ達スヘシ

○訓令甲第五號 明治二十二年三月二十二日

郡役所

來ル四月一日ヨリ氷雪牛乳賣肉及娼妓儼毒ニ關スル検査ハ正副郡醫ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

但土地ノ情况ニ依リ及正副郡醫事故アルトキハ町村醫ヲシテ兼攝セシムルコトヲ得

○縣令第四十四號 明治二十二年五月十一日

郡市醫設置規則左ノ通相定メ來ル七月一日ヨリ施行ス

但明治十九年(三月)乙第三十一號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

郡市醫設置規則

第一條 每郡市へ郡市醫副郡市醫各一名ヲ置ク

但時宜ニヨリ正副郡醫ヲシテ正副市醫ヲ兼攝セシムルコトアルヘシ

第二條 郡市醫副郡市醫ハ其郡市内開業醫中郡市長ノ選舉ニ依リ知事之ヲ命ス

但時宜ニヨリ他郡市内開業醫中ヨリ選舉スルコトヲ得

第三條 郡市醫ハ知事ノ命令及郡市長ノ指揮ヲ受ケ左ノ事務ヲ辦理ス

一 傳染病ノ豫防

二 地方病ノ審査

三 氷雪牛乳賣肉娼妓儼毒ノ検査

四 死傷者ノ鑑定

五 醫治ヲ受ケサル死亡者ノ檢案

六 右ノ外臨時事務

第四條 副郡市醫ハ職掌郡市醫ニ亞シ

第五條 郡市醫副郡市醫ハ公衆衛生上ノ利害ニ付意見アルトキハ知事若シハ郡市長ニ具

申スルコトヲ得

第六條 郡市醫ハ年俸五拾圓以下四拾圓以上副郡市醫ハ三拾五圓以下貳拾五圓以上ヲ支

給ス

第七條 郡市醫副郡市醫ノ任期ハ滿二ケ年トシ滿期再選スルコトヲ得

○訓令第三十一號 明治二十二年八月五日

郡役所

町村役場



惡疫流行其他公衆衛生上ニ關シ實際差支ヲ生フル場合モ可有之ニ付豫テ每町村ニ町村醫ヲ設置シ其姓名ハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

○縣令第十四號 明治二十二年九月十四日

產婆營業取締規則左ノ通相定ム  
但明治十八年(五月)乙第三十六號布達ハ施行當日ヨリ廢止ス

產婆營業取締規則

第一條 產婆ハ內務省ノ免狀又ハ本縣ノ免許鑑札ヲ得タルモノ、外營業スルコトヲ得ス

第二條 新クニ營業セントスルモノハ卒業又ハ及第證書寫ヲ添ヘ郡市役所ヲ經縣廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 產婆ニ乏シキ地方ニ限リ郡醫ノ簡易試驗ヲ受ケ其保證書ヲ添願出ツルモノニハ免許鑑札ヲ附與スルコトアルヘシ

第四條 難產ヲ認メタルトキハ速ニ醫ヲ招キ其見込ニ任スヘシ

第五條 免許鑑札ヲ遺失又ハ毀損シタルトキ若クハ氏名族籍ヲ變換シタルトキハ鑑札再渡又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第六條 廢業死亡又ハ他管ヘ轉籍スルトキハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第七條 但管内轉居ノ節ハ速ニ届出ツヘシ  
此規則第一條第四條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處

明治二十三年一月  
縣令第三號參看

同上

前項ノ處分ヲ受ケタルモノハ其情狀ニ依リ營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

○縣令第二號 明治二十三年一月八日

產婆開業試驗規則左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

產婆開業試驗規則

第一條 產婆營業ヲ爲サントスルモノハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 試驗ヲ受ケントスルモノハ年齡滿十八年以上ノモノニシテ志願書ヘ修業履歷書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

第三條 試驗科目ヲ定ムル左ノ如シ

第一 婦人骨盤並ニ生殖器ノ概論 三問以上

第二 平常妊娠中ノ注意 同上

第三 内外診查法 同上

第四 順産ニ於テ產婆ノ本務 同上

第五 不順産ニ就テ產婆ノ心得 同上

第六 產褥及嬰兒看護ノ法 同上

第七 產婦頓發症ニ臨ミテ產婆ノ注意 同上

第八 實地取扱法 同上  
但實地取扱方法ハ婦人生殖器妊婦子宮骨盤妊婦及胎兒等ノ摸形ヲ以テ其要所ヲ試ム

明治二十三年七月十號參看

第四條 試驗ハ毎年二回左ノ場所ニ於テ之ヲ舉行ス

但期日ハ其都度二十日前之ヲ告示スヘシ

山形市

米澤市

北村山郡尾花澤村

西田川郡鶴岡町

第五條 試驗委員ハ郡市醫及卒業證書所持ノ産婆ヲ選ミ之ニ充ツ

第六條 試驗ニ及第シタルモノニハ及第證書ヲ交付スルモノトス

願書式

産婆開業試驗願

何郡市町村大字番地族籍

(寄留者ハ寄留番地ヲ併記ス)

誰母妻姉妹

氏

名

生年月

何年何月何日某郡市町村ニ於テ御開設相成候開業試験相受度別紙履歴書相添此段奉願候也

右

年月日

主 氏

名 印

父兄或ハ親族

氏

名

印

知事宛

○縣令第三號 明治二十四年

一月二十一日

中毒患者届規則左之通相定ム

但明治十七年一月丙第三號迄ハ廢止ス

中毒患者届規則

第一條 醫師ニ於テ飲食物ノ中毒及藥物ノ誤用等ニ罹リタル患者ヲ診斷シタルトキハ左

ノ書式ニ據リ診斷書ヲ製シ毒物或ハ毒物含有ト認ムル物品(多量現存スル)ヲ添ヘ二十

四時間内ニ市町村長ヘ報告スヘシ

但添付スヘキ物品ハ其物質ノ變敗セサル様注意シ其變敗シ易キモノハ亞爾格保兒等

ニ浸シ防腐法ヲ施スヘシ

第二條 醫師ニ於テ主治ノ中毒患者全治又ハ死亡シタルトキハ三日間内ニ市町村長ヘ報

告スヘシ

第三條 町村長ニ於テ前項ノ報告ヲ得タルトキハ速ニ郡長ヘ通報スヘシ

但毒物及毒物含有品醫師診斷書ヲ添フヘシ

第四條 郡長ニ於テ第三條ノ通報ヲ得タルトキ及ヒ市長ニ於テ第一條第二條ノ報告ヲ得

書式

タルトキハ直ニ之ヲ縣廳へ届出ツヘシ  
但毒物及毒物含有品醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

中毒患者診斷書

(○印朱書)

山形縣何郡市町村大字番地族籍

(寄留者ハ寄留番地ヲ併記ス)

戸主或ハ父母兄弟妻子

職業

氏

名

生年月

何々中毒 (毒質不明ノモノ) 年月日時發症

中毒ノ因由 (因由不明ナルトキハ不詳ト記ス)

發症前病患 有無

徵候ノ要旨

右診斷候也

年月日

山形縣何郡市町村大字番地

主治醫 氏

署名 印

第二章

衛生取締

飲食物 玩弄品 水路

○乙第七十四號 明治十四年十一月二十四日

飲食物及玩弄品着色料取締規則別紙之通相定候條此旨布達候事

飲食物及玩弄品着色料取締規則

第一條 飲食物及玩弄品(小兒ノ手遊ニ供スルモノ)ノ着色料ハ無毒ノ品ニアラサレハ用ユヘカラス

第二條 左ニ列記スル品ニ限リ飲食物及玩弄品ニ着色スルヲ得

赤色之部

ベンガラ(一名鐵丹即第二酸化鐵)○蠟臘脂(ユルセニールヲ以テ製スルモノ)○茜草○蘇木○日本紅(笹紅小町紅ノ類ニテ紅花ヲ以テ製スルモノ)

黄色之部

黃柏○サフラン○山梔子○ズミ並煉ズミ(サワ梨ノ皮ヲ以テ製スルモノ)○鬱金粉(鬱金砂ハ毒アリ用ユヘカラス)

青色之部

日本藍(藍玉藍紙ノ類ニテ藍葉ヲ以テ製スル者)○靑粉(野菜ヲ以テ製スルモノ)○挽茶

紫根

紫色之部

衛生取締

黑色之部

木炭○油煙○烏梅

金銀色之部

金箔○銀箔

第三條 左三列記スル品ニ限り玩具品ニ着色スルヲ得

胡粉○炭酸石灰○鎮鍮箔○銅箔○錫箔(鎮鍮箔以下三種嬰兒ノ紙ル玩具品ニハ用ユヘカ  
ラス)○角粉○石膏○砥ノ粉○地ノ粉○黄土○代赭石○麒麟竭○玉墨

第四條 第二條第三條ノ品ハ單味或ハ調合シテ用ユルモ妨ケナシ

第五條 前條掲載ノ品目ヲ除ツノ外從來着色シ來ルモノ及新タニ着色セント欲スルモノ  
ハ現品(廉價ノ分ハ四十目位)ヲ添ヘ町村戸長衛生委員及郡役所ヲ經由シ縣廳ヘ願出ツ  
ヘシ(高價ノ分ハ二十目位)

第六條 第五條ノ手續ニ據リ願出ツルモノハ試驗ヲ遂ケ其無毒ナルモノヘハ左ノ免許鑑  
札ヲ交付スヘシ

免許鑑札雛形

明治十八年四月二十五日  
號第二十五

第 號	郡町村番地
飲食物何品着色	姓 名
玩弄品	山 形 縣
右 免 許 候 事	明 治 年 月 日

五寸八分

飲食物ノミ着色スルヲ免許スルトキハ單ニ飲食物ト記シ又玩具品ノミ着色スルヲ免  
許スルトキハ單ニ玩弄品ト記シ飲食物及ヒ玩弄品トモニ着色スルヲ免許スルトキハ  
雛形ノ如ク並記スヘシ

第七條 營業人廢業スルカ又ハ死亡スルカ或ハ他管ヘ轉籍スルトキハ免許鑑札ヲ返納ス  
ヘシ

衛生取締

明治十五年十一月十四日  
乙卯年十月十四日  
第四百四號

第八條 營業人代替又ハ管内轉居ハ免許證札書換テ願出ツヘシ又ハ盜難遺失及ヒ燒亡等ニ罹リタルトキハ速ニ届出更ニ鑑札ヲ請求スルベシ

第九條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラレヘシ

○乙第七十四號 明治十五年七月十七日

水路取締規則左之通相定候條此旨布達候事

但施行期限ハ別ニ告示スヘシ

水路取締規則

第一章 總則

第一條 水路取締ハ人身ノ健康ヲ保護スル爲メ設クルモノトス

第二條 水路ハ飲水用水下水ノ三種ニ區別ス

第三條 區別ノ方法ハ從來ノ慣行ニ依ル

但實況ニ從ヒ舊慣ニ拘ハラズ更ニ區別ヲ爲スコトアルヘシ

第四條 飲水用水下水ヲ問ハス兩側ニ石發又ハ木柵版築ヲ構造スヘシ

但水路ノ實況ニ依リ本條ニ據ラサルモ妨ナシ

第五條 濫リニ水行疏通ヲ妨ク可ラス

第六條 水路ニハ柵ヲ設ケ塵芥等自然各自持場ニ停滯スルトキハ直チニ之ヲ除却スヘシ

水下ニ流送ス可ラス

但實況ニ依リ柵ヲ設ケサルモ妨ナシ

明治十六年一月七號  
乙卯年十一月七號  
第七號參看

第七條 水路取締ニ屬スル細目方法ハ其地ノ便宜ニ從ヒ關係人民ノ協議ニ任カス

第二章 飲水

第八條 飲水ハ人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ指稱ス

第九條 飲水ハ必ス清淨ナル井泉ヲ用フルモノトス清淨ナル井泉無之地ハ第十條ヨリ第十四條迄ノ條項ニ據ルヘシ

第十條 飲水路ニハ其關係人民ニ於テ標札ヲ建設シ之ヲ明示スヘシ

但飲水ヨリ用水ニ分派スル場所ニハ特ニ兩水區分ノ標札ヲ建設スヘシ

第十一條 飲水路ノ區域内ニ於テハ物品ヲ洗滌シ又ハ塵芥其他ノモノヲ捨ツ可ラス

第十二條 飲水路ノ浚疏ハ其關係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ每年春秋兩度トス

第十三條 飲水ニハ用水及下水ヲ混入ス可ラス

第十四條 飲水路ノ區域内ニ於テ水車ヲ設ケ或ハ漁獵等ヲ爲ス可ラス

第三章 用水

第十五條 用水ハ物品ヲ洗滌シ水車ヲ設置スル等其他ノ用ニ供スルモノヲ指稱ス

第十六條 用水路ノ區域内ニ於テ糞尿ヲ投棄シ或ハ糞尿ニ穢レタルモノヲ洗滌シ又ハ塵芥其他汚水了ルノ水ヲ云フヲ流ス可ラス

第十七條 用水路ノ浚疏ハ其關係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ每年春秋兩度トス

第十八條 用水路關係人民ニ於テ特ニ兩水區分ノ標札ヲ建設スヘシ

第十九條 用水ニハ下水ヲ混入ス可ラス

明治十六年一月七號  
乙卯年十一月七號  
第七號參看

同 上

同 上

同 上

第四章 下水

同上

第二十條 下水ハ衆人ノ使用シ了ル汚水及汚穢物混淆セシ悪水ヲ指稱ス

第二十一條 下水路ノ区域内ニ於テ氷雪塵芥等ヲ投棄シテ流通ヲ妨シ可ラス

第二十二條 下水路ノ浚疏ハ其關係人民ニ於テ之ヲ爲スヘシ其時期ハ毎年四月六月九月十一月トス

第二十三條 人家接近ノ下水ニシテ其臭氣健康ヲ害スル恐アルモノハ必ス蓋ヲ爲スヘシ

第二十四條 下水路各自持場内ニ於テ停滯漫溢スルコトアル時ハ浚疏ノ時期ニ拘ハラズ必ラス疏通浚鑿スヘシ

第二十五條 使用シ了ル汚水ヲ下水ニ注シ能ハサル場所ニハ必ラス下水溜ヲ設ケ之ニ注下シ時々汲取投棄スヘシ

此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

○乙第四十二號 明治十六年七月五日

飲料井水取締規則左ノ通相定メ來ル八月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

飲料井水取締規則

第一條 此規則ハ公衆ノ健康ヲ保護スル爲メ設ケルモノトス

第二條 井水ヲ新設スルトキハ石管或ハ桶版等ヲ用ヒ汚水滲透ノ患ナキ樣構造スヘシ但在來ノ井水ニシテ汚水滲透ノ患アルモノモ亦本條ニ準シ改良スヘシ

第三條 邸内ニ井水ヲ所有スル者ハ戶外見易キ所ニ目標ヲ掲クヘシ

但邸外ノ井水ハ適宜ノ目標ヲ掲クヘシ

第四條 井水ニハ下水路ヲ設クヘシ但土地ノ實況ニヨリ下水路ヲ設ケル能ハサルトキハ水井ヲ距ル二間以上ノ處ニ下水溜ヲ設ケ時々汲取ルヘシ

第五條 井水ハ少ナクモ一ケ年一度浚疏スヘシ

第六條 引井水ニシテ汚濁シ若クハ臭氣ヲ含ミ其原因審カナラサルトキハ郡役所ヘ願出調査ヲ請クヘシ

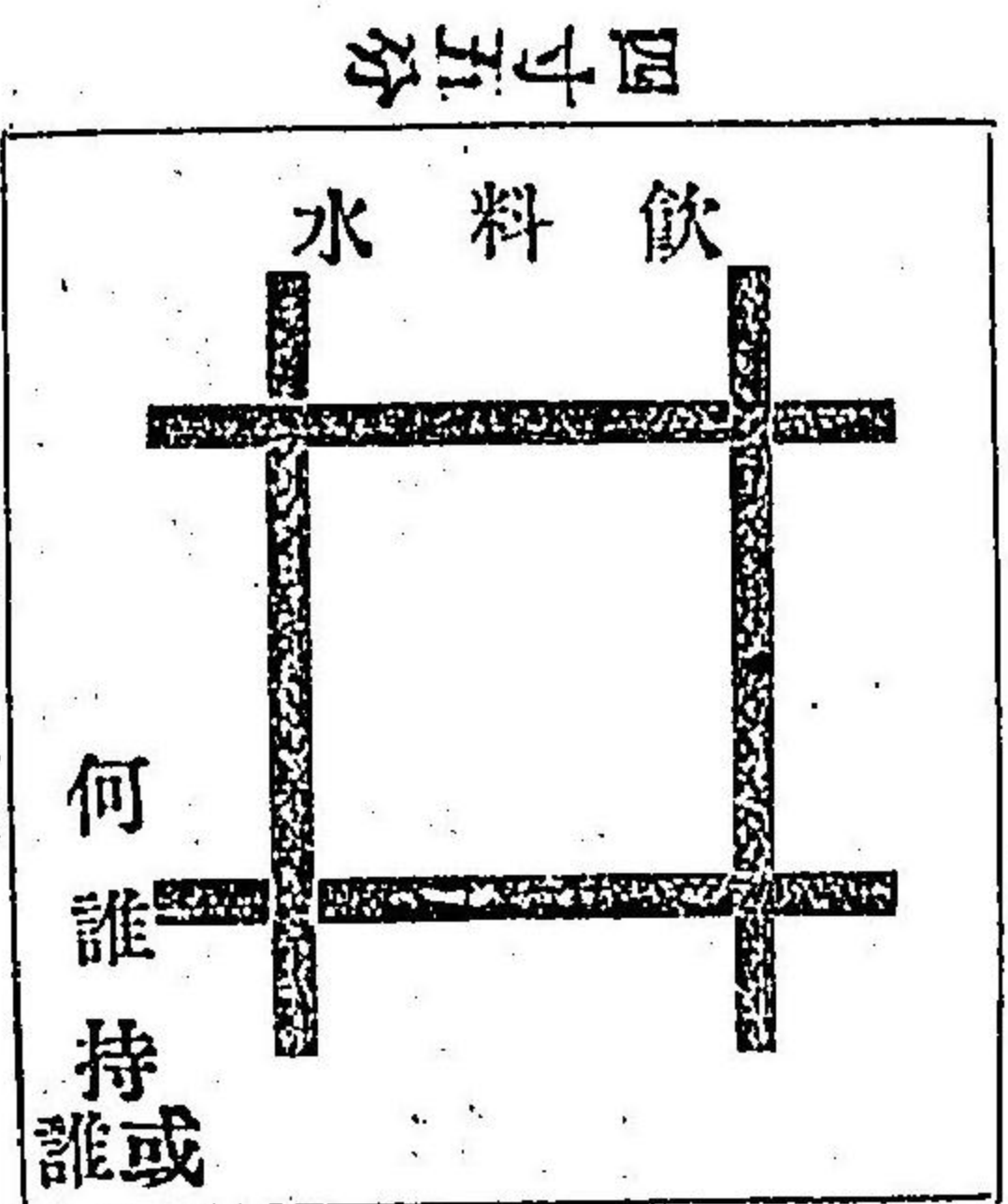
第七條 井水ヲ距ル三間以内ノ地ヘ厠圍及肥塚肥溜等ヲ設クヘカラス但在來ノ厠圍等本條ニ抵觸スルモノハ改良セシムルコトアルヘシ

第八條 井水接近ノ處ニ於テ糞穢便器其他汚穢ノ物品ヲ洗滌シ又ハ鳥獸魚蟲ノ骨肉等ヲ棄ツヘカラス

第九條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ處分セラルヘシ

明治十五年十一月十四日  
乙第百四號  
參看

井水目標錐形  
四寸五分



數箇ヲ有スルキハ其數ヲ井桁内ニ記入スヘシ

○乙第六十六號 明治十八年七月十三日  
牛乳販賣取締規則左之通相定メ來ル八月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

牛乳販賣取締規則

第一條 乳牛ヲ畜養シ乳汁ヲ搾取リ販賣セントスルモノハ公衆衛生上障害ナキ地ヲ撰ミ第一號書式ニ據リ畜養場ノ圖面隣地ノ景况等ヲ記スモノヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

但畜養場ヲ移轉スルトキハ又本條ノ手續ニ據リ願出ツヘシ

第二條 乳牛ハ獸醫ノ證明書ヲ添ヘ第二號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第三條 乳牛死亡又ハ疾病ニ罹リタルトキハ第二號書式ニ據リ獸醫ノ檢案書ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

但病牛全癒ノ後更ニ乳牛ニ供セントスルトキモ亦第二條ノ手續ニ據リ届出ツヘシ

第四條 牛乳ヲ受賣セント欲シ搾取營業者ト結約シタル者ハ第三號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

第五條 牛乳搾取營業人及受賣人廢業又ハ轉居スルトキハ第四號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ヘ届出ツヘシ

但本人死亡シタルトキハ其親戚ヨリ届出ツヘシ

第六條 牛乳ヲ配送スルモノハ第五號錐形ニ據リ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ烙印ヲ請ケ乳汁容器ニ付シ携帯スヘシ

第七條 乳牛傳染性ノ疾病ニ罹リト認ムルトキハ直チニ健牛ト隔離法ヲ行ヒ且獸醫ノ診斷ヲ請ヒ其指揮ニ從フヘシ

第八條 乳牛ハ不良ノ飼料ヲ以テ畜養スヘカラス

第九條 乳牛ハ分娩後一週間ヲ經過スルニ非サレハ其乳汁ヲ販賣スヘカラス

第十條 牛乳ハ新鮮純良ノモノニ非サレハ販賣スヘカラス

但警察官吏郡市醫臨時檢査スルコトアルヘシ

第十一條 乳汁容器及漏斗柄杓等ハ鉛銅等ノ人身ニ害ヲ來スヘキ物質或ハ竹木等液体ノ質透スヘキ物質ヲ以テ製造シタルモノヲ用フヘカラス

衛生取締

明治廿二年五月縣令第四十

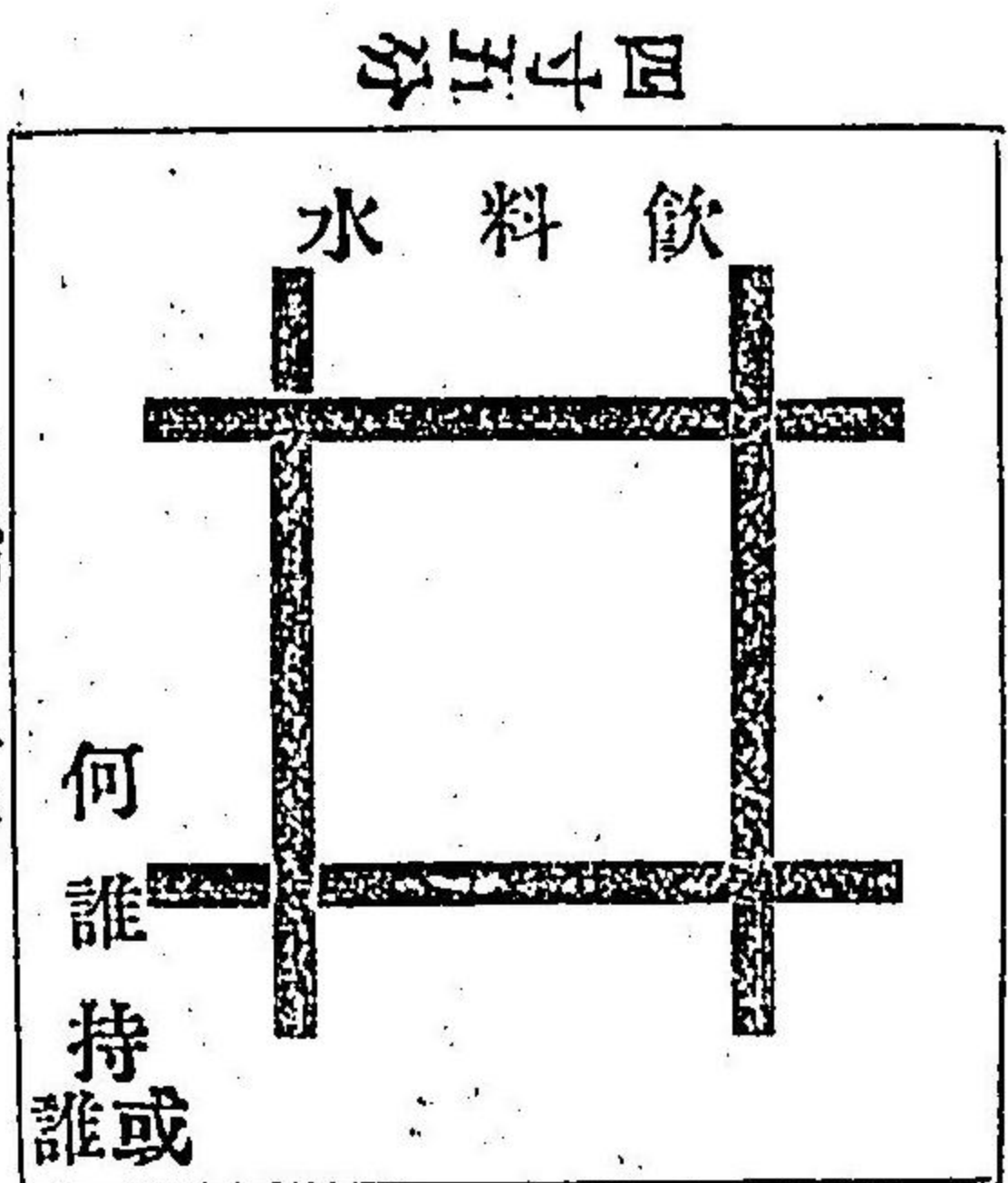
五號參看

同縣九年九月七號參看

明治二十年五月縣令第四十五號參看

明治二十年五月縣令第四十五號參看

井水目標雛形  
四寸五分



數箇ヲ有スルキハ其數ヲ井桁内  
ニ記入スヘシ

ハ官有又ハ  
外何名共有

○乙第六十六號 明治十八年七月十三日  
牛乳販賣取締規則左之通相定メ來ル八月十五日ヨリ施行候條此旨布達候事

牛乳販賣取締規則

- 第一條 乳牛ヲ畜養シ乳汁ヲ搾取リ販賣セントスルモノハ公衆衛生上障害ナキ地ヲ撰ミ第一號書式ニ據リ畜養場ノ圖面隣人家又ハ溝渠ノ距離及ヒテ添へ所轄警察署又ハ分署へ願出テ鑑札ヲ受クヘシ
- 但畜養場ヲ移轉スルトキハ又本條ノ手續ニ據リ願出ツヘシ
- 第二條 乳牛ハ獸醫ノ證明書ヲ添へ第二號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

明治廿二年五月縣令第四十

五號參看同上

同令第九月十一號參看

明治二十二年五月縣令第四十五號參看

明治二十二年五月縣令第四十五號參看

第三條 乳牛死亡又ハ疾病ニ罹リタルトキハ第二號書式ニ據リ獸醫ノ檢案書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

但病牛全癒ノ後更ニ乳牛ニ供セントスルトキモ亦第二條ノ手續ニ據リ届出ツヘシ

第四條 牛乳ヲ受賣セント欲シ搾取營業者ト結約シタル者ハ第三號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

第五條 牛乳搾取營業人及受賣人廢業又ハ轉居スルトキハ第四號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署へ届出ツヘシ

但本人死亡シタルトキハ其親戚ヨリ届出ツヘシ

第六條 牛乳ヲ配達スルモノハ第五號雛形ニ據リ木札ヲ製シ所轄警察署又ハ分署ノ烙印ヲ請ケ乳汁容器ニ付シ携帯スヘシ

第七條 乳牛傳染性ノ疾病ニ罹リト認ムルトキハ直チニ健牛ト隔離法ヲ行ヒ且獸醫ノ診斷ヲ請ヒ其指揮ニ從フヘシ

第八條 乳牛ハ不良ノ飼料ヲ以テ畜養スヘカラス

第九條 乳牛ハ分娩後一週間ヲ經過スルニ非サレハ其乳汁ヲ販賣スヘカラス

第十條 牛乳ハ新鮮純良ノモノニ非サレハ販賣スヘカラス

但警察官吏郡市醫臨時檢査スルコトアルヘシ

第十一條 乳汁容器及漏斗柄杓等ハ鉛銅等ノ人身ニ害ヲ來スヘキ物質或ハ竹木等液体ノ竄透スヘキ物質ヲ以テ製造シタルモノヲ用フヘカラス



明治二十二年五月十四日  
縣令第四十五號參

但容器ハ必ス蓋ヲ用ヒ且ツ使用ノ都度洗淨スヘシ  
第十二條 搾乳者ハ豫テ帳簿ヲ製シ置キ日々得タル處ノ乳量ヲ詳細記載シ置クヘシ  
但警察官吏臨時檢査スルコトアルヘシ  
第十三條 牛疫流行ノ際ハ其病勢ニ依リ乳汁ノ販賣ヲ停止スルコトアルヘシ  
第十四條 第一條第二條第三條第六條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處  
シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス  
(第一號書式)

牛乳搾取營業願

何郡何町何番地  
何國何郡何村(何番字何)

一幾坪

右地所ニ於テ乳牛幾頭ヲ畜養シ乳汁搾取營業仕度候間別紙畜養場圖面相添此段奉願候也

年月日

何郡何町何番地族籍

氏

名

印

衛生委員

氏

名

印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

明治二十二年九月八日  
令第八十號參

(第二號書式)

乳牛 新タニ購入又ハ

病牛全癒ノトキ

一乳牛産所

死亡又ハ疾

病ノトキ

一同上

一同上

右御届申上候也

幾頭

年月日ヨリ乳牛ニ供ス(新ニ購入)

同上

何々ニ付斃死  
何病ニ罹リタルニ付  
乳牛ニ供セス

何郡何町番地族籍

氏

名

印

牛乳搾取營業人

氏

名

印

山形縣何警察署(何分署)長  
官氏名宛

(第三號書式)

牛乳受賣届

私

儀

衛生取締

五〇三

今般牛乳受賣營業仕候間摺取營業人連署ヲ以テ此段御届申上候也

年月日

何郡何町番地族籍

牛乳受賣人氏

名印

同摺取營業人氏

衛生委員氏

名印

同摺取營業人氏

名印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

(第四號書式)

廢業(轉居)届

從來何郡何町何番地ニ於テ牛乳摺取營業罷在候處今般都合有之廢業(或ハ何郡何町村業)仕候條此段御届申上候也

私儀

何郡何町番地ニ移轉營

年月日

牛乳摺取受賣營業人氏

衛生委員氏

名印

何郡何町番地族籍

名印

山形縣何警察署(何分署)長

官氏名宛

(第五號雜形)

表面

裏面

牛乳配達之證  
烙免印許

何郡何町何番地  
牛乳摺取營業人氏  
名

竪三寸五分

同上

○縣令第四十七號

明治二十年四月二十八日

冰雪販賣取締規則左ノ通相定ム

但明治十三年(十二月)乙第二百十五號布達ハ廢止ス

冰雪販賣取締規則

第一條 販賣之目的トシテ冰雪ヲ製造者クハ貯藏セントスルモノハ第壹號書式ニ據リ其場所ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ毎年十二月十五日限リ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

衛生取締

五〇五

明治二十二年四月十日  
縣令第六號  
同  
二十二年六月十日  
縣令第八號  
同  
二十二年八月十日  
縣令第十號  
同  
二十二年十月十日  
縣令第十二號  
同  
二十二年十二月十日  
縣令第十四號  
同

明治二十年八月二十  
縣令第六號及  
同十九號  
縣令第八號  
看十二月  
明治二十年  
四月二十  
縣令第二  
十六號參  
同看  
上

衛生取締

五〇六

第二條 前條ノ免許ヲ得タル場所ニ於テ製造若クハ貯藏シタル氷雪ハ其販賣前第二號書式ニ據リ檢査ヲ受クヘシ

但精良ノモノニハ檢査證ヲ付與シ不良品ハ棄却セシム

第三條 卸賣小賣又ハ行商ヲ爲サントスル者ハ第三號書式ニ據リ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許ヲ受クヘシ

但行商者ハ堅二寸三分横一寸九分ノ鑑札ヲ製シ烙印ヲ受クヘシ

第四條 卸賣小賣者ハ第四號書式ノ看板ヲ掲クヘシ

第五條 行商者ハ行商中鑑札ヲ携帯スヘシ

第六條 製造場並ニ貯藏場ハ常ニ清潔ヲ要ス若シ不潔ニシテ有害ノ虞アルトキハ修理又ハ場所替ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 氷雪ハ時々檢査ヲ爲シ不潔又ハ有害ト認ムルトキハ其販賣ヲ差止メ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

第八條 氷雪製造貯藏及販賣免許ノ期限ハ毎年十一月一日ヨリ翌年十月三十一日迄トス

第九條 此規則第一條第二條第三條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス其第四條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

氷(雪)製造(貯藏)願

一 製造場 郡町字番地

一 貯藏場 何ハ其場所ノ名ヲ記シ雪ノ氷(雪)製造(貯藏)ノ方法ヲ詳記シ且地形ノ概略ヲ附記ス

右場所ニ於テ販賣ノ爲メ氷(雪)製造(貯藏)仕度別紙圖面相添此段奉願候也

何郡町番地族籍職業

年 月 日 氏 名 印

署長分署長宛

第二號書式

一 製造場 郡町字番地

一 貯藏場 何郡町番地族籍職業

右製造(貯藏)ノ儀豫テ御許可相成候處今般販賣仕度候ニ付御檢査被成下度此段奉願候也

年 月 日 氏 名 印

署長分署長宛

第三號書式

氷(雪)卸賣(小賣)(行商)願

一 製造場 郡町字番地

一 貯藏場 何郡町番地族籍職業

一 製造人ノ氏名 製造貯藏人ニ於テ卸賣小賣行商ヲ兼ヌルカ又ハ卸

一 貯藏人ノ氏名 賣小賣人ニ於テ行商ヲ兼ヌルトキハ其旨ヲ附記ス

右氷(雪)卸賣(小賣)(行商)仕度候ニ付此段奉願候也

衛生取締

五〇七

年月日

署長分署長宛

何郡町番地族籍職業

氏

名

印

第四號書式

木札竪二尺三寸横七寸

○何地氷(雪) (卸賣) 所

郡町村名

貯藏販賣人氏

名

全上

何郡何町村何誰貯藏

○何地氷(雪) 小賣所

郡町村名

小賣人氏

名

○縣令第十三號

明治二十一年三月七日

獸肉販賣取締規則左之通り相定メ明治二十一年四月一日ヨリ施行ス

但明治十三年(十一月)乙第二百十七號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

獸肉販賣取締規則

第一條 獸肉販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

第二條 獸肉販賣營業者ハ左ノ雛形ノ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

牛(馬)(羊)  
(豚)(野獸) 肉 販 賣 營 業

何縣何國何郡何町村何番地  
氏 名

竪二尺五寸

横七寸

第三條 牛馬羊豚ハ屠獸場ニ於テ檢査済ノモノニアラサレハ販賣スルヲ許サス  
第四條 獸肉ハ異種ノ肉ヲ混合シタルモノ及不良ノモノヲ販賣スルコトヲ許サス  
第五條 獸肉販賣營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシムルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ願出左ノ雛形ノ木札ヲ製シ記入及烙印ヲ受ケ之ヲ携帯スヘシ

衛生取締

五〇九

明治二十二年八月十八號  
縣令第六十八號參

但行商證ハ貸借スルヲ許サス

堅三寸横二寸

第何號

年月日

表  
牛(馬)(羊)  
(豚)(野獸)

行商證

裏

何警察署分署

何縣何國何郡何町村何番地

獸肉販賣人何某

賣子氏名

烙印

第六條 卸賣人ヨリ仲買人小買人又ハ仲買人ヨリ小買人ニ獸肉ヲ賣渡ストキハ其種類斤量年月日及卸賣仲買人ノ氏名ヲ記シタル證書(通帳ヲ以テ代用スルモ妨ケナシ)ヲ交付スヘシ

第七條 獸肉販賣營業者ハ適宜組合ヲ設ケ互撰ヲ以テ正副取締人ヲ置キ總テ營業上ニ關スル取締ヲ爲スヘシ

第八條 但正副取締人ヲ撰舉シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 免許證行商證ヲ紛失毀損スルカ若クハ改氏名轉居シタルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ再渡又ハ書換ヲ願出ツヘシ

第十條 廢業セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許證ヲ返納シ行商證ハ消印ヲ受クヘシ

第十一條 警察官吏ハ臨時店舗ニ臨ミ獸肉及帳簿ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條 但郡市醫ニ於テモ臨時販賣店ニ就キ獸肉ヲ檢査スルコトアルヘシ

第十三條 第一條第三條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條 第二條第五條第六條第九條第十條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 藥舖 藥品

○丙第二百二十九號 明治十一年 十二月二十六日

阿片賣買並製造ノ儀ニ付テハ本年第二十一號公布及ヒ内務省甲第二十七號布達ノ次第モ有之候處今般回省乙第六十八號ヲ以テ別紙ノ通達シ有之候條藥舖及ヒ製造人ハ右ニ準據早々可願出旨可相違候事

○丙第百號 明治十二年 四月二十二日

明治二十二年五月十四日  
縣令第四十七號  
看

阿片元受及ヒ賣捌手續之儀別冊之通り相設ケ候條藥舖并醫員ニ無漏可告示此旨相違候事

阿片元受并賣捌手續

- 一 各司藥場ヨリ阿片ヲ拂下クルハ明治十一年八月太政官第二十一號布告ヲ遵守シテ願出タル藥舖ニ限ルモノトス
- 一 阿片ハ粉未壹匁ヲ一器トシ每器ニ司藥場檢査印紙及ヒ番號「モルヒ子」ハ含量等ヲ明記セル藥名箋ヲ貼附シタル品ヲ以テ毎年二次縣廳ヨリ特許藥舖ニ拂下クルモノトス
- 一 郡役所ニ於テハ特許藥舖等每半年分拂下テ請フ豫算ヲ取調願書ト共ニ一月十五日七月十五日兩度縣廳ニ開申ルヘシ
- 一 縣廳ヨリ特許藥舖ニ阿片ヲ拂下ルハ毎年二期トス
- 一 但シ缺乏ノ節臨時拂下クルハ規則第七條ノ通りタルヘク且拂下ノ定期ハ毎年三月ヨリ四月九月ヨリ十月ト豫定スレトモ本年ハ五月ヨリ七八月ニ至ルチ一期トス
- 一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ賣捌ラトキハ其都度一般藥舖醫師及平人ハ處住所姓名外國人其國名ヲモ瓶數番號代價月日ヲ詳細簿記シ置キ每一ケ年(會計年度)分雜形ノ表二通ヲ製シ買受人ヨリ差出シタル證書ト共ニ年度經過後一ケ月以内郡役所ヲ經由シ縣廳ニ差出スヘシ
- 一 但シ一瓶ヲ再三度ニ賣捌シトキハ證書ヲ不要ト雖モ本文ノ通必ス帳簿ニ明記シ置クヘシ
- 一 縣廳ニ於テ特許藥舖ニ阿片ヲ拂下ルトキハ都テ現金ヲ以テ收納スヘシ

明治二十一年九月十日  
訓令甲第  
四十五號  
參看

- 一 阿片買上拂下ノ價格ハ每半年或ハ一年ヲ通シテ之ヲ定メ内務省衛生局ヨリ報告アルヘシ
- 一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ衛生局ヨリ報告ノ原價ニ相當ノ手数料ヲ加フヘシ
- 一 雖モ三割ヨリ超過販賣スヘカラス
- 一 内務省ヨリ拂下クル所ノ阿片其價格ニ每期多少ノ差異ナキヲ得サルニヨリ縣廳ニ於テハ其高低ニ不拘番號ノ順ヲ逐ヒ其定價ニ從ヒ拂下クヘシ

明細表雜形

明治何年上半期阿片受拂明細表

元 受		元 賣	
受入月日番	號	百分中	瓶
何月何日第	何號	モルヒ子量	數
何月何日第	何號	九以上十	何千何百
何月何日第	何號	十以上十一	何千何百何十
總計			何千何百
前期ノ殘餘品アルトキハ表初ニ記入スヘシ			何千何百圓
			何千何百圓
			一瓶ノ價
			拾何錢何厘
			拾何錢何厘

賣捌月日番	號	瓶	數	價	買受人住所	姓	名
何月何日第何號	何號	何百何十	何十何圓	何十何圓	何國郡何町村番地	藥舖何	某
何月何日第何號	何十何	何圓			何國郡何町村番地	醫師何	某
壹匁以下賣捌							
何月何日	何番號ノ内	何	分	何	錢	何國郡何町村番地	何
						何	某

元受賣捌差引殘

阿片何百何拾瓶明治何年六月三十日現在高  
十二月三十一日

前書之通相違無之候也

山形縣下何國何郡何町村番地

阿片賣捌特許藥舖

何ノ某印

年號月日

長官宛

○乙第八十七號 明治十八年八月十四日

雜藥販賣取締規則左ノ通相定來ル九月十日ヨリ施行ス

右布達候事

雜藥販賣取締規則

- 第一條 此規則ニ定ムル雜藥トハ惡臭止及飲食物ノ防腐藥其他鼠蠅虱蚤蚊等驅除ノ目的ヲ以テ調製シタルモノヲ云フ
- 第二條 雜藥ヲ製造販賣セント欲スル者ハ方名藥品分量製法用法用量功能ヲ詳記シ第一號書式ニ照準願出免許證ヲ請クヘシ
- 第三條 免許ノ藥劑ニシテ其藥品分量製法用法用量功能ヲ改正セント欲スルトキハ第二號書式ニ照準願出許可ヲ受クヘシ
- 但方名ヲ改正セント欲スルトキハ舊免許證ヲ返納シ更ニ免許證ヲ請クヘシ
- 第四條 免許ノ雜藥ト雖トモ有害品ナルコトヲ發見スルトキハ直チニ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ
- 第五條 廢業死亡或ハ他管下へ轉籍寄留セントスルトキハ免許證ヲ返納スヘシ
- 第六條 相續人ニ於テ營業ヲ繼續セント欲スルトキハ其旨願出免許證書換ヲ請フヘシ
- 第七條 免許證ヲ遺失毀損スルカ又ハ他町村ニ轉居或ハ氏名族籍ヲ變換セシトキハ其事由ヲ具シ免許證再渡又ハ書換ヲ願出ヘシ
- 第八條 雜藥ヲ請賣セント欲スル者ハ製造人所持ノ免許證寫ヲ添へ郡役所へ願出免許證ヲ請クヘシ
- 但其證ナキモノハ第二條ノ手續ニ依ルヘシ
- 第九條 雜藥ヲ行商セント欲スル者ハ製造人又ハ請賣人ニ於テ自ラ行商スルト賣子ヲ派出シテ行商セシムルトニ拘ハラヌ郡役所へ願出免許證ヲ請クヘシ

第十條 請賣及行商ヲ廢業スルトキハ郡役所へ届出免許證ヲ返納スヘシ  
第十一條 此規則第二條第三條第八條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セラ  
ルヘシ

第一號書式

(○印ハ朱)

雜藥御檢査願

一方名

藥品分量 製法  
用法 用量  
功能

右雜藥販賣仕度候間御檢査ノ上免許證御下渡被成下度藥品相添此段奉願候也

山形縣何郡何町村何番地族籍

○寄留者ハ何府縣何國何郡區何町村番地  
族籍當時山形縣何郡何町村何番地何誰  
方へ寄留ト記スヘシ

年月日

何郡何町村衛生委員

氏名印

縣令宛

前書之通相違無之候也

何郡何町村戸長

氏名印

第二號書式

雜藥改正願

一方名

藥品分量 製法  
用法 用量  
功能

右明治何年何月何日御檢査済免許證御下渡營業仕居候處今般藥品分量製法用法用量功能  
左之通改正仕度候間御許可被成下度依テ藥品相添此段奉願候也

改正藥品分量

製法

用法

用量

功能

山形縣何郡何町村何番地族籍

○寄留者ハ何府縣何國何郡區何町村番地  
族籍當時山形縣何郡何町村何番地  
何誰方へ寄留ト記スヘシ

年月日

何郡何町村衛生委員

氏名印

縣令宛



前書之通相違無之候也

何郡何町 戶長

氏

名

印

○縣令第五十八號 明治二十二年七月五日  
藥舖開業試驗規則左ノ通相定ム

藥舖開業試驗規則

第一條 藥舖ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 試驗ヲ受ケントスル者ハ年齡滿十八年以上ノ男子ニシテ志願書ニ履歷書ヲ添ヘ

郡又ハ市役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第三條 試驗科目ヲ定ムル左ノ如シ

一 算術 諸比

二 問以上

一 物理學大意

同

一 化學大意

同

一 藥物學大意

同

一 調劑學大意

同

但物理學以下ノ試驗ハ從來乙種醫學校生徒定期試驗ノ程度ニ據ル

試驗ヲ舉行スヘキ場所及期日ハ其都度告示スヘシ

第五條 試驗舉行毎ニ試驗委員長一名試驗委員若干名ヲ命ス

第六條 受験人ハ試驗場ニ於テハ渾テ試驗委員長ノ指揮ニ從フヘシ

第七條 試驗答案ハ縣廳ヨリ内務省ヘ送致シ其及第落第ノ判定ヲ請ヒ合格者ハ開業免

狀ヲ受ケ交付スルモノトス

第八條 試驗ニ落第シタル者ハ六ヶ月ヲ經ルニ非サレハ再試驗ヲ出願スルコトヲ得ス

○縣令第八十七號 明治二十二年十一月九日

何人ヲリトモ (醫師藥劑師藥種) 格魯兒酸加留謨 (鹽素酸加留謨又ハ鹽酸加里) ナ賣買授

受スルトキハ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署又

ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ檢査スルコトアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三

日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

書式 用紙半紙

格魯兒酸加留謨

斤 量

右ハ(工職用又何々)ニ必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何府何郡市町村何々番地職業身分

現住所何府何郡市町村何々番地

(買主)(受主) 氏

年 名 印 齡

年 月 日

明治二十二年二月二十  
縣令第十  
二號參看

何警察署長又ハ分署長

官 氏 名 殿

○告示第十四號 明治二十三年

二月十二日

明治二十二年(三月)法律第十號第三十八條ニ據リ藥品監視員巡視ノ際左ノ證票ヲ携帶ス

曲尺二寸五分

番 號

表 藥品監査員之證

六六四

裏

山 形 縣 印

○縣令第十四號 明治二十三年

三月八日

本年(二月)縣令第一號藥種商製藥者營業取締細則左ノ通改正ス

藥種商製藥者營業取締細則

第一條 藥種商營業ヲ爲サントスルモノハ第一號書式ニ據リ郡市役所ヲ經縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 製藥者營業ヲ爲サントスルモノハ第二號書式ニ據リ郡市役所ヲ經縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第三條 藥種商製藥者免許鑑札ヲ毀損亡失シ若クハ族籍氏名ヲ變更シタルトキハ郡市役所ヲ經書換又ハ再渡ヲ縣廳ニ願出ヘシ

第四條 藥種商製藥者廢業失踪死亡又ハ管外ニ移轉ノトキハ郡市役所ヲ經免許鑑札ヲ縣廳ニ返納スヘシ

但管內移轉ノトキハ郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 藥種商一箇ノ藥品ヲ數箇ニ分チタルトキ及製藥者自己ノ製藥ニハ其容器又ハ包紙ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第六條 藥種商製藥者ニ於テ使用セル封緘用紙印章類ハ豫メ郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ其改正シタル時亦同シ

前項ノ封緘用紙衛生試驗所檢査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 藥種商第五條ノ場合ニ於テハ其容器ニ自己ノ住所氏名及製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若シハ外國藥品引取人ノ住所氏名ヲ併記スヘシ

但毒劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第八條 藥種商製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ  
 第九條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスルモノハ第一條第二條ノ免許鑑札ヲ受クルコト及ハスト雖モ該條ニ準シ届出尙第五條第六條第七條(但書ヲ除ク)第八條ヲ遵守スヘシ

但管内外移轉ノトキハ郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ

第十條 製藥者ハ毎年製造及販賣セシ藥品ノ種類數量ヲ統計シ第三號書式ニ據リ翌年一月三十一日限り郡市役所ヲ經縣廳ニ届出ツヘシ

但廢業及管外移轉ノトキハ十日以内ニ届出ツヘシ

第十一條 第五條第七條ニ違背シタルモノハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス  
 第一號書式

藥種商營業願

私儀

何所ニ於テ藥種商營業仕度候間免許鑑札御下付相成度此段相願候也

何郡町村 大字番地族籍

(寄留者ハ寄留番地ヲ併記ス)

年月日

氏名 印

生年月

知事宛

第二號書式

製藥者營業願

私儀

何所ニ於テ製藥者營業仕度候間免許鑑札御下付相成度此段相願候也

何郡町村 大字番地族籍

(寄留者ハ寄留番地ヲ併記ス)

年月日

氏名 印

生年月

知事宛

第三號書式

製藥數量御届

藥名	製藥數量	販賣數量	殘數量
前年越々高々			
何々			
合計			

右之通相違無之此段及御届候也

何郡町村 大字番地族籍

(寄留者ハ寄留番地ヲ併記ス)

氏 名 印

年 月 日

知 事 宛

○訓令第二十一號 明治二十三年

三月十二日

製藥者ニシテ失踪死亡シ本年縣令第十四號藥種商製藥者營業取締細則第十條ノ届出ヲ爲

シ能ハサル場合ニ於テハ其相續人若クハ親族ヨリ失踪又ハ死亡迄ニ係ル統計書ヲ十日以

内ニ差出サシムヘシ

墓地 埋火葬

○乙第三十七號 明治十八年

五月十八日

明治十七年(十二月)乙第三百三十三號布達墓地及埋葬取締細則左ノ通改定ス

但明治十三年(十一月)乙第二百十二號及本年(三月)乙第十九號布達ハ廢止ス

右布達候事

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ハ一町村若クハ數町村ニ各一ヶ所ヲ設ク宗旨又ハ種族異ナリト雖

トモ別ニ之ヲ設クルヲ許サス

但市街地ニ於テ寺院舊境内ヲ區畫シ墓地ト定メタルモノ又ハ村落ノ實況ニ依リ止ム

ヲ得サル場合ニ於テハ増設ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 墓地及火葬場ノ區域ヲ變更又ハ増設セントキハ其事由ヲ詳記シ縣廳ヘ

願出ツヘシ

第三條 墓地及火葬場ハ其町村ノ其葬ニ充ツヘキモノト雖トモ其町村ニ於テ死去シタル

モノハ何人ナ問ハズ埋葬又ハ火葬スルコトヲ得

第四條 墓地及火葬場ハ薄稅地ヲ選ビ之ヲ設置スヘシ若シ適應ノ地ナク止ムヲ得サルト

キハ耕宅地ノ内ヘ設クルコトヲ得

但薄稅地ト雖トモ水源ニ屬スル山林原野ノ如キハ之ヲ許サス

第五條 墓地及火葬場ノ經界ニハ樹木ヲ植ヘ其區域ヲ明瞭ニスヘシ

第六條 墓地及火葬場ハ時々灑掃又ハ修繕ヲ加ヘ不潔ナカラシムヘシ

第七條 墓地及火葬場ノ管理者及其方法ハ關係人民ニ於テ適宜選定シ其族籍氏名住所管

理ノ方法等戶長役場及所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第八條 墓地及火葬場ノ管理者ハ認許(瘞埋證ノ裏面ニ埋葬火葬又ハ瘞埋ノ年月日時ヲ

記シ三月以内所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ請ケ之ヲ戶長役場ニ差出スヘシ

第九條 死刑ニ處セラレタルモノ及行旅死亡人等ノ内引取人ナキモノヲ瘞埋スル場合ニ

於テハ司獄官又ハ戶長ヨリ直ニ其管理者ヘ瘞埋證ヲ交付スヘシ

第十條 死者ノ家人(家人ナキトキハ親類又ハ隣保ノ者)ハ明治十九年内務省令第十九號第二條ニ據リ死

亡届ヲ差出スト同時ニ左ノ各項ニ照準死亡證書ヲ添ヘ戶長役場ヘ差出シ埋葬火葬(瘞

明治十九年三月乙第三十號 參看

明治二十年一月 縣令第二號 參看

理)等ノ認許證ヲ請求シ之ヲ管理者ニ出シ然ル後埋葬(瘞埋)等ヲ執行スヘシ

但火葬ノ遺骨ヲ埋葬スルトキハ更ニ本文ニ準シ死亡證書添付ヲ除ク其認許證ヲ請クヘシ

一 病死ハ第三號書式ニ據リ其主治醫ノ死亡證

二 妊娠四ヶ月以上ノ死胎分娩ハ第四號書式ニ據リ醫師又ハ產婆ノ死産證

三 醫療ヲ受ケスシテ死亡シ又ハ醫師產婆ノ手ヲ經サル死胎分娩ハ第五號書式ニ據リ最寄醫師ノ檢案書

四 變死ニ係ルモノハ檢視官ノ檢印ヲ爲シタル醫師ノ檢案書

五 囚徒ノ死体又ハ死刑ニ處セラレタル遺体ヲ引取埋葬火葬(瘞埋)セントスルトキハ司獄官ノ檢印ヲ爲シタル獄醫ノ證書寫

第十一條 改葬ヲ爲サントスル者ハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署へ願出許可ヲ請クヘシ

但警察署又ハ分署所轄外ノ墓地へ改葬スル者ハ改葬地ノ警察署又ハ分署へ許可證ノ寫ヲ添へ直ニ届出ツヘシ

第十二條 墓地ヲ新設スルハ國縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ル凡六十間以上飲用水ヲ距ル凡七間以上ニシテ高燥ナル地ヲ選フヘシ

第十三條 墓地ハ一戸ニ付平均五坪ヲ以テ定度トスト雖モ土地ノ實況ニ依リ伸縮スルコトヲ得各自ノ位置區域等ハ管理者ト共有者トノ協議ニ任ス

但死刑ニ處セラレタルモノ又ハ行旅死亡人等ハ各墓地ノ一隅ヲ區畫シ其内ニ瘞埋ス

第十四條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ但シ土地ノ實況ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ又ハ火葬ノ遺骨ヲ埋葬スル如キハ此限リニアラス

第十五條 墓地ノ内ニハ從前現存スルモノ、外一丈以上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラス

從前現存スル墓地内ノ樹木ハ猥リニ伐採スルヲ許サス若シ伐採セサルヲ得サル場合ニ於テハ縣廳ノ許可ヲ請クヘシ

第十六條 墓地ハ埋葬ノ外他用ニ充ツルヲ得ス

第十七條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ距ル百二十間以上ノ地ヲ選フヘシ

第十八條 火葬場ハ必ス火爐烟筒高サ三間以上及周圍ニ牆壁ヲ設クヘシ

但人家遠隔ナル山林原野ノ如キハ適宜ノ構造ヲ爲スモ妨ナシ

第十九條 火葬ノ時間ハ日没後ニ限ル若シ止ムヲ得サル事情アルトキハ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ請クヘシ

第二十條 火葬場ハ火葬ノ外他用ニ充ツルヲ得ス

第二十一條 碑表ヲ建設スルトキハ其繪圖面及碑文ヲ明記シ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ請クヘシ

但死者ノ氏名族籍官位勳爵法號年月日及建設者ノ氏名等ヲ刻スルニ止ルモノハ本條ノ限リニアラス

第二十二條 削除

明治十九年三月乙第三十號

衛生取締

第二十三條 傳染病死屍ノ埋葬火葬等別ニ例規アルモノハ此規則ニ據ルノ限リニアラス  
第二十四條 此規則第三條第五條第八條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第  
二十條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ處分セララルヘシ

(第一號書式)甲

何町(何町外何ヶ村)(何町何寺)  
何村(何町外何ヶ村)(舊境内)墓籍

國郡町  
字番  
一墓地反別畝歩

内

一番。此番號ハ墓地區畫ノ繪圖ニ照シ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

一何歩

○戶長認許證ト割印スヘシ

何年月日時  
印埋葬

同上。同上

同上

○數町村共有ノ時ハ何町村ト肩書ス

何誰持

何誰父母(兄弟姉妹)

何誰亡

○同上

同上

同上  
同上

死刑(行旅死亡)人分

何府縣郡區町村族籍(無籍)

同上

(第一號書式)乙

何町(何町外何ヶ村)火葬簿

國郡町  
字番

一火葬地反別畝歩

一町(何町外何ヶ村)共有

○一町村ノ内分裂スルモノハ何町村何誰外何名共有ト記スヘシ

何町村何誰父母(兄弟姉妹)

何誰亡

同上

何年月日時  
火葬

同上

同上

(第二號書式)甲

死亡届

何府縣何國何郡何町番地族籍

。寄留者ハ當時何郡何町何番地何誰方へ寄留ト記スヘシ

何某父母兄弟妻子

各本人ノ現業ヲ記ス可シ  
職 業。シ營ヘハ無職家族ナレハ戶主何業ト記スヘシ

氏 名

何年何ヶ月

既婚有配偶或ハ未婚  
無配偶

右ハ何月何日午後第何時死去候條醫師證書(檢案書)相添此段御届申上候也

右 届 主

氏 名 印

年月日

戶 長 宛

(第二號書式)乙

死 産 届

何府縣何國何郡何町番地族籍

何某妻(何姉妹)

。朱書同上

何 九 九 九

何年何ヶ月

右ハ妊娠何ヶ月ニシテ死体分娩候條別紙醫師ノ檢案書(醫師死産證)相添此段御届申上候也

右 届 主

氏 名 印

年月日

戶 長 宛

(第三號書式)

死 亡 證

何府縣何國何郡何町番地族籍

。朱書同上

何某父母兄弟妻子

職 業。朱書同上

氏 名

何年何ヶ月

病 名

經過 死ニ至ルノ因由年月日時死亡

右之通相違無之候也

年月日

山形縣何國何郡何町村何番地  
施治醫 氏 名 印

(第四號書式)

死産證

何府縣何國何郡何町村何番地族籍

何某妻(何姊妹)

○朱書同上

何 九 九

公(私)生姪娠何ヶ月ニシテ男(女)死胎分娩  
○「ニタ子三ツ子及四ツ子等  
ハ男何人女何人ト記スヘシ

何年何ヶ月

右之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町村何番地

醫師(産婆) 氏 名 印

(第五號書式)甲

死亡檢案書

何府縣何國何郡何町村何番地族籍

○朱書同上

何某父母兄弟妻子

職業 ○朱書同上

病名年月日時死亡

氏

何年何ヶ月

○死ニ至ル原由ヲ簡短ニ記スヘシ

右檢案候處頭書ノ通相違無之候也

山形縣何國何郡何町村何番地

醫師 氏 名 印

(第五號書式)乙

死産檢案書

何府縣何國何郡何町村何番地族籍

何某妻(何姊妹)

○朱書同上

何 九 九

公(私)生姪娠何ヶ月ニシテ男(女)死胎分娩

○死ニ至ル原由ヲ簡短ニ記スヘシ  
○「ニタ子三ツ子及四ツ子等  
ハ男何人女何人ト記スヘシ

右檢案候處頭書之通相違無之候也

山形縣何國何郡何町村何番地

醫師 氏 名 印

年月日

○甲第三號 明治十九年 五月十一日

明治十八年(五月)乙第三十七號布達墓地及埋葬取締細則第十二條及第十七條ニ抵觸スル

距離内ノ地所ニ自今家屋建築ヲ許サス



但本文距離内ニ建築ヲ必要トスル場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ願出ツヘシ  
右布達ス  
○訓令丙第九號 明治二十年八月十二日 戸長 役場

埋火葬認許證ハ左ノ書式ニ據リ調理スヘシ

但明治十八年(五月)丁第十九號達廢止ス

(○印朱書) 番號 (用紙戸長役場款名ノ半紙郵紙)

戸籍登記死亡ノ部へ割印スヘシ

印 埋火葬認許證

病名 年月日時死亡

府縣郡區町村番地族籍  
戸主又ハ何某何

何 某

何町村(外何ケ町村) 何年何ケ月

戸長 何 某印

○達衛第十七號 明治二十三年三月二十六日

明治二十年三月十日  
訓令第三十五號參

地理ノ部  
參看

郡市役所

墓地火葬場斃獸埋沒場設置出願之内本年二月告示第十五號ニ關スル分ハ十八年(七月)乙第三十七號二十二年(一月)縣令第一號ノ書式ニ據フス單ニ衛生上障害ノ有無検査之儀ヲ出願セシムヘシ

屠獸場 斃獸埋沒場

○縣令第十二號 明治二十一年三月七日

屠獸場及屠獸取締規則左ノ通相定メ明治二十一年四月一日ヨリ施行ス  
但明治十七年(五月)乙第四十四號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

屠獸場及屠獸取締規則

第一條 屠獸場ハ食肉販賣ノ爲メ牛馬羊豚ヲ屠殺スル所トス其場外ニ於テハ一切屠殺スルコトヲ許サス

第二條 屠獸場ハ一市街又ハ數町村ヲ合シテ一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ限リ之ヲ許可ス

第三條 屠獸場ヲ開設シテ屠殺ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ願書ニ其構造場所ノ圖面及四隣地主ノ承諾證ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ト受シヘシ

但落成ノ上其旨届出検査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ許サス

第四條 屠獸場ヲ賣買讓與スルトキハ双方連署ノ上所轄警察署又ハ分署ニ届出ツヘシ

第五條 屠獸場ハ人家飲料水及國縣里道ヲ距ル凡ソ六十間以外ニシテ衛生上都テ障害ナ

キ地ニアラサレハ許可セズ

衛生取締

五三五

明治二十年八月十日  
縣令第八號及  
同十七號  
縣令第九號參  
看十三號

第六條 屠獸場ノ構造ハ左ノ各項ニ遵フヘシ

一 屠獸場ノ周圍ハ土手又ハ塙塀ヲ設クル事

二 屠獸場内ニハ屠室ヲ設ル事

三 屠室ノ周圍ハ板圍ト爲シ地盤ハ切石若クハ漆喰又ハ厚板ヲ以テ汚汁ノ滲透セサル様敷設シ且汚物ノ溜壺ニ通スル溝ヲ設ケ適宜ノ勾配ヲ付スル事

四 血液其他汚物ノ溜壺ハ不透透質ノモノヲ以テ屠室外ニ設ケ臭氣ノ漏洩セサル様覆蓋ヲ設ル事

第七條 屠獸場ノ構造ヲ變更セントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ落成ノ上ハ第三條但書ニ同シ

第八條 屠獸場ニハ第二號書式ノ標札ヲ掲クヘシ

第九條 屠獸場ハ屠殺ヲ終リタル毎ニ洒掃シ臟皮骨及血液汚水汚物ノ類ハ之ヲ取除クヘシ

第十條 屠獸場ニ於テ屠殺ヲ爲サントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ニ届出檢査ヲ受クヘシ

但此場合ニ於テハ獸醫ヲシテ立會ハシム

第十一條 屠肉ニハ檢印ヲ受クヘシ檢印ナキ屠肉ハ屠場外ニ運搬スルコトヲ許サス

第十二條 屠獸檢査員ニ於テ病獸又ハ不良ノ肉ト認ムルトキハ其屠殺又ハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第十三條 屠獸場持主ハ帳簿ヲ製シ左ノ事項ヲ記載シ置クヘシ

一 屠獸ノ種類及頭數

二 牝牡ノ區別及年齡

三 屠殺年月日

第十四條 廢業改氏名又ハ轉居セシトキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第十五條 正當ノ事故ナクシテ屠獸場ヲ閉鎖シ又ハ第三條願濟ノ日ヨリ三十日ヲ過キ落成ニ至ラザルモ若クハ屠獸場開設免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十六條 獸類ノ屠殺料ハ豫メ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ其増減ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 正當ノ事故ナクシテ屠殺ヲ拒絕シ又ハ屠殺料ノ外濫リニ金錢ヲ請求スヘカラス

第十八條 第一條第三條第四條第七條第九條第十條第十一條第十六條第十七條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十九條 第八條第十三條第十四條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第一號書式

屠場開設ノ儀ニ付願

官有地(又ハ某私有地)

何國何郡何町何番地何字

一何地何反何畝歩

(官有地ナレハ一般官有地拜借ノ例ニ因ルヘシ)

右之場所ニ於テ屠獸場開設致度候間御聞届被成下度依テ圖面(四隣地主承諾證)相添此段奉願候也

住所身分

年月日

氏名印

借地ナルトキハ地主ノ連署ヲ要ス又數人共同シテ開設セントスルトキハ共同者連名ヲ爲シ且管理者ヲ定ムヘシ

何警察署分署長

官氏名殿

第二號書式

○ 官 屠 獸 場

許 住所身分

氏 名

「數人共同ノトキハ外何名ト記ス

豎三尺

横八寸

○縣令第一號 明治廿二年 一月十一日

屠獸埋沒場取締規則左之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

屠獸埋沒場取締規則

第一條 屠獸埋沒場ハ健康上障害ナキ地ヲ選ビ第一號式ニ照準郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出許可ヲ請クヘシ

第二條 埋沒場ハ一市町村若クハ數町村ニ一ヶ所ヲ設クヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ増設スルコトヲ得

第三條 左ノ場所ニハ埋沒場ヲ設置スルコトヲ許サス

一 人家ニ接近シタル場所

明治二十  
四年三月  
縣令第十  
二號參看

明治二十四年三月十日  
縣令第十號  
參看

一 國縣道里道ニ接近シタル場所  
 一 河川港灣ニ接近シタル場所  
 一 飲料水ニ接近シタル場所  
 第四條 埋沒場ノ周圍ハ樹木ヲ植ヘルカ若クハ垣塀ヲ設ケ其區域ヲ明瞭ニシ第二號式ニ照準標木ヲ建ツヘシ  
 第五條 斃獸ハ飼主若クハ地主借地主ニ於テ埋沒又ハ燒棄スヘシ  
 第六條 斃獸ヲ發見シタル者ハ便宜飼主若クハ地主借地主又ハ市役所町村役場ニ通知ス  
 第六條 斃獸ヲ發見シタル者ハ便宜飼主若クハ地主借地主又ハ市役所町村役場ニ通知ス  
 前項ノ通知ヲ受ケタル市役所町村役場ニ於テハ飼主若クハ地主借地主ニ其處分ヲ命ジ若クハ直ニ埋沒又ハ燒棄スヘシ  
 第七條 斃獸ノ皮ヲ剥取り又ハ燒棄セント欲スルモノハ埋沒場ニ於テ之ヲ行フヘシ  
 第八條 埋沒場設置ノ上ハ直ニ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ  
 第九條 此規則第一條第五條第七條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 (第一號式)  
 斃獸埋沒場設置願  
 何國郡町何番字何

何番

一何地何反畝歩

何誰持地

此地價金何程

此地租金何程

右ハ今般縣令第何號ニ基キ一市町村(或ハ何ヶ町村)共用埋沒場書面ノ地所ニ相設度候間御開届被成下度別紙圖面並持テ承諾書寫相添此段奉願候也

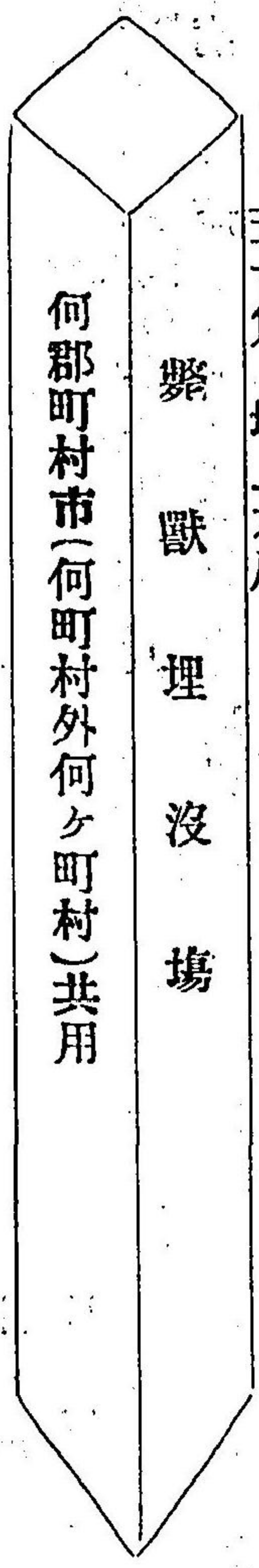
何郡町村 願人總代又ハ市町村長

(市町村ヲ代表スル場合)

年月日 氏名 氏名 印 印

知事宛 (第二號式)

五寸角 地上六尺



衛生取締

○達農第六號 明治二十二年 二月七日

郡 役 所  
戸 長 役 場

斃獸取扱上ニ付テハ可成嚴重ノ取締ヲナスコト最モ緊要ノ儀ニ有之若シ之ヲ等閑ニ付シ  
傳染病ニテ斃死シタルヲ誤テ尋常ノ取扱ヲ爲ストキハ或ハ皮骨等ヨリ傳染病毒ヲ發シ之  
カ爲メ遂ニ其毒ヲ四方ニ傳播スルニ至ルノ虞ナシトセス由テ是等取締上特ニ注意スヘシ

第三章

傳染病豫防 附種痘

乙第六號 明治十六年 一月十九日

傳染病患者届規則左ノ通相定候條此旨布達候事

傳染病患者届規則

第一章 醫師ノ務

第一條 醫師傳染病ヲ診斷シタルトキハ傳染病豫防規則第二條所定ノ時間内ニ第一號書  
式ニ據リ診斷書ヲ製シ其町村戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ

但土地ノ便宜ニ據リ醫師ヨリ直ニ届出ルハ傳染病豫防規則第二條但書ニ準據スヘシ

第二條 施治ノ患者全治或ハ死亡シタルトキハ第二號及第三號書式ニ據リ報告書ヲ製シ  
全治者ハ三日間内死亡者ハ二十四時間内ニ其町村戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ

第三條 他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診斷シ傳染病ナルトキハ直ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ  
第二章 戸長衛生委員ノ務

第四條 戸長若クハ衛生委員ニ於テ第一條第二條ノ通知ヲ得タルトキハ速ニ第四號書式  
ニ據リ届書ヲ製シ郡役所及所轄警察署又ハ分署ヘ届出ヘシ

第五條 管理外ノ者其町村ニ在テ傳染病ニ罹リタルトキハ其町村戸長若クハ衛生委員ヨ  
リ第四條ノ手續ヲナシ而シテ本籍戸長若クハ衛生委員ヘ通知スヘシ本籍戸長及衛生委  
員ニ在テハ別ニ届出ニ及ハス

第一號書式

何病患者診斷書

○印ハ朱書

山形縣何郡何町番地族籍  
他管下ノモノハ當時山形  
縣何郡何町何誰方寄留  
ト記載スヘシ

戸主或ハ父母兄弟妻子

各本人ノ現業ヲ明記シ例ヘハ農業主(農  
業ニシテ自ラ勞役セサル者)ト自ラ耕作  
者トナキ者ハ戸主何職業ト記スヘシ  
職業  
氏 名

△年齢幾年幾月ト記スヘシ

病名 年月日時發病△痘瘡患者、未種痘初種痘或ハ再三種等  
年月日時診斷ノ別ヲ本項ノ下ニ記スヘシ

發病ノ來由(觸接及間接性又ハ  
特發性ノ如シ)

再三感(有  
無)

△印ハ十  
六年五月  
乙第六號  
追加

發病前病患 有

徵候ノ要旨

右診斷候也

年月日

第三號書式

何病患者全治報告

山形縣何郡何町番地

施治醫

氏

名

印

○濟生館醫ナラハ其旨記載スヘシ

山形縣何郡何町番地族籍。同上

戶主或ハ父母兄弟妻子

職業△第一號ニ同シ

氏

名

年齡△第一號ニ同シ

病名 年月日時發病△第一號ニ同シ

病勢 劇

續發症 有

右報告候也

山形縣何郡何町番地

施治醫

氏

名

印

○同上

第三號書式

何病患者死亡報告

年月日

山形縣何郡何町番地族籍。同上

戶主或ハ父母兄弟妻子

職業△第一號ニ同シ

氏

名

年齡△第一號ニ同シ

病名 年月日時發病△第一號ニ同シ

病勢 劇

續發症 有

死亡ノ因由

右報告候也

山形縣何郡何町番地

年月日

第四號書式

何病患者〔全治〕御届

施治醫  
氏  
同上

名 印

山形縣何郡何町番地族籍。同上  
戸主或ハ父母兄弟妻子

職業

氏 名 年 齡

右ハ施治醫何某ヨリ別紙診斷書〔或ハ全治〕ノ死亡報告ニ付此段及御届候也

山形縣何郡何町  
戸長〔或ハ衛生委員〕

年月日

郡長〔警察署長又ハ分署長〕宛  
○丙第二百四十五號 明治十七年  
八月二十九日

山形縣何郡何町  
役 所

六傳染病患者申報ノ義電報ニアラスシテ態夫若クハ普通郵便ヲ以テ送付分ハ都テ上封ニ  
至急ノ文字ヲ朱書シ差出スヘシ此旨相達候事  
○訓令甲第二十號號 明治二十年  
四月十九日

郡 役 所

清潔法施行準則別紙ノ通相定候條右準則ニ據リ便宜増減規則ヲ設ケ縣廳ノ認可ヲ經テ施  
行スル

清潔法施行準則

第一章 通 則

第一條 清潔法ハ汚物ヲ排除シ内外ノ清潔ヲ要スル爲メ設ケルモノトス

第二條 清潔法ノ實施ハ各郡役所及警察署ニ於テ之ヲ監督ス

第三條 清潔法實施ノ費用ハ該關係者ノ負擔トシ其二町村若クハ數町村ニ涉ルモノハ町  
村會又ハ聯合町村會等ノ評決ニ依リ施行ス  
但諸官衙及學校病院等ノ如キハ其管理者ニ於テ之ヲ施行ス

第二章 汚水疏通法

第四條 下水ノ兩側ハ瓦石又ハ木材ヲ用ヒ汚水ヲシテ停滯ナカラシメ無害ノ地若クハ河

第五條 庖厨及浴場等ノ排水ハ切石又ハ木材ヲ用ヒテ樋ト爲シ覆蓋ヲ設ケ掃除ニ便ナラ

シメ直ニ下水溝ニ疏通スヘシ

但直ニ下水溝ニ疏通シ得サル場所ハ其末端ニ巨槽ヲ設ケ時々汲取リ充溢セシムヘカ  
ラズ

第六條 雨水疏通ハ檐下又ハ宅地内ニ適宜ノ小渠ヲ設ケ降雨ノ際充溢セシムヘカラス

第七條 前三條ハ専ラ人家稠密ノ場所ニ施行スルモノトス其稠密ナラサル場所モ亦之ニ  
準シ漸次改良スヘシ

第三章 尿尿排除法

第八條 人家稠密若クハ温泉場劇場其他共用ノ厠間ハ盜衣ヲ有スル陶器又ハ堅牢ナル木

材ヲ以テ厠高ト爲シ粘土ヲ以テ其周圍ヲ固メ汚汗ノ滲透ヲ防キ其表面ハ漆喰又ハ粘土

ヲ以テ漏斗狀ニ築造シ尿尿ノ滿タサルニ先チ時々汲取ルヘシ

第九條 人家稠密ナラサル各家ノ厠間モ前條ニ準シ漸次改良スヘシ

第四章 塵芥掃除法

第十條 塵芥ハ人家稠密ノ場所ニ於テハ覆蓋アル箱桶等ニ蓄ヘ時々無害ノ地ニ投棄又ハ

焼却スヘシ

第十一條 人家稠密ナラサル場所ニ於テハ居宅ヨリ隔離シタル地ニ適宜ノ芥溜ヲ設クヘ

○達衛第二十七號 明治二十一年七月十七日

郡 役 所

醫師二名以上ニシテ傳染病者ヲ診斷シ所見ヲ異ニスルトキハ各自ノ所見ヲ具シ明治十六

年乙第六號布達ニ據リ成規ノ時間ヲ經過セズ届出候様豫テ注意ヲ取計フヘシ  
○訓令第三十號 明治二十二年七月三十一日

郡 市 役 所  
町 村 役 場

清潔法施行委員設置法左ノ通相定ム

清潔法施行委員設置法

第一條 清潔法實施ノ爲メ縣廳内ニ臨時清潔法施行本部郡市役所若クハ警察署内ニ其支

部ヲ置ク

第二條 本部ニ左ノ職員ヲ置ク

部 長 第二部長

副部長 警部長

委 員 縣 屬 若干名

警 部 警 部 同 上

警 部 警 部 同 上

技 手 同 上

第三條 支部ニ左ノ職員ヲ置ク

部 長 郡市長

副部長 警察署長



委員

警部

若干名

警部補

同上

郡書記

同上

町村長

正副郡市醫

町村醫設置ノ町村以町村醫

第四條

本支部長事故アルトキハ各副部長代テ其事務ヲ處理ス

第五條

本部長ハ管内ノ全部支部長ハ其部内ヲ統理シ各其委員ヲ指揮監督ス

第六條

本支部委員ハ其部長ノ指揮ニ從ヒ庶務ヲ掌ル

第七條

處務ノ細則ハ本部長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

訓令第三十八號

明治二十二年八月二十八日

傳染病流行ノ時季ニ於テハ豫防上一層注意ヲ要スヘキニ付暴瀉又ハ吐瀉ノ二症ヲ兼テタル患者ヲ診斷シタルトキハ直チニ郡市役所若クハ警察署又ハ分署へ届出ヘキ旨開業醫へ無漏達スヘシ

訓令第七十八號

明治二十三年十一月二十一日

警察署

警察分署

郡市役所

町村役場

傳染病豫防心得別冊之通改正ス

但明治二十一年訓令乙第二十一號及本年訓令第五十九號ハ廢止ス

(別冊)

傳染病豫防心得書

傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村郡市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害トナルモノニシテ之ヲ豫防スルニハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルコト能ハス今ヤ郡市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シテ全聚落ノ生命財産ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市町村ニ傳染病者發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ示諭シ病家ハ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ充分ノ注意ヲ以テ豫防消毒ノ處置ニ疎虞遺漏ナカラシムルコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメントスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染ノ疑ヒアル雇人稼人等ヲ猥リニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラサルノ勢ヲナスコト其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ

方法モ其全効ヲ收ムルコト能ハサルナリ  
 以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及  
 フカ若クハ病性ノ急劇ナル虎列刺ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ縣ノ力ヲ以テ豫防ノ  
 方法ヲ務メサルヘカラス  
 此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ擧ケタルモノナレト  
 モ總テ傳染病ハ地方病トナリ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概テ數年若クハ數十年ヲ隔  
 テ、流行スルカ故ニ其流行セサル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思テ爲  
 スト雖トモ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ播殖蔓延スルモノナルヲ以テ平  
 常上地下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル等萬全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニ  
 シ住地ヲ乾淨ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地  
 ニ於テハ銳意上地下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ  
 成スヲ要ス

總 則

第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ  
 規約ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス  
 第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書  
 各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス  
 第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シ  
 タルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處

分チ怠ラサランコトヲ要ス  
 前項醫師ノ通知ニ接セサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察  
 官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如ク  
 ナランコトヲ要ス  
 第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ  
 豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病毒ニ汚染セルモノヲ取  
 リ集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス  
 第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若  
 クハ死屍、看病人、患者ノ居室其他病毒ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要  
 ス  
 第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬  
 器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス  
 第七條 市町村長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ豫防法ヲ周到ナラシメ又病況ト豫  
 防法實施ノ景況トヲ具シテ町村長ハ郡長ニ市長ハ知事ニ報告スヘシ  
 郡長前項ノ通知ニ接シタルトキハ豫防法ヲ普及セシメ又病況ト豫防法實施ノ景況トヲ  
 具シテ知事ニ報告スヘシ  
 第八條 市町村ニ於テハ何時ニテモ開院シ得ヘキ避病院ノ準備ヲ爲シ置クヲ要ス其人家  
 稠密ノ市街ニ於テハ市外ニ設置シ又村落ニ於テハ相當ノ家屋寺院ヲ以テ之ニ充ツル等

適宜タルヘシト雖トモ總テ人家ニ遠ク且往來ノ頻繁ナラサル場所ヲ選定スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ含ルガ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未タ散蔓セサル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ覆蓋ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ濯キ吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ濯キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ濯クコト

六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ小虫集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條

虎列刺發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘシ交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノ速

- ニ改修スルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘシ熟煮シテ用フルコト
- 五 總テ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト
- 第三條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳、又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ置キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ
- 第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ
  - 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖トモ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミヲ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ
  - 二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、係吏員、人夫等職務上要用アルモノ、外他ト交通ヲ制止スルコト
  - 三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト
  - 四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其區域内ノ清潔法等ニ注意スルコト勿

- 論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト
- 五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト
  - 六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒已ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト
  - 第五條 交通遮斷區域内若クハ會テ虎列刺流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒的清潔ヲ施行スルコトヲ要ス
    - 一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト
    - 二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テシテ撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
    - 三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リ大掃除ヲ爲スコト
      - 一 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト
      - 二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト
      - 三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト
  - 第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要

- 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚深シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
  - 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
  - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシムルモノトス

腸窒扶私

腸窒扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ合リ虎列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖彌蔓シ廣ク流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列刺ト畧ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布セラレタル以來全國十年間ノ患者三十萬餘死亡七萬餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚シキモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカラシムルヲ要ス

第一條 腸窒扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
- 五 患者用ノ便器ニハ覆蓋ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適宜ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 八 患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ヲ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト
- 九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セザレハ之ヲ用ヒ

サルコト

第二條 腸窒扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ

要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スル

ヲ要ス

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用

フルコト

三 茅溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ

速ニ之ヲ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク熱煮シテ之ヲ用フルコト

五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 腸窒扶私患者續々發生スルハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 茅溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行ス

ルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿

密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病勢大ニ腸窒扶私

ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ腸窒扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ

流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液混セサル患者ト雖トモ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑モ本病ハ腸窒扶私ト同シシ頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來全國十年

間ノ患者數殆ント二十萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢

ナナシ病毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清

潔チカメ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡

シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸窒扶私ニ於ケルカ如クナランコトヲ要ス

實布埜里亞

實布埜里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最モ險

惡ナリ抑本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用

セル衣服玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊

ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トシ而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本

病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埜里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシ

ムルヲ要ス

- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶チ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサレコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含嗽シ且患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ覆蓋チ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含嗽シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ルコト
- 六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ濯キ所定ノ便所ニ移スコト
- 七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條 實布埜里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守

ラシムルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
- 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
- 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト

第三條 實布埜里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
  - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家ニ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ禁ズルコト
  - 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルコト
  - 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ欠席ノ理由ヲ問フコト
  - 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルコト

五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト  
 六 放場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト

七 放場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳染ノ最モ迅速ナルモノナリ其一タビ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散蔓傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
  - 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ミニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
  - 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
  - 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
  - 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ濯キ所定ノ便所ニ移スコト
  - 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 第二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス但衛生組合ノ設アル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
  - 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
  - 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
  - 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト



第三條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ

要ス

- 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘 瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ含メルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ萬全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖トモ再三之ヲ反復セサレハ其効力全カラサルヲ以テ尙モ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ依ルニ保母、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキコト、ス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト

- 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ヘ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト

三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

四 患者自宅ニ於テ消毒看病人キ届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

- 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 六 患者ノ居室ニハ覆蓋ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ器物トナシ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落痂及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ藁飽屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト

- 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九 患者ノ玩具飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

- 十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行

フコト

十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防クコト  
 十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ  
 兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ラシムルヲ要ス  
 但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
  - 二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト
  - 三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ  
 且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒法

傳染痘毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラサルアリト雖トモ要スルニ生々播殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性状ヲ異ニシ傳染ノ景况一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ含マリテハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹窒扶病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室内ノ空氣

ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スルモノハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ依リ火力、熱藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用用法ヲ了得シ決シテ疎漏ノコトナカランコトヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚ク貴重ナラサル器ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 熱氣、附蒸沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱氣ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘク熱氣消毒器中ニ入レテ熱氣ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱氣ヲ周テ通シテ消毒スヘシ

熱氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖トモ要スルニ攝氏百度以上ノ熱氣ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ丸ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿テ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ

此装置タル甚タ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルチ得ヘシ而シテ其消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノトス  
 又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セサレハ消毒ノ効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五分  
 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚タ廣シト雖トモ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲナシ難キモノ例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光澤ヲ損シ 其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ欠乏セル場合ニノ昇汞水ヲ用フレハ危險ノ虞アル等ニ使用スヘシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レトモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後班點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造製織ノ家屋、貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス  
 本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ラントトキ要ス

- 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
- 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ

ヘシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ  
 本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其容解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞 一分 鹽酸 五分  
 九百九十四分

昇汞水ハ廉價ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ着色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス  
 本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ラス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲 乙 丙種ノ消毒ニハ「劑」ニ藥ナリ飲ビベカラズ「ト要記」スヘシ  
 丙 生石灰(十倍) 生石灰 一分  
 石灰乳(十倍) 水 九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺腸窒扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐出物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐出物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壊スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘシ用ニ臨ミ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水 即チ鹽化(二十倍)格魯兒石灰五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸 同量ノ水ニ溶解シタルモノ

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト同量ノ本品ヲ以テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ入ル溢流スルノ恐アルヲ以テ其糞便多量ナル場合ニハ其幾分ヲ他器ニ分テ各別ニ消毒スルヲ可トシ又本品ハ漆喰、金屬製器ヲ損傷スルノ恐アルヲ以テ糞池ノ周邊漆喰、又金屬製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取リ絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注下スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ但成ルヘク火葬スルヲ良シトス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周子ノ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸窒扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ少ナシモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水 此用量ハ最低度ヲ示シタルモノナレハ多キニ過クルハナシ 灌キテ能ク攪拌シ其周圍ノ地方ニモ周テ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ固ヨリ妨ケナシ